

多賀城市市民活動サポートセンター
令和２年度運営業務成果報告書

特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター

令和３年３月３１日

令和2年度運営業務成果報告書 目次

数字で見た令和2年度	1
令和2年度の主なトピック／出来事／新型コロナウイルス対応経過	2
I 令和2年度運営業務報告	
1 方針	
(1)3ヵ年(令和2～4年度)の施設運営方針	8
(2)令和2～4年度ロードマップ	11
2 令和2年度成果・課題	
(1)令和2年度成果・課題	12
(2)令和2年度実施事業一覧	15
3 運営状況	
(1)利用状況集計	
1)総利用件数・貸室利用率	16
2)利用団体の活動分野	17
3)利用団体の属性	18
参考-1:主な項目の利用状況推移(平成20～令和2年度)	
参考-2:情報関連業務利用状況(平成20～令和3年度)	
(2)相談対応実績	21
(3)情報提供	
1)団体情報ファイル	30
2)ウェブサイト・ブログ・ツイッター	33
3)たがさば文庫	34
(4)場の提供	
1)共同事務室入居団体インキュベート相談	35
2)フリースペース利用状況	36
(5)他団体・他機関との連携	
1)各会議・実行委員会への参加	39
2)他部署・他機関との連携事例	46
4 事業実施状況	
(1)地域の担い手育成事業	
1)雑貨市	49
2)いちから塾	60
3)自己分析と運営パワーアップ事業	66
4)連携の担い手となるためのヒアリング事業	74
5)「支える人材」との連携・育成事業	78
(2)自治会・町内会支援事業	
1)現状把握と多様な地域人材の参加促進事業	80
(3)連携による課題解決を進める事業	
1)連携の場づくり事業	89
(4)情報発信事業	
1)フリーペーパー「tag」発行	95
2)コロナ禍における市民向け情報発信事業	101
II 令和3年度事業計画	
1 令和2～4年度ロードマップ修正版	109
2 令和3年度事業計画	110
III 添付資料	111

数字で見た令和2年度

1. 総利用者数 のべ 15,520 人

令和2年3月2日～5月23日の一部休館、令和2年5月24日～10月31日の貸室フリースペース利用人数の制限により、前年度に引き続き、総利用者数は新型コロナウイルス感染拡大の影響がなかった平成30年度と比べ減少している。貸室利用人数は前年度比60%、印刷機利用件数は前年度比54%の利用にとどまった一方で、相談対応件数は前年度比88%、ニューズレター掲示件数は前年度比93%、ブログ訪問者数は前年度比84%と、コロナ禍でも情報の受発信等は継続している様子がうかがえる。また利用制限がなくなったあとは、徐々に利用は戻りつつある。

→詳細は16ページ「3 運営状況 (1)利用状況集計」を参照

2. 相談対応件数 のべ 363 件

→詳細は21～29ページ「3 運営状況 (2)相談対応実績」を参照

3. 配架情報総数 1,224 種類

→詳細は20ページ「3 運営状況 (1)利用状況集計 参考-2：情報関連業務利用状況推移 (平成20～令和2年度)」を参照

4. 34 本の企画を実施し、のべ 1,416 人、90 団体が参加 (共催事業も含む)

→詳細は49～108ページ「4 事業実施状況」を参照

5. TSCの支援であわせて 4 団体が立ち上げ・法人化に至る

→詳細は27ページ「3 運営状況 (2)相談対応実績 <市民活動相談の内訳> ●ステップ」を参照

6. 団体情報は 12 団体が増えて 2,192 団体

二市三町では 9 団体が増えて 316 団体

→詳細は30～32ページ「3 運営状況 (3)情報提供 1)団体情報ファイル」を参照

令和 2 年度の主なトピック

多賀城市市民活動サポートセンター（以下、T S C）は、平成 20 年 6 月の開館以来、地域づくりの拠点として N P O や自治会・町内会、生涯学習団体等市民活動の力づけを行うとともに、市民・企業・行政等による協働の地域づくりをサポートし、開館より 12 年が経過した。

令和 2 年度～4 年度 3 ヶ年の業務委託の 1 年目となる令和 2 年度を、主なトピックと出来事でもふりかえる。

1. コロナ禍における市民活動・地域活動の状況に沿ったプログラムを実施した

新型コロナウイルス感染拡大を受け、令和 2 年 3 月 2 日より始まった一部休館は、5 月 23 日まで継続。5 月 24 日より定員等の一部制限を設けて貸館を再開した。再開にあたっては、利用者のみなさんに基本的な感染予防対策や、利用後の消毒にもご協力いただき、安心して利用できる環境づくりに一緒に取り組んだ。

4 月～7 月にかけて、N P O、自治会・町内会、企業、支える人材に、コロナ禍での活動の状況や困りごと、工夫等に関するヒアリング・アンケートを実施。事業立案に反映させた。事業後には、N P O の運営改善に向けた動きや、自治会・町内会の具体的な動きがみられた。

2. Web を活用した情報発信を強化した

外出自粛の中で紙媒体を手にする機会が減少することを受けて、YouTube チャンネルの開設やインスタグラムを活用した情報の拡散といった新たな情報発信に取り組んだ。あわせて既存の媒体であるブログでは、コロナ禍の中で役立つ情報や、豪雨災害発生時には支援に関する情報を発信した。

また、市民活動・地域活動に活かしてもらおうと Zoom 講座の実施や、主催事業もオンライン参加を可能にするなど、コロナ禍をきっかけに参加の手段を増やす視点で取り組んだ。

あわせて、オンラインを活用した打合せや講座などに利用できるよう、全館 Wi-Fi 環境を整えた。

3. 具体的な課題に多様な主体で協力して取り組んだ

平成 30 年度実施の T S R 会議 Vol. 2、平成 31 年度のまちあるき企画など、多文化共生に関するテーマで取り組みを継続したことによって、今年度は市民活動団体・企業・市内公共施設等と連携した具体的・継続的な取り組みにつながった。

また、T S R 会議では、6 つのテーマで当事者・支援者が現状について話すことで、見えにくい課題を知り、多様な主体で考えるきっかけを提供した。実施後は支援の申し出等の相談にもつながっている。

令和2年度の主な出来事

令和2年

4月

- 2日 施設管理 印刷機入れ替え
- 6日 施設管理 新自動販売機設置
- 6日 視察 多賀城市新規採用職員研修「市民協働の取り組みについて」
- ～29日 施設管理 事務用ブース新規入居団体募集
- ～29日 施設管理 事務用ロッカー・レターケース
- 4月～5月 自治会・町内会へのヒアリング利用団体募集

5月

- 16日 施設管理 事務用ブース入居審査会
- 5月～6月 NPOへのヒアリング
- 5月～7月 企業へのアンケート・ヒアリング
- 5月～7月 支える人材へのアンケート・ヒアリング

6月

- 1日 掲載 河北新報夕刊 志民の輪 わたしの視点から「工夫しながら活動再開」

7月

- 6日～ 情報発信 令和2年7月豪雨支援情報をブログで発信
- 6・7日 施設管理 事務用ブースインキュベート相談会
- 18日 視察 みやぎNPOプラザ来訪対応
- ～27日 施設管理 事務用ブース新規入居団体募集

8月

- 9日 施設管理 事務用ブース入居審査会
- 29日 事業 活動はじめの一步 Zoom の使い方講座

9月

- 8日 視察 山形市
- 1日 事業 雑貨市 平成31年度参加団体へのアンケート調査
- ～14日
- 25日 事業 雑貨市 平成31年度実施の様子展示
- ～11月30日
- 26日 事業 多文化共生事業 地域交流サポーター養成講座【共催】

10 月

- 3 日 施設管理 全館 Wi-Fi 利用可能に
- 3 日 事業 多文化共生事業 地域交流サポーター養成講座【共催】
- 9 日 視察 山形市市民活動支援センター
- 9 日 事業 NPO法人いのちのパン交流会への参加
- 12 日 事業 出前いちから塾（東北学院大学講義）
- 23・29 日 事業 NPO・市民活動運営なんでも相談
- 31 日 事業 活動はじめての一步 Zoom の使い方講座
- 10 月～12 月 事業 フードボックス設置

11 月

- 1～21 日 利用者アンケート
- 7 日 事業 おらいの町内会新聞をつくるコッ
- 8 日 事業 多文化共生事業 外国人技能実習生と共に学ぶ防災【共催】
- 9 日 出席 東北学院大学講義
- 10 日 事業 出前いちから塾（多賀城高校キャリアセミナー）
- 16・23 日 事業 NPOパワーアップ広報相談会
- 27 日 事業 活動はじめての一步 Zoom の使い方講座

12 月

- 1 日 事業 NPOパワーアップ広報相談会
- 1～24 日 事業 クリスマス雑貨市（インスタグラム・展示・スタンプラリー）
- 5・19・20 日 事業 クリスマス雑貨市（たがさぽゲームセンター）
- 6 日 事業 NPO資金調達のはなし
- 7 日 掲載 河北新報夕刊 志民の輪 ふみだす info「手作り小物・菓子展示」
- 13 日 事業 Zoom 活用講座ステップアップ講座
- 13 日 事業 多文化共生事業 陶芸体験と交流会【共催】
- 19・20 日 事業 クリスマス雑貨市（販売会・ワークショップ）
- 23 日 掲載 河北新報朝刊「密避けクリスマス」
- ～25 日 施設管理 事務用ブース新規入居団体募集
- 26 日 事業 YouTube チャンネル開設

令和3年

1 月

- 10 日 施設管理 事務用ブース入居審査会
- 14・28 日 事業 小さなアクション講座（木曜コース）
- 16・30 日 事業 小さなアクション講座（土曜コース）

- 18日 事業 出前いちから塾（東北学院大学講義）
- 22日 事業 Tagajo Sustainable Relationship 会議 2020
- 23日 事業 データ de なにつすや？！おらいのまちをきいてけさいん！！
- 27日 施設管理 消防訓練

2月

- 17日 施設管理 13日発生地震の影響による断水発生のため、建物外水道で給水対応
～19日
- 18日 事業 3.11 企画展示
～3月31日
- 20日 施設管理 13時まで臨時休館（太陽光パネル点検のため）
- 2月 事業 雑貨市 出展団体事後アンケート

3月

- 6日 施設管理 事務用ブースインキュベート相談会
- 11日 事業 Zoom 活用出前講座
- 11日 掲載 河北新報社 YouTube 震災10年感謝のメッセージ多賀城版
- 13日 事業 NPOいちから塾
- 14日 事業 3.11 座談会
- 21日 利用者アンケート報告書ウェブサイトへアップ
- 25日 施設管理 コピー機入替
- 29日～ 施設管理 事務用ブース・ロッカー・レターケース募集

新型コロナウイルスの対応経過

新型コロナウイルス感染症の影響に関する宮城県や多賀城市の動き、T S Cの対応経過をまとめた。

	T S C	市	県	国
令和2年 4月1日（水）	臨時休館継続 3月2日（月）より貸室・フリース ペース利用不可			
4月3日（金）			緊急メッセージ （不要不急の外出自粛を4月4日 （土）から当面の間）	
4月7日（火）				7都府県に緊急事態宣言
4月9日（木）		第13回感染症災害対策本部会議 市内で1例目（県内35例目）の感染者 の確認により、施設貸出中止期間を4 月21日（火）までを5月10日（日）ま で延長が決定。（全額還付期間も同様） 開館時間については担当課ごと に要検討。		
4月10日（金）	開館時間について地域コミュニティ 課と協議を行う。貸館以外の市民活 動支援の機能を維持するため、開館 時間の維持を提案。			
	4月9日（木）決定事項を告知および 追加期間の貸室利用者へ電話連絡開 始。			
4月15日（水）	市とのミーティングにて、スタッフ の感染拡大防止に取り組むよう、地 域コミュニティ課から要請あり。地 域コミュニティ課に開館時間の維持 の提案文書を提出。			
4月16日（木）				緊急事態宣言対象区域が全都道府県 へと拡大
4月17日（金）	スタッフ出勤前検温開始	第14回感染症災害対策本部会議 緊急事態宣言を受け、5月10日（日） までは現状のまま一部休館を続ける 方針が決定。		
4月18日（土）	テレワーク、スタッフ2名体制試行開 始（公共交通機関利用、スタッフの 密状態のリスクを考慮）			
4月21日（火）			休業要請対象業種決定	
4月24日（金）			東北・新潟緊急共同宣言	
4月30日（木）		第17回感染症災害対策本部会議 市内および県内の感染状況を踏ま え、市内公共施設の現状の対応を、5 月31日（日）まで延長することを決 定。		
5月1日（金）	地域コミュニティ課より一部休館を5 月31日（日）までの延長の連絡あ り。館内・ブログ等での告知開始。 還付連絡の準備開始。			
5月4日（月）				緊急事態宣言延長を発表
5月5日（火）			緊急事態宣言延長の対応について発 表	
5月7日（木）			休業要請解除	
5月14日（木）				宮城県を含む39県の緊急事態宣言解 除
5月15日（金）		第19回感染症災害対策本部会議 緊急事態宣言解除を受け、市内公共 施設の今後の対応を決定。T S Cは5 月24日（日）より当面の間、一部利 用制限を付して開館が決定。		
5月18日（月）	地域コミュニティ課と一部利用制限 の内容を検討			
5月19日（火）	館内・ブログ等での告知開始			
5月21日（木）				3都府県の緊急事態宣言解除
5月24日（日）	一部利用制限を付して貸館再開 会議室利用人数定員のおおむね半数/ 館内飲食控える/不特定多数が参加の イベント利用不可/フリースペース利 用前受付 （館内消毒、窓口受付方法、会議 室・フリースペース、印刷機配置の 変更を検討・実施）			
5月25日（月）				残りの5都道県の緊急事態宣言解除
5月26日（火）			7月31日（金）までの外出・職場・イ ベント開催・施設の段階的緩和の目 安開始	
6月4日（木）	地域コミュニティ課から、利用制限 緩和の打診あり。主任会議で内容検 討。			
6月8日（月）		第20回感染症災害対策本部会議 宮城県における「新しい生活様式」 の定着等を前提とした公共施設およ び事業の段階的緩和の対応について 協議。T S Cは6月19日（金）～7月 31日（金）まで、施設内飲食可と なった。		

6月10日（水）		地域コミュニティ課より「新型コロナウイルス感染症対策に係る地域コミュニティ課所管施設運用ガイドライン」（令和2年5月18日付）が共有される。		
6月19日（金）	施設内飲食可となる			
7月29日（水）		第24回感染症災害対策本部会議 8月1日（土）以降の公共施設および事業について協議。T S Cは8月1日～31日まで変更なし。		
7月31日（金）			8月1日（土）から予定していたイベント開催の人数制限の規制緩和を見送り決定	
8月31日（月）		第25回感染症災害対策本部会議 9月1日（火）以降の公共施設および事業について協議。T S Cは9月1日～30日まで変更なし。10月1日以降の対応について、国・県が示す「催物の開催制限等」の内容に変更がなく期間が延伸された場合は、期間をそれに合わせて延伸することとなった。		
9月16日（水）			仙台市および2市2町に緊急の協力要請発表	
9月17日（木）	印刷機を2階ギャラリーから印刷作業室へ戻す（換気扇修理完了に伴い）			
9月18日（金）		第27回感染症災害対策本部会議 10月1日（木）以降の公共施設および事業について協議。T S Cは10月1日～31日まで変更なし。	仙台市および2市2町はじめ県民に緊急警告発表	
9月19日（土）			催物の開催制限（収容率）緩和	
10月30日（金）		第28回感染症災害対策本部会議 11月1日（日）以降の公共施設および事業について協議。T S Cは利用制限内容から「貸室の利用人数を定員の概ね半数とする」を削除。		
11月1日（日）	会議室の定員が通常通りとなる			
令和3年 1月8日（金）				1都3県に緊急事態宣言（～2月7日）
1月9日（土）			特定都道府県への不要不急の移動を避けるよう要請（～2月7日）	
1月14日（木）				緊急事態宣言2府5県追加（～2月7日）
2月2日（火）				緊急事態宣言10都府県延長を決定（～3月7日）
2月8日（月）				緊急事態宣言栃木県解除
3月1日（月）				緊急事態宣言6府県解除
3月5日（金）			リバウンド防止策の協力など要請（～4月30日）	緊急事態宣言1都3県延長を決定（～3月21日）
3月18日（木）			独自の緊急事態宣言（～4月11日）	
3月19日（金）		県の緊急事態宣言に関する市長緊急メッセージ		
3月22日（月）				緊急事態宣言解除
3月26日（金）		県の緊急事態宣言に関する市長緊急メッセージ		

○新型コロナウイルスを理由とした使用取消件数
使用取消201件　うち還付198件　（4～6月受付分）

- T S Cの対応
- ・手指消毒用アルコールの設置
 - ・非接触型体温計の設置
 - ・換気の徹底
 - ・定期的な消毒

- 令和3年3月末時点での利用者へのお願い
- 利用制限について
- ・不特定多数が参加するイベントでの利用はご遠慮ください。
 - ・フリースペースは利用前に1階で受付してからご利用ください。
- 感染拡大の防止のために
- T S Cへの来館や各団体で活動を行う際は、感染拡大防止のために下記へのご協力をお願いいたします。
- ・マスク着用の徹底
 - ・手の消毒（入口にアルコール消毒液を設置しています）
 - ・体調不良や熱がある際の利用はご遠慮ください
 - ・密閉・密集・密接を避けた活動（換気を行い、人と人の間隔を空け、間近での会話を避ける）
 - ・主催団体の方は、不特定な方の利用とならないよう、参加者の連絡先等の把握をお願いいたします。
 - ・館内で飲食する場合は、対面を避け、周囲との距離をとること。※電気ポットや茶器等の貸出は休止します。

エントランスの感染対策



I

令和 2 年度運営業務報告

I -1 方針

(1)3ヵ年（令和2年度～4年度）の施設運営方針

令和2年度～4年度の3ヵ年の業務委託に際し、施設運営方針を以下のように定めた。この方針に基づいて事業立案や運営を行っている。

T S Cが目指す多賀城のまちの姿

- ・ 共通する課題や手段ごとに、自治会・町内会、N P O、企業、学校、行政等のさまざまな主体が連携している。
 - ・ さまざまな年代の方が、多様な方法で地域に関わっている。
- それによって、防災、高齢者、障がい者、子育てなど、地域のさまざまな課題が自治の力によって解決されている。

3年後（令和4年度末）の姿

5つ程度の現状の枠を超えた動きが出ている。

複数の動きでは、成果が見え始めていることにより、新たな連携が生まれたり、成果が出ている動きに他の主体も参加し始めたりしている。

T S Cの役割

地域の自治力を高めること

取り組み

(1) 地域の担い手の育成

○市民

- ・ 社会課題・地域課題や市民活動・地域活動に関心を持つ市民を増やす。
- ・ 想いを持つ人が活動に踏み出せるようにする。

→【事業案】

- ・ 市内で取り組まれているさまざまなプロジェクトの見本市を開催し、地域へのさまざまな関わり方を示すとともに、想いやスキルを持った方の参加のきっかけの場をつくる。
- ・ 地域の課題に見える化し発見する力を育成し、担い手となる人たちを掘り起こす。
- ・ 雑貨市
- ・ N P O いちから塾

○NPO

- ・自団体の強みを知る
- ・取り組んでいる課題のことを企業等に伝えられる
- ・課題設定、課題解決のプロセスが描ける

→【事業案】

- ・情報発信力強化
- ・NPO自らが、課題を見える化し、共感を得て、多様な参加を得られるような力づけを行う。

○自治会・町内会

- ・運営課題解決のためのサポート
- ・住民の関わり開発のサポート

→【事業案】

- ・各自治会・町内会が持つ課題やノウハウを共有する場をつくる。
- ・自治会・町内会自らが、課題を見える化し、共感を得て、多様な参加を得られるような力づけを行う。
- ・事例ポイント集の作成
- ・地区の話し合いのサポート

○企業

- ・地域を知る
- ・NPOを知る
- ・地域貢献活動に取り組む

→【事業案】

- ・NPOいちから塾
- ・市内で取り組まれているさまざまなプロジェクトの見本市を開催し、地域へのさまざまな関わり方を示すとともに、想いやスキルを持った方の参加のきっかけの場をつくる。

○支える人材（行政等）

- ・行政、地区公民館、地域包括支援センターなど、市民の活動に関わるスタッフの支援力を高め、支援の環境を強化する。

→【事業案】

- ・自治力を高めるために必要なスキルを学んだり、お互いに協力できるような関係づくり
- ・NPOいちから塾

(2)連携による課題解決を進める

- ・自治会・町内会だけでなく、地域を構成する一員である企業（事業者）やテーマごとに専門性を持って活動するNPOをつなぎ、連携を生み出す。

→【事業案】

- ・連携を促す場づくり

- ・伴走型支援

(3) 情報発信

- ・上記内容を発信する。

→【事業案】

- ・月刊フリーペーパー「tag」発行

(4) 運営主体をひろげる

- ・他主体との連携を進める。

運営上の工夫

- 主催事業において要約筆記や託児が受けられたり、多言語で対応できる状況を整備し、あらゆる方への参加の機会の保障を進める。
- T S Cの役割を広めるために、市内外のイベントへの出展は積極的に行う。イベントの特性にあわせたプログラム開発に努め、よりわかりやすく市民活動を伝えていく。
- 限られたスタッフ数で効果を最大限に発揮するために、事務の効率化を図る。

大項目	対象	現状(○)と課題(●)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和4年度末に 目指す姿
地域の 担い手の 育成	市民	○市民活動やボランティアを体験する場をつくることができた ○事業参加をきっかけに、課題解決につながるアクションを起こした人が増加し、またコミュニティも生まれた ○市内外のイベントに出展し、市民活動への理解を広めることができた ●TSCの認知度が低く、また市民活動に興味関心のない人の割合が高い	・地域課題を考える場に参加する ・現在活動している方の事例から学び、活動の入り口を見つける			◎社会課題・地域課題や市民活動・地域活動に関心を持つ人が増えている ◎多くの市民が、何らかの形で地域での活動に関わっている
	NPO	○情報発信の支援に重点を置き、講座などの成果を活かした団体が多かった ○団体運営に関する相談が高い割合を占めるようになっている ●担い手不足、資金調達などの課題を持つ団体が多い	・自団体の強み、弱みを分析する力を高め、実際に分析を行う	・力を借りたい人や団体に自団体のことを発信する ・団体運営力のアップを図る		◎団体の強み、弱みを自己分析し、発信できている ◎連携の対象として、信頼感が増している
	自治会・町内会	○課題を把握するとともに取り組み事例の収集ができた ●自治会・町内会活動の担い手が不足している	・自分の自治会、町内会の現状を知る ・地域の現状や未来について、地域の多くの人が参加できる体制を整える ※TSCとして制度改革後の地域の現状を把握している、関わり方が見えてきている	・勉強会を通して、地域の課題、今後ありたい姿やそのためのアクションを考える ・アクションのために必要なスキルや知識を学び、実践につなげる	・これまで考えたこと、学んだことを実践に移し、課題の解決につなげる ・他の主体と連携してのアクションやプロジェクトを実施する	◎多様な関わり方による事業が生まれている ◎いろいろな人の小さな力を集めて課題に向かっている ◎運営課題を解決できている
	企業	○課題を把握するとともに取り組み事例の収集ができた ○調査をベースにTSCとの接点が増えた	・知る機会、連携に加わる機会をつくる			◎地域の課題解決の場面に参加している
	支える人材 ※包括支援センター、公民館、行政など		・自治会、町内会支援の方向性を共有する ・自治とは？を見つめ直す ・地域の取り組みに伴走する	・伴走を行うにあたって足りないスキルや知識に気づく	・伴走に必要なスキルや知識を学び、実践の場で活かす	◎自治支援の方向性が共有され、連携ができている ◎支援者が、地域や市民からの相談に応じることができている
連携による 課題解決を 進める		○さまざまな主体が設定したテーマについて一緒に考え、課題解決に向けた基盤づくりができた ○企業とNPOとのマッチング事例が生まれた ○第六次総合計画の基本的姿勢の中に、「市民協働を推進する」ための計画であると明記されている	・地域の今(特に自治体・町内会から出るテーマ)を多様な主体で共有し考える ※可能であれば、「TSR Vol.3」の実施も視野に入る	・地域の今(特にNPOの取り組み)を多様な主体で共有し考える	・連携事例の報告および今後の取り組みを多様な主体で考え、発信する ・取り組みのまとめ冊子作成？	◎多様な主体による連携が進んでいる ◎各主体が、連携のよさを感じている
情報発信		○「tag」紙面をリニューアルした ○ウェブサイト、ブログの月平均訪問者数が増えている	・各プロジェクトや連携に関する発信を行う			◎地域づくりについて知る機会が設けられている
TSC 運営主体を 広げる			・他主体との連携を進める			
備考			・区長制度廃止、新たな自治会・町内会運営へ ・小学校新学習指導要領実施 ・国勢調査 ・東日本大震災から10年	・第六次総合計画の始まり(～令和12＝2030年度) ・中学校新学習指導要領実施 ・市制施行50周年	・高等学校新学習指導要領実施(2024＝令和6年度まで、年次進行で実施)	・東北学院大学工学部が移転(2023＝令和5年) ・多賀城創建1300年(2024＝令和6年)

I-2 令和2年度成果・課題

(1) 令和2年度成果・課題

＜施設運営方針に沿った成果・課題＞

3ヵ年（令和2年度～4年度）の施設運営方針に沿って、事業実施（15ページの「(2)令和2年度実施事業一覧」参照）も含めた令和2年度のTSC運営全体の成果・課題は以下のとおりである。

1) 地域の担い手育成

【成果】

- 雑貨市では、多賀城市立図書館・蔦屋書店との共催・協力や、インスタグラムを新設することで、市民活動に関わる機会がない方に知ってもらえる機会を提供することができた。
- 小さなアクション講座では、自分の興味関心や得意なことに、コロナ禍での困りごと・大変なこと（課題）の視点をプラスして、これから取り組めそうなことを考えることができた。また、NPOいちから塾でNPOの基礎知識を得ることで、活動開始に向けて動き出す方が出ている。
- NPO向けの運営に関する相談会では、個別の課題を深掘りすることで新たな視点で団体を直すことになり、人材の発掘や広報ツールの開発などの具体的な改善につながった。
- 企業向けのアンケート調査では、コロナ禍の影響を受けながらも、社会貢献活動に前向きな回答が半数以上寄せられ、地域資源の掘り起こしにつながった。
- 町内会向けの事業を通して、町内会役員が地域課題への興味関心を持ち、3町内会が新たに新聞発行に取り組むなどの事例が生まれるとともに、他の町内会のノウハウや、多世代、他分野の視点で地域に関わるきっかけを提供することができた。

【課題】

- 平成31年度「多賀城市まちづくりアンケート」において40.7%の方が「市民活動、NPO活動、ボランティア活動などに今後参加してみたい」と答えた。活動に参加してみたいと思っている層の参加につながるよう、情報発信と掘り起こしの工夫が必要である。
- 事務用ブース入居団体向けのインキュベート相談や通常の相談対応、事業とで、一貫したサポート体制をさらに強化する必要がある。
- 町内会役員の気づきや新たな動きを、町内会活動に関わったことがない方に広げたり、他の町内会や他分野との取り組みにつなげていくことが必要である。

2) 連携による課題解決を進める

【成果】

- 平成30年度実施のTSR会議Vol.2「だれも取り残さない社会」、平成31年度の実践的な取り組みを受け、市民活動団体・企業・市内公共施設等と連携した大代地区での多文化共生事業に

つながった。

○TSR会議では、当事者や市民、NPO、企業、行政職員などが参加し、これからの実践に向けてまちの課題を共有することができた。

【課題】

○課題を知る場であるTSR会議から、課題解決に向けて各主体が動き出せるような場づくりをしていく必要がある。

○課題解決に向けた持続可能な関係性を構築するとともに、市民に広く地域課題を知ってもらう機会を増やしていく。

3) 情報発信

【成果】

○紙媒体の「tag」に加え、YouTubeチャンネルの開設やInstagramを活用することで、コロナ禍の中でも市民活動に関する情報が得られる環境を作ることができた。

○Web会議ツールの使い方講座によって、コロナ禍で活動する手法を広めることができた。

【課題】

○オンラインツールはこれまで活動に参加していなかった層の参加を促進するメリットがあるが、情報弱者を生む可能性というデメリットもあるため、参加の機会を多様化するという視点をもつ必要がある。

＜各属性への支援＞

TSCと各属性への支援は以下のとおりである。

【市民活動団体】

- コロナ禍において活動状況をアンケート・ヒアリングし、団体のニーズに沿ったテーマで講座や個別相談会を行うことで、運営に関わる人材の確保や広報ツールの開発につながった。
- 事務用ブースインキュベート相談と事業を連動させることによって、より効果的で継続的なサポートを行うことができた。
- 相談対応を通して団体の立ち上げ支援に取り組んだ。令和2年度は4団体が活動を開始した。

【自治会・町内会】

- コロナ禍における活動の状況をヒアリングし、行事ができない中で情報発信の必要性から講座を実施したり、防災をテーマにした座談会を実施することで、新たな視点で地域をみたり、多世代・他分野に視点を向けることにつながった。

【企業】

- コロナ禍の影響と社会貢献活動に関するアンケート・ヒアリングを行い、社会貢献活動に関する相談対応につながった。

【学校・学生】

- 出前いちから塾を高校・大学で実施し、NPOの基礎や活動を知る機会を提供した。

【行政】

- 行政各課が実施するネットワーク型会議や実行委員会に参加し、各課、市内活動者等といった各主体と連携して地域課題について考えることができた。

【生涯学習団体】

- コロナ禍での活動休止が多く、相談件数が減った。

(2) 令和2年度実施事業一覧

大事業	小事業	主な目的	概要	主な対象	成果目標	実施目標	4～3月期実績	担当者	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	
地域の担い手育成事業	1 雑貨市	●市民活動を知らない方やこれまで関わったことのない方に、団体の活動内容・販売している商品の紹介展示や販売・ワークショップを通して市民活動に触れ、社会課題や団体の活動を知ってもらう。 ●雑貨市を毎年楽しみにしているリーダーの方やこれまで雑貨市のボランティアに参加していただいた方に、出展団体の現状を知ってもらうことで、イベント時だけでなく普段の暮らしの中で、団体の活動に参加する・商品を購入するなどの行動を起こすきっかけにしよう。	●雑貨市などのイベント時以外でも団体を応援できる情報を届ける。 ●コロナ禍でも感染予防対策をしながらその人のよって選べる楽しみ方を用意して雑貨市を開催する。	●雑貨に関心を持つ20～40代。 ●SNSを利用している学生から若者層、これまで雑貨市のボランティアに参加した若者。	●市民活動団体や活動、地域・社会の課題を初めて知る人の増加。 (SNSへのアクセス数と閲覧者へのアンケートによる) ●団体に初めてアクセスする方が増えるなど変化がみられる。 (団体への事後アンケートによる)	●2019年雑貨市の写真展 ●たがさほ内で団体紹介・商品の展示 ●Instagram開設 ●多賀城市立図書館でワークショップ ●高屋書店 多賀城市立図書館で販売会	●平成31年度クリスマス雑貨市出展団体アンケート実施 回収:32団体 ●平成31年度雑貨市の写真展 ●雑貨市開催 ・団体紹介展示、団体作品・商品の展示会 ・Instagram開設 ・スタンプラリー ・多賀城市立図書館でワークショップ ・高屋書店・多賀城市立図書館で販売会	◎金子 小林 齋藤 (中津)					事業立案	●団体事前アンケート ●修正立案 ●プリズへ展示			●雑貨市		●団体事後アンケート		
	2 いちから塾	●自分も含めた身の回りの「困った」「大変だ」などの想いを共有し、「ほっとけない」「何とかしたい」こと(＝課題)の気づきを促す。 ●課題に対して、自分に行えることや取り組みたいことを考え、アクションにつなげる。	①日頃考える課題感を話してもらい、小さなアクションにつなげる講座 ②NPO基礎講座 ③出前講座 ④NPO基礎講座の映像化	何かしたいと思っているが、まだ一歩を踏み出せていない方	●参加者の8割が、自分も含めた身の回りの「困った」「大変だ」などの想いを言葉にすることを通し、自分なりの「課題」を見つけることができる。 ●参加者の5割が、見つけた「課題」に応じて、何らかのアクションを起こすことができる。	●小さなアクション講座 2コース実施(各2回連続講座) ●NPOいちから塾1回実施 ●出前いちから塾3回実施	●小さなアクション講座 計5名参加 ●NPOいちから塾 8名参加 ●出前いちから塾 ・東北学院大学講義「地域の課題Ⅱ(地域課題版)」:9名参加 ・多賀城高校「社会人講話」:11名参加 ◎成果目標に対応する実績 ・「自分なりの課題を見つけること」については、小さなアクション講座参加者についてはそれぞれできていた(達成率100%/講座の様子やアンケートより)。 ・「課題に応じたアクションを起こすこと」については、年度末時点では1名にとどまっている(達成率8%/講座後の様子より)。	◎渡辺 浅野 奥村 勝井 (中津)					事業立案		●12 出前 学院大 ●10 出前 多賀城 高校		●14・28 (木曜) ●16・30 (土曜) 小さなアクション講座		●13 NPO いちから塾		
	3 自己分析と運営パワーアップ事業	●地域で活動する団体が、自団体の強み・弱みを分析する力を高め、団体の運営課題を明らかにし解決する力をつけ、より効果的に活動できるよう促す。 ●コロナ禍によって変化を求められる団体の運営面や活動のサポートをし、今後の活動のモチベーション維持、継続につながるきっかけをつくる。 ●団体の運営や活動に必要な情報を提供し、活動の幅を広げる力をつける。	①自団体の強み・弱み分析の伴走型相談会 ②NPOヒアリングアンケートによってできたニーズに対応する運営力アップ伴走型講座・相談会 ③運営サポートの一つ情報提供となる、市民活動お役立ち情報の作成	NPO	●講座・相談会実施後、団体が課題解決に向けてのアクションを起こしている。 ●団体の課題に合わせた届けたい相手に、必要な情報を届けることができる。 ●お役立ち情報を活用し、新しい手法を取り入れながら、これまでの課題の解決につながっている。	●団体の運営状況を把握する相談会1回 ●運営に役立つ相談会・講座2回 ●活動お役立ち情報の作成 5テーマ	●コロナ禍でのNPO・市民活動団体アンケートによる、団体活動の現状調査。ヒアリングも実施。回収:42団体(送付46団体) ●NPO・市民活動運営なんでも相談会 参加:3団体・29日(木)1団体参加 ●広報のプロ林田さんの広報相談会へ伝えるから伝わるに～(※オンライン) 参加:7団体 ●知って広がる！NPO資金調達のはなし 参加:7名参加 ●(新)市民活動お役立ち情報の作成 ①NPOってなんだろ②市民活動のはじめかた③情報発信/インターネットを活用しよう	◎西條 川口 (中津)		ヒアリング	ヒアリング	事業立案		●23・29 インキューベート ●16・23 NPO広報相談会 ●1 NPO広報相談会 ●6 資金調達講座				●お役立ち情報完成			
	連携の担い手となるためのヒアリング事業	●企業に地域の課題を知ってもらうこと ●企業のもつ課題も地域の課題であることを知る	企業の資源と課題についてのヒアリング	企業	●企業の資源や課題の発掘、取り組みを知り、発信する。 ●他セクターとの連携を視野に資源を提供する。	なし	●コロナ禍での多賀城市に事業所をおく地域貢献アンケート 回収:46(送付260) 可能な企業へのヒアリングも行った。			アンケート	アンケート	集計 個別ヒアリング									
	個別に事業は実施せず (支え合い実行委員、災害公営住宅ミーティング、施設情報交換会等の場で各主体の状況把握を進める) 次年度以降の想定 「地域に接する機会が多い地域包括支援センターや公民館の課題の深堀やファシリテーションスキルの向上」「行政職員がNPOの現場で課題や多様な活動を学ぶ機会の創出」			支える人材 (行政・各機関)	なし	なし	●市内公共施設や機関に対し、アンケートおよびヒアリングを実施。 ●住民主体の地域づくりを広げる事業実行委員会への参加 ●被災地域支援関係ミーティングへの参加 ●施設情報交換会への参加			アンケート	アンケート ヒアリング	ヒアリング									
自治会・町内会支援事業	4 現状把握と多様な地域人材の参加促進事業	●自治会・町内会が自身の地域を見直したり、他地域を知ることで、地域の現状を把握し課題や魅力を明らかにする。 ●より暮らしやすい地域として継続していくため、町内会活動等の地域活動に関わる人材を発掘し、地域の担い手不足を解消する。	①ヒアリング ②年代別人口割合推移グラフの揭示 ③町内会発行の新聞作成ワークショップ ④人口割合推移から地域を考えるワークショップ	自治会・町内会	●自分の住む地域の現状を把握し、地域の課題や魅力に気づく市民(特に町内会長や役員)を30名生む。 ●町内会活動等の地域活動に関わる人材を3名発掘する。	●自治会・町内会に関わるワークショップ 2回	●コロナ禍での活動についてヒアリング ●年代別人口割合推移グラフや昭和時代の地域写真・町内会新聞を館内掲示・展示実施 ●「おらいの町内会新聞のつくり方講座」参加者 参加:12名(5団体) ●「データdeなにすや?講座」参加:9名(8団体) ●「座談会:3.11その時または60年これからのまちを考える」参加:17名(11町内会+1市民団体等)	◎奥村 齋藤 (棚田)	ヒアリング ①	ヒアリング ②		事業立案				●7 新聞講座 ●23 人口構成WS		●14 311座談会			
連携による課題解決を進める事業	5 連携の場づくり事業	●NPO、市民、企業、自治会・町内会等の多様な主体が地域や社会の課題を考え、連携して解決する場が主体的につくられよう促す。 ●地域のさまざまな主体が身近な地域のことを考える場がつけられるよう促す。	①各セクターの様々な団体が互いの取り組みを知り、関係を深める場の設定(TSR) ②課題解決に向けた実践的な取り組み ③これまで事業を通じて生まれた、各セクターの活動を持続可能な関係性をつくるための支援	NPO 市民 自治会・町内会 企業 支える人材 (行政・各機関)	●各セクターが集まり、課題に対しての取り組みや場が生まれること ●課題解決へ向けた持続可能な関係性を構築する ●市民、自治会・町内会が自分たちの住んでいる地域の課題を知り、当事者の声を聞き、地域の取り組みに活かすこと など	●各セクターで課題を深める場(TSR) 1回 トーク・ワークショップ ●課題解決に向けた実践的な取り組み 随時 ●昨年から継続の関係を深める場 随時 ・多文化共生の取り組み ・食の取り組み	●TSR会議(オンライン開催) 参加:80名参加+市役所 ●多文化共生事業(共催) 1)外国人技能実習生との交流サポーター育成講座(全2回) 参加:34名(①16名 ②18名) 2)防災研修 参加:70名 3)陶芸体験と交流会 参加:36名 ●困窮者への支援(参加) 1)多賀城フードバンク推進交流会 参加:30名 2)フードボックス設置 10～12月 米、調味料などをNPO法人いのちのパンへ寄贈	◎川口 西條 (中津)				事業立案	□ 26 多文化講座 □ 3 多文化講座 □ 8 多文化防災 □ 13 多文化陶芸 ■ フードボックス				●22 TSR				
情報発信事業	6 月刊フリーペーパー「tag」発行	市民が地域づくりについての幅広い情報を得られる環境を整える。	①情報紙「tag」発行 ・4月発行号～6月発行号・9月発行号までは昨年度と同様にA4表裏2ページでの発行を行う。 ・それ以降は12月・3月と3か月ごとにA3見開き4ページでの発行を行う。	活動者 潜在的活動者 無関心層 受益者	「tag」を通してアクションを起こす市民(あるいは団体)を計8件生み出す。	tag発行(6回)	●tag88, 89, 90, 91, 92, 93号発行済	◎小林 勝井 (渡辺)	●88号 発行	●89号 発行	●90号 発行		●91号 発行			●92号 発行			●93号 発行		
	7 コロナ禍における市民向け情報発信事業	●コロナ禍、新しい生活様式の中でも市民が市民活動の情報を得られる環境を整える。 ●コロナ禍、新しい生活様式の中でも市民が市民活動に参画する機会を整える。	①Zoomを活用したオンラインでの市民活動の環境整備。 ②動画による、活動のノウハウ、団体の情報の発信。	活動者 潜在的活動者 無関心層 受益者	●60名の市民がTSCの動画コンテンツに関心を示し、定期的に情報を得られるようになる。 ●30名の市民が手法としてWeb会議等のオンラインツールを活用できるようになる。	●Zoom活用講座 基礎講座3回 ステップアップ講座2回 出前講座 1回 ●動画発信 ・ノウハウ2本 団体情報4本	●Zoom活用講座 基礎講座 参加:19名(①10名②6名③3名) ●Zoom活用講座 ステップアップ講座 参加:4名 ●Zoom活用講座 出前講座 参加:4名 ●動画発信 ・YouTubeチャンネル開設 登録者数:18名 団体情報動画公開 5本	◎棚田 金子				事業立案	●29 Zoom講座 ●31 Zoom講座 ●27 Zoom講座 ●26 チャンネル開設・団体情報動画公開 ●13 Zoomステップアップ		●19 団体情報動画公開 ●15・19 団体情報動画						

□: 共催等

※新型コロナウイルス感染症拡大の影響を考慮し、3か月のスパンで事業内容を検討し、見極めや修正を行っていく。

4, 5月…ヒアリング
6月…企画立案、オンラインで行うなどの方法の整備
7月～実施
9月…見極め、修正など

I-3 運営状況

※新型コロナウイルス感染症拡大防止のために、令和2年4月1日(水)～5月23日(土)の期間、一部休館となった。

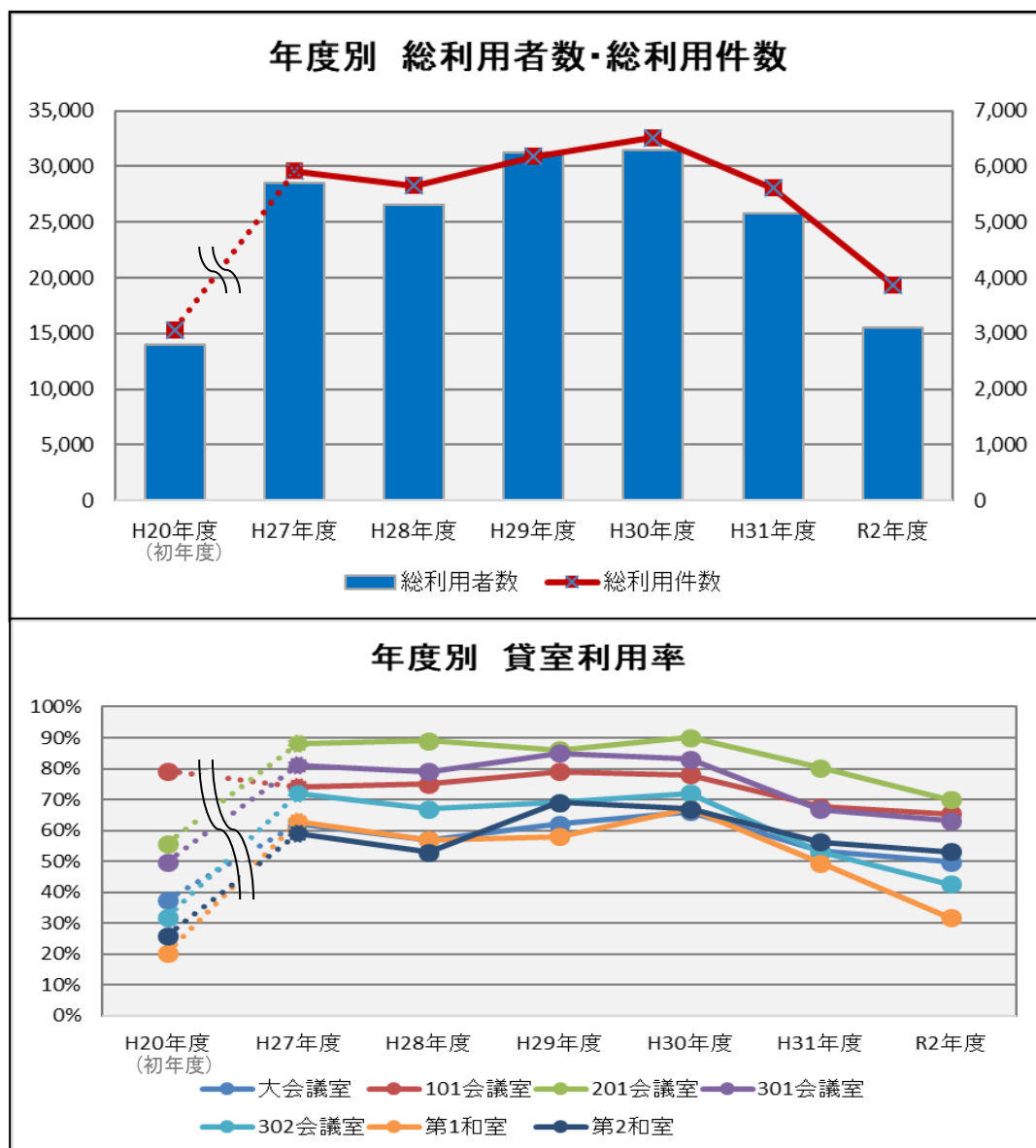
(1) 利用状況集計

1) 総利用件数・貸室利用率

令和2年度は総利用者数 15,520 人（前年度比 60.3%）、総利用件数 3,878 件（前年度比 69.1%）となっており、ともに利用が減少した前年度を更に下回った。その原因として、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、前年度3月から継続していた一部休館が5月23日（土）まで延長となったことが挙げられる。

さらに、新型コロナウイルス感染症の収束見込みが立っていないことから、定期的に利用している団体の中には活動休止や活動参加者が減少しているところがある。また、今年度の新たな傾向としては、総会などの会議を書面の配付を以てみなし開催としたり、オンライン会議システムの活用が進むなど集まらずに活動を行うケースも出てきている。同様に当センター主催事業もオンライン開催や市内の他施設との共同開催などの対応を余儀なくされた影響もあり、これらも利用件数、利用者数の減少に影響していると考えられる。

貸室の利用率に関しても、上記の理由によりさらに減少し、前年度の 73.2%にとどまった。



※午前・午後・夜間の貸出区分のうち、1日1区分以上利用している場合を利用率 100%としている。

※開館を再開した5月24日以降の利用実績で利用率を計算している。

2) 利用団体の活動分野

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー

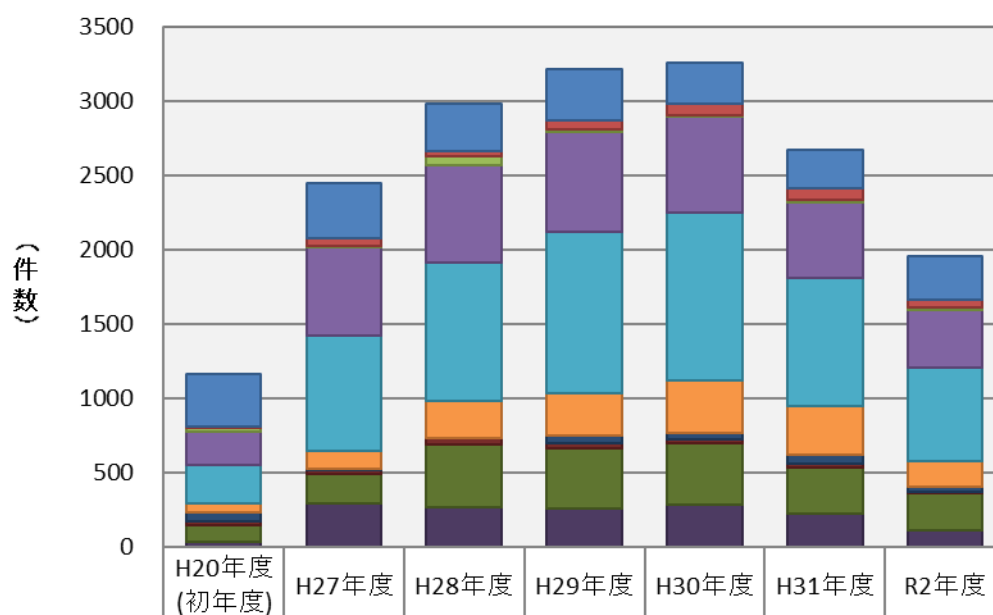
事務用ブース利用者の利用票提出および印刷機利用に基づく利用団体の活動分野

令和2年度は利用件数が1,952件と前年度に引き続き減少した（前年度比：716件減）。利用件数が大幅に減少した主な理由としては、新型コロナウイルス感染症の拡大のため一部休館となり、印刷機利用など一部機能のみ利用可能という状況であったことが挙げられる。5月24日（日）より制限を付して開館を再開したが、なお活動の自粛を続ける団体もあった。

利用団体の中で利用が多い分野は順に「子ども・社会教育」、「文化・芸術」、「まちづくり」、「医療・健康・スポーツ」となっている。「子ども・社会教育」「文化・芸術」には生涯学習活動やサークル活動の多くが含まれるため、TSCの分野利用の中で多くなる傾向がある。また「まちづくり」については、自治会・町内会の印刷機利用によるものが多くなっている。

利用が少ない分野としては「国際交流・協力」が挙げられ、前年度より減少している。しかし、TSC以外の場所で他団体と共同でイベントや講座を開催した団体もあるなど、活動は継続している。

年度別 利用団体の活動分野利用状況



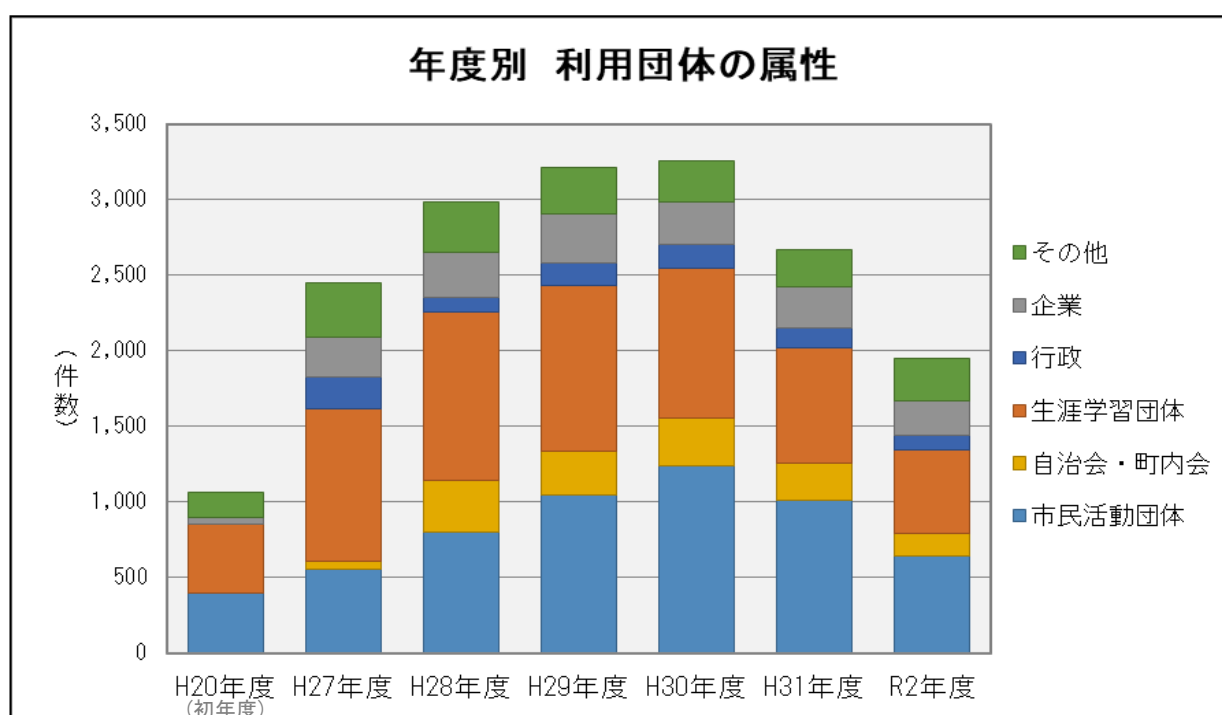
■その他	355	372	319	342	270	258	288
■人権・ジェンダー	13	52	36	58	76	78	53
■環境	25	6	60	22	11	15	15
■文化・芸術	221	597	654	673	644	506	388
■子ども・社会教育	263	771	927	1081	1131	861	629
■医療・健康・スポーツ	56	121	250	284	353	331	172
■市民活動支援	58	11	3	51	42	61	35
■国際交流・協力	32	21	39	35	30	25	8
■まちづくり	107	199	428	409	411	304	254
■福祉	37	296	264	257	285	229	110

3) 利用団体の属性

貸室、情報サロン、交流サロン、ギャラリー、共同事務室の利用票及び印刷機利用に基づく利用団体属性

市民活動団体 : 646 件 生涯学習団体 : 553 件 企 業 : 225 件
自治会・町内会 : 145 件 行 政 : 100 件 その他(個人など) : 283 件

利用団体の全件数は前年度より減少し 1,952 件(前年度比:716 件の減)。その理由として、令和2年5月23日(土)までの一部休館及び、開館を再開したのちも貸室の人数制限やフリースペースの利用制限もあり、これまでと同様の活動ができないことが大きく影響したと思われる(新型コロナウイルスによる影響がなかった一昨年度との比較では 1,301 件の減となっている)。属性別内訳では、前年度に続き「市民活動団体」が最も多く 33.1 %、次いで「生涯学習団体」が 28.3%の順となっている。新型コロナウイルスによる影響も含め、これらの傾向が今後も継続するののか引き続き注視していく必要がある。



■年度別利用団体の属性(単位: 件)

	H20 年度 (初年度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年度	H31 年度	R2 年度
その他	365	359	333	304	265	244	283
企 業	244	259	295	326	285	276	225
行 政	127	209	99	152	157	126	100
生涯学習団体	961	1,016	1,112	1,091	989	769	553
自治会・町内会	70	53	339	292	317	243	145
市民活動団体	418	550	802	1,047	1,240	1,010	646
合 計	2,185	2,446	2,980	3,212	3,253	2,668	1,952

参考-1：主な項目の利用状況推移（平成20～令和2年度）

	貸室		フリースペース			印刷機	情報揭示	パソコン	相談対応		レターケース	総利用	
	利用件数	利用人数	利用件数	利用人数	カウント数	利用件数	受付件数	利用件数	件数	人数	取扱数	件数	総数
	件	人	件	人	人	件	件	件	件	人	件	件	人
平成20年度	972	13,170	125	404	959	378	878	190	297	346	189	3,065	14,001
平成21年度	1,366	18,992	90	220	1,337	551	1,031	356	309	374	437	4,162	19,641
平成22年度	1,242	16,229	87	251	1,168	619	1,267	168	354	397	195	3,944	16,951
平成23年度	1,971	26,769	149	539	1,596	801	1,186	195	527	647	260	5,100	28,015
平成24年度	1,889	22,922	229	597	1,646	918	1,385	288	287	375	537	5,543	23,951
平成25年度	1,442	16,488	143	410	1,137	807	1,587	114	226	306	701	5,032	17,236
平成26年度	2,069	24,170	113	591	1,921	814	1,861	34	340	412	363	5,612	26,420
平成27年度	2,213	26,178	228	794	2,273	838	1,856	21	315	364	417	5,903	28,524
平成28年度	2,044	24,209	310	930	2,409	625	1,871	40	320	421	432	5,651	26,507
平成29年度	2,260	28,674	349	1,278	3,293	603	2,033	89	328	401	511	6,182	31,299
平成30年度	2,256	28,583	371	1,368	3,169	626	2,070	126	465	536	594	6,515	31,502
平成31年度	1,849	23,314	291	1,030	2,742	527	1,800	147	414	504	585	5,614	25,734
令和2年度	4月	0	0	1	4	59	33	45	10	12	13	21	123
	5月	5	47	3	5	35	19	67	9	29	32	30	162
	6月	129	1,310	33	76	45	28	96	7	47	51	33	373
	7月	146	1,504	38	77	33	20	111	7	34	35	10	367
	8月	116	1,247	34	64	41	27	98	4	35	39	6	321
	9月	138	1,420	31	55	43	20	121	5	31	42	11	358
	10月	165	1,745	31	67	65	25	135	10	32	39	5	404
	11月	146	1,581	24	63	40	23	117	14	25	27	9	358
	12月	112	1,192	32	67	58	12	89	6	37	42	11	299
	1月	120	1,106	28	53	81	20	126	7	6	7	73	380
	2月	140	1,464	25	72	72	18	83	9	39	41	10	325
	3月	137	1,283	31	82	59	42	136	16	36	40	10	408
令和2年度計		1,354	13,899	311	685	631	287	1,224	104	363	408	229	3,878
前年度比		73%	60%	107%	67%	23%	54%	68%	71%	88%	81%	39%	69%
平成20年度～令和2年度総計		22,927	283,597	2,796	9,097	24,281	8,394	20,049	1,872	4,545	5,491	5,450	66,201
各年度の平均		1,764	21,815	215	700	1,868	646	1,542	144	350	422	419	5,092

※フリースペースの利用件数・人数は利用票提出分

※フリースペースのカウント数はスタッフによる定時見回り時のべ人数

※平成29年度より、TSC事業分も貸室・フリースペースの利用件数・人数として集計

※平成26年度より、印刷機・パソコンの利用人数も集計

令和2年度の総利用件数は3,878件、総利用人数は15,520人となり、前年度と比較して件数は約7割、人数は約6割であった。フリースペース利用件数のみ、前年度より増加している。

※4月1日（水）～5月23日（土）の期間、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のために一部休館となり、貸室・フリースペースの貸し出しができなかった。

また、5月24日（日）～10月31日（土）の期間、貸室・フリースペースの利用人数に制限を設けていた。

参考-2：情報関連業務利用状況推移（平成20～令和2年度）

		印刷機		コピー機	パソコン	情報揭示					貸出図書		
		利用件数	枚数	利用枚数	利用件数	チラシ	団体パンフレット	ポスター	ニューズレター	計	登録者数	貸出件数	貸出冊数
		件	枚	枚	件	件	件	件	件	件	人	件	冊
平成20年度		378	218,318	4,767	190	496		105	277	878			
平成21年度		551	342,248	5,708	356	544		103	384	1,031	37	100	132
平成22年度		619	361,553	4,689	168	649		140	478	1,267	19	132	109
平成23年度		801	479,306	5,355	195	572		118	496	1,186	24	76	116
平成24年度		918	603,693	7,677	288	549	106	167	563	1,385	29	122	158
平成25年度		807	576,452	4,830	114	697	109	136	645	1,587	18	98	137
平成26年度		814	566,837	5,331	34	843	112	214	692	1,861	20	89	127
平成27年度		838	722,674	7,813	21	857	142	222	635	1,856	13	151	215
平成28年度		625	509,592	7,538	40	869	131	215	656	1,871	7	138	209
平成29年度		602	435,167	9,520	89	953	147	286	647	2,033	11	60	87
平成30年度		626	452,528	9,634	126	1,024	114	281	651	2,070	10	75	102
平成31年度		527	460,836	5,799	147	879	119	226	576	1,800	10	63	95
令和2年度	4月	33	83,143	15	10	9	5	5	26	45	1	7	7
	5月	19	30,816	28	9	21	4	3	39	67	1	8	12
	6月	28	12,856	102	7	43	5	8	40	96	0	2	2
	7月	20	16,551	298	7	45	6	6	54	111	1	1	2
	8月	27	20,574	131	4	39	7	10	42	98	0	5	9
	9月	20	12,848	160	5	51	6	16	48	121	1	4	4
	10月	25	21,560	371	10	65	6	11	53	135	1	6	8
	11月	23	14,377	232	14	55	10	7	45	117	3	7	9
	12月	12	13,849	104	6	30	5	9	45	89	0	5	9
	1月	20	7,909	303	7	55	15	12	44	126	2	9	16
	2月	18	8,592	283	9	39	6	11	27	83	1	4	6
3月	42	45,866	467	16	48	11	5	72	136	3	5	10	
令和2年度計		287	288,941	2,494	104	500	86	103	535	1,224	14	63	94
前年度比		54%	63%	43%	71%	57%	72%	46%	93%	68%	140%	100%	99%
平成20年度～令和2年度総計		8,393	6,018,145	81,155	1,872	9,432	1,066	2,316	7,235	20,049	212	1,167	1,581
各年度の平均		646	462,934	6,243	144	726	118	178	557	1,542	18	97	132

※平成24年度から、パソコンの利用件数は「作業」「インターネット」を分けずに集計する。
※平成24年度から、情報揭示の利用件数は新たに「団体パンフレット」を加える。

※平成21年6月開設

- ・貸出図書以外は、すべての項目で前年度の利用を下回っている。
- ・貸出図書については、T S Cでの講座・イベント実施時に「たがさぼ文庫」の周知やテーマに関連したおすすめ本などの紹介などを行ったことにより、新規の利用が増えている。

(2) 相談対応実績

< 相談対応の流れ >

● 相談対応

市民活動に関する相談は、開館時間中にいつでも対応できるような体制を整備している。

↓

● 記録

- ・ 相談対応票に記録
- ・ 相談を分類

支援対象について：主に初めて利用する方に対して、団体の目的や活動内容を確認し、施設の設置趣旨と照らした上で、支援対象か否かを判断している。

施設利用相談：施設の利用方法などの問い合わせに対するもの

市民活動相談：ホップ…ボランティア相談、市民活動団体の情報提供
ステップ…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談
ジャンプ…資金調達、広報など団体運営に関する相談

受益者からの相談：NPOなどのサービスを求めている方からの相談

その他の他：TSCの運営についての問い合わせなど

↓

● 共有

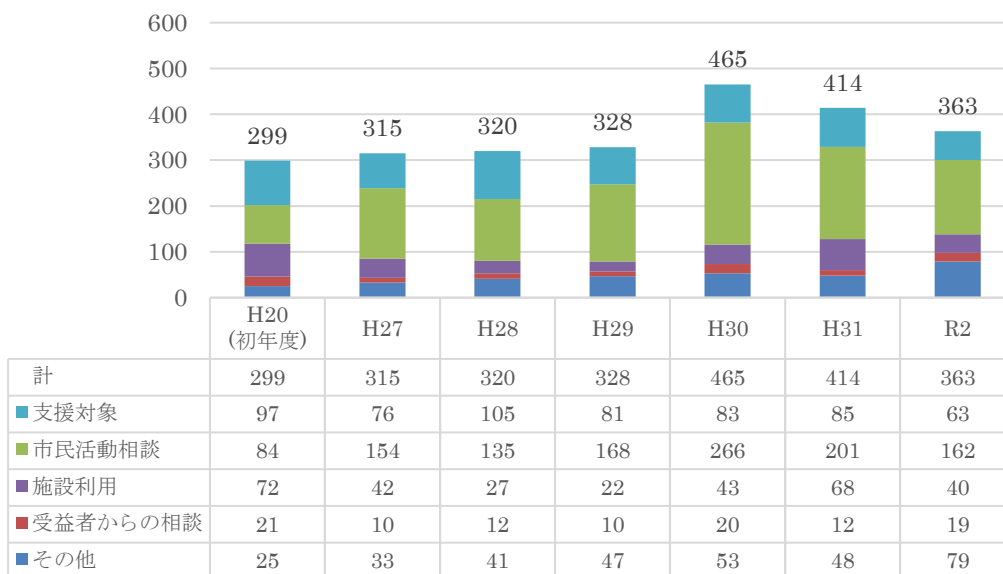
- ・ 継続対応が必要なものは、1日2回の申し送りの時間にスタッフ間で共有
- ・ 月2回（1回あたり1時間程度）ケースミーティングの開催
すべての相談対応をスタッフで共有し、各相談対応の経過確認を行い、継続事案にあつては以後の対応方針の決定、相談対応研修、業務改善などにつなげている。
- ・ 相談対応記録を担当理事および地域コミュニティ課に報告し、適宜情報提供・助言などを行っている。

＜相談件数 令和2年度比較＞

総件数 363件（月平均 30.25件）

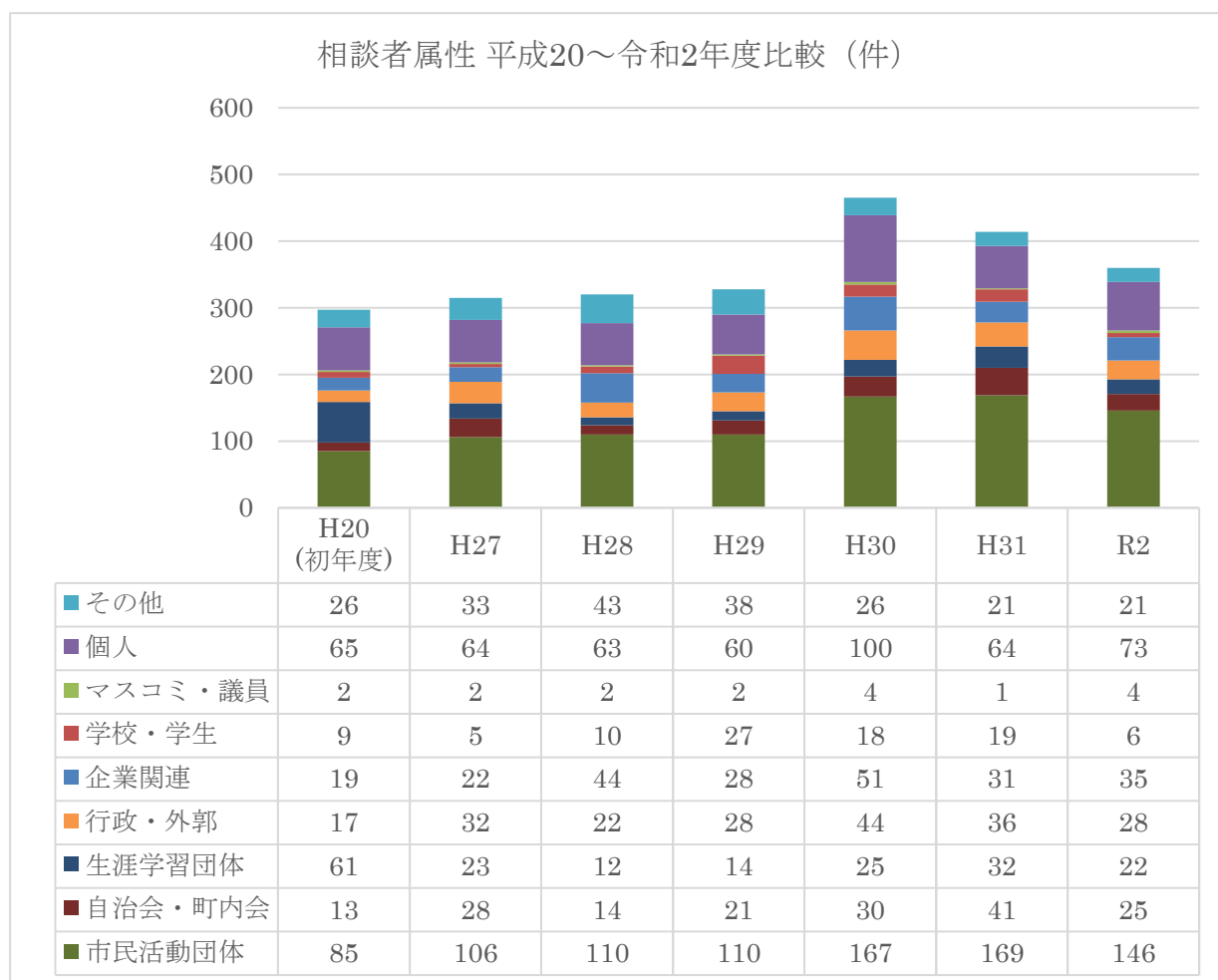
対応時間 6,513分（月平均 542分＝9時間2分、1件平均 17分）

相談件数 平成20～令和2年度比較（件）



今年度は、年間の相談件数は前年度より 51 件減少している。理由としては、コロナ禍での活動自粛やT S Cからの訪問の自粛などが考えられる。そのため市民活動相談が前年度から 39 件減少している。また、受益者からの相談が増加しており、東日本大震災後の平成 23 年度に続き多くなっている。4～5 月はコロナ禍での外出自粛による、DVや虐待、家庭でのトラブルやストレスを抱えての相談などが増加した。コロナ禍で貸室の制限があったため、来館での相談は少なく、電話での相談対応となった。

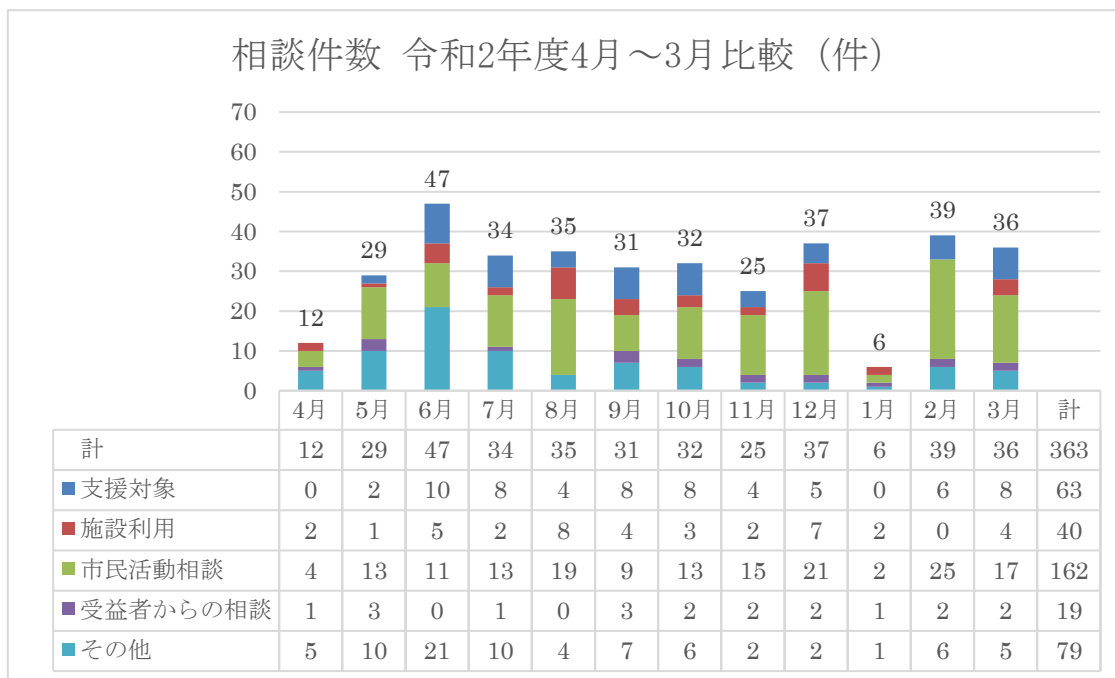
コロナ禍で活動ができない、模索している団体が多くみられ、T S Cからヒアリングをしての情報共有などが「その他」に分類され、増加しているのも特徴として挙げられる。



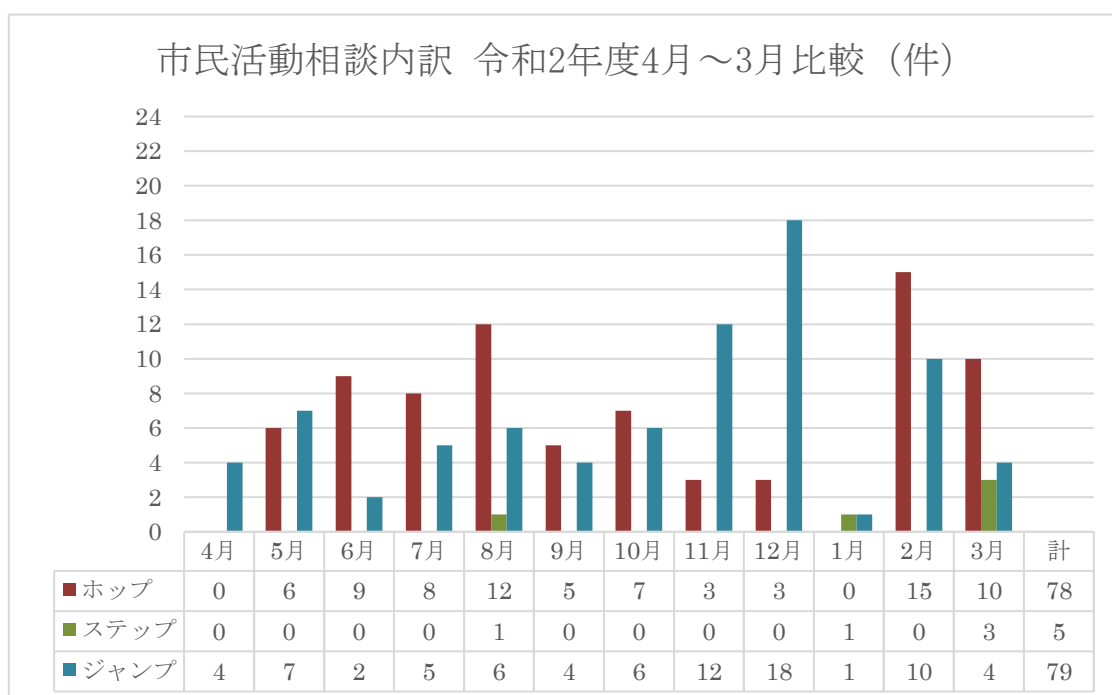
相談者属性は、市民活動団体が最も多く、ついで個人である。個人からの相談としては、コロナ禍での寄付や団体への支援の相談や、活動をはじめたいといった内容が多かった。

また企業からの相談も前年度より増えている。コロナ禍での地域との関わりや技能実習生関連の相談なども増えている。生涯学習団体の相談はコロナ禍での活動休止などが多く、件数も減少している。

＜相談件数 月別比較＞

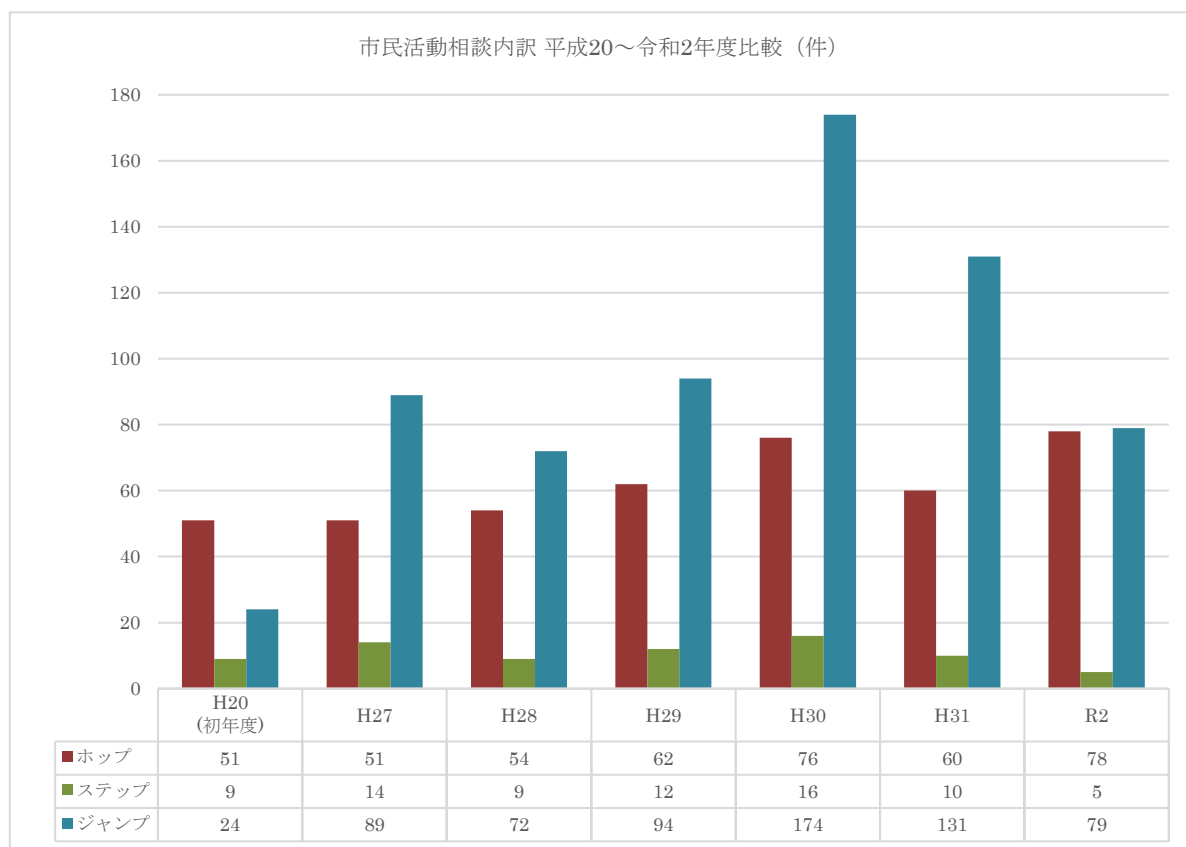


月ごとに見ると、今年度は6月の相談件数が最も多く、次いで2月、12月の順。6月は、5月24日に一部利用制限を付して貸室を再開した直後であり、団体からのコロナ禍での活動についてのヒアリングやオンラインでの活動の内容が多かった。また、コロナ禍で困っている人へ支援したい、ボランティアをしたいという相談も寄せられた。2月は、1月にTSC主催の講座、いちから塾、TSR会議、町内会講座を行ったこともあり、団体情報の問い合わせなどの市民活動相談が増加した。



市民活動相談に関しては、年度の前半はコロナ禍の影響を受けて、ほぼステップの活動に関する相談はなかった。7～8月頃から活動を再開した団体や新しく活動を始めたいと考えている人からの相談が多くなったが、11月頃からコロナ禍での活動を模索する団体からのジャンプの相談が増加している。1月は年末年始もあり活動が減少したが、2月に入ると1月にTSCで行われた事業に関連した相談が多く寄せられた。

＜市民活動相談の内訳＞



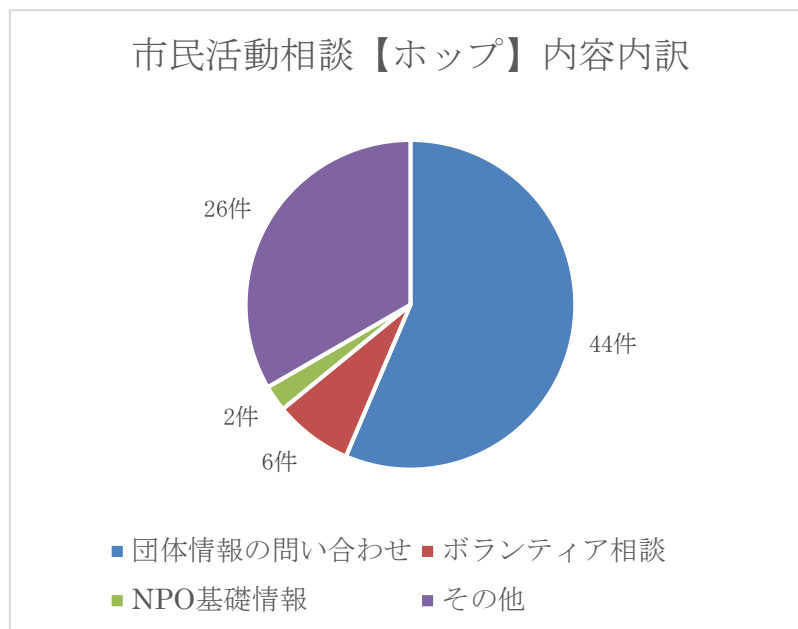
今年度の市民活動相談では、団体情報の問い合わせやボランティア照会などのホップの段階や、コロナ禍での活動の相談などジャンプ段階のものが多く、NPOの立ち上げなどのステップ段階の相談は少なかった。事業の中でNPOの運営相談会を行ったこともあり、事務用ブース入居団体や過去にブースを利用していた団体の組織運営などの相談があった。今年度はコロナ禍でのオンラインでのイベント実施の相談も多く寄せられたことが特徴である。

以下、市民活動相談のホップ・ステップ・ジャンプの各々の相談内容について記載する。

●ホップ

…NPO基礎情報、ボランティア相談、市民活動団体の情報提供など

市民活動相談 162 件の内、ホップ 78 件（48.1%）



「団体情報の問い合わせ」が44件と最も多く、続いて「その他」だった。8月頃ホップの相談が増えたのは、コロナ禍で課題に取り組む団体の支援をしたいと考えた時にどこにつながりを持てばよいかという相談が多く寄せられたからと考えられる。

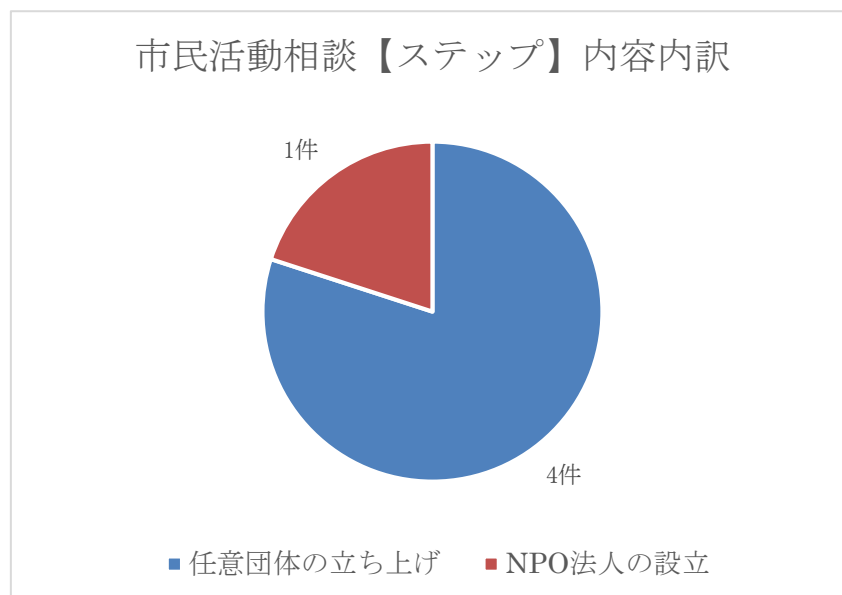
「その他」の内容については、団体からの情報提供や活動に関する問い合わせなど多岐にわたる。

2～3月の相談の内容については、1月にTSCで開催した事業に関連しての相談が多かった。具体的には、「小さなアクション講座」参加者からの自分の活動をはじめる前の相談や、TSR会議参加者からゲストスピーカー団体への食料品寄贈など問い合わせなどがあつた。

●ステップ

…任意団体立ち上げやNPO法人化に関する相談

市民活動相談 162 件の内、ステップ 5 件 (3.0%)



特技や経験を活かし、地域の役に立ちたいという相談が寄せられた。コロナ禍で活動が制限される中、温めてきたものをどう形にしたらよいかという相談が多かった。

今年度もTSC事業への参加を通して、自分の想いを整理した後に具体的な立ち上げ相談につながった活動もあった。

立ち上げ相談に対しては、すぐにノウハウを提供するのではなく、立ち上げる理由や想いを聞いたり、同種の活動をしている団体につないで話をしたりと、相談者の想いに寄り添った支援をした上で、立ち上げの支援に移行する。

令和2年度 立ち上げ相談を行った団体・活動 (3 団体／活動)

団体・活動名	活動内容	立ち上げのきっかけ
多賀城ジュニアソフトテニス愛好会	学生へのスポーツ支援と学習支援、進路相談	来館しての相談
こどもアドボカシーみやぎ	「子どもアドボカシー」に関する啓蒙や人材育成など	来館しての相談
NPO谷山学園多賀城リトルシニア	中学生へのスポーツ支援と学習支援、地域ボランティア活動の実施	来館しての相談 NPOいちから塾から

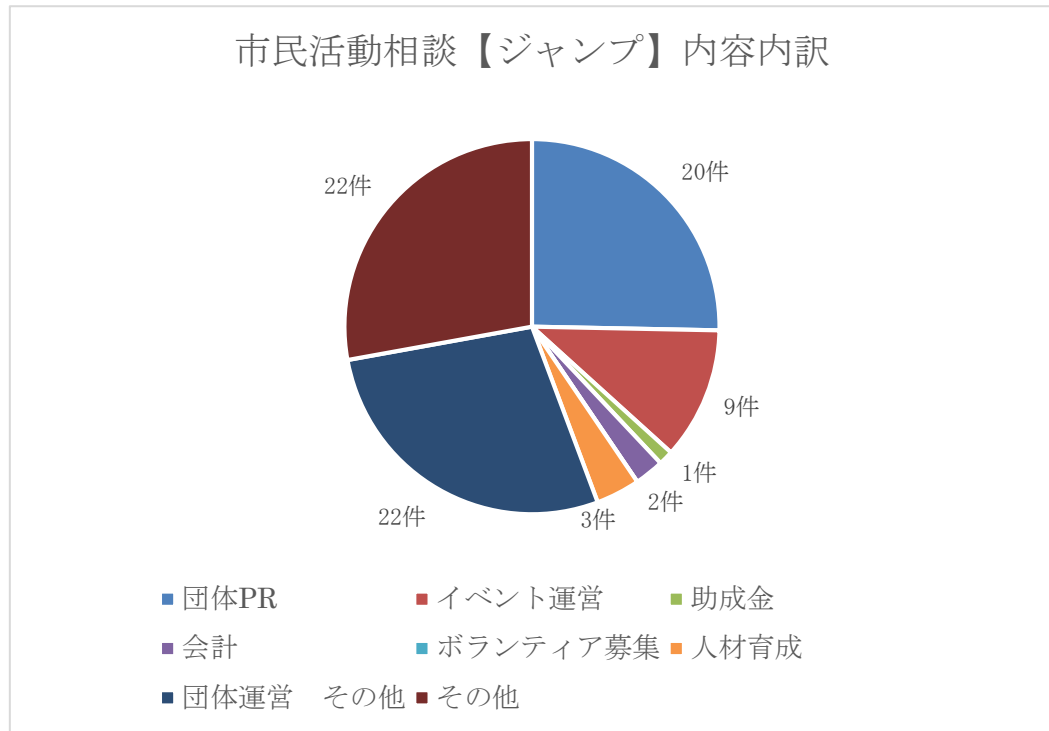
令和2年度 団体の法人化のサポート (1 団体)

団体・活動名	活動内容	備考
日本元極学ピララ	気功とレイキを使った日常や災害時のケアと継承	一般社団法人化の相談

●ジャンプ

…資金調達、広報など団体運営に関する相談

市民活動相談 162 件の内、ジャンプ 79 件（48.7%）



今年度は、コロナ禍での活動を模索する団体から、オンラインの相談などもあった。Zoomでの活動のほか、YouTube などでの広報についての相談もあり、「団体運営その他」の相談件数が 22 件だった。次に「団体PR」に関する相談が 20 件あった。前年度多く寄せられていたイベント相談はコロナ禍で 3 分の 1 程度となり減少したが、多賀城で活動をはじめた団体の継続した相談や活動のPRに関する相談などが多くあった。

背景には 11 月に開催したNPO広報相談会の事業の際の相談や、町内会事業に関連した相談で自治会・町内会の広報に関する相談も継続して寄せられている。そのため相談内容は「団体PR」が増加した。

参考: 相談対応推移

1. 件数、人数、属性など

属性など		H20	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2													総計	
		計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	計	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計		
相談件数(件)	相談件数(件)	299	310	354	527	287	226	340	315	320	328	465	414	12	29	47	34	35	31	32	25	37	6	39	36	363	4,548	
	開館日(日/月)	253	305	289	306	306	304	306	306	307	305	306	307	25	27	26	26	27	25	27	26	23	23	24	26	305	3,905	
	件数平均(件/日)	1.2	1.0	1.2	1.7	0.9	0.7	1.1	1.0	1.0	1.1	1.5	1.3	0.5	1.1	1.8	1.3	1.3	1.2	1.2	1	1.6	0.3	1.6	1.4	1.2	1.2	
	人数(人)	348	374	386	645	375	307	377	357	421	401	536	504	13	32	51	35	39	42	39	27	42	7	41	40	408	5,439	
	対応時間月計(分)	5,558	6,345	7,434	10,476	7,664	5,412	7,593	7,182	8,209	8,499	11,110	9,334	115	292	690	565	533	560	605	515	595	175	1,045	823	6,513	101,329	
対応時間平均(分/日)	対応時間平均(分/日)	22.0	20.8	25.7	34.2	25.0	17.8	24.8	23.5	26.7	27.9	36.3	30.4	4.6	10.8	26.5	21.7	19.7	22.4	22.4	19.8	25.9	7.6	43.5	31.7	21.4	25.9	
	対応時間平均(分/件)	18.7	20.5	21.0	19.9	26.7	22.5	22.1	23.1	25.5	25.9	23.9	22.5	9.6	10.1	14.7	16.6	15.2	18.1	18.9	20.6	16.1	29.2	26.8	22.9	17.9	22.3	
対面	件数(件)	235	235	267	322	187	152	213	224	211	303	275	5	9	26	19	18	19	20	19	27	5	30	23	220	3,068		
	対応時間月計(分)	4,858	5,789	6,572	8,463	6,481	4,585	6,295	6,165	5,984	7,279	9,055	7,535	60	126	470	415	370	455	490	470	520	170	970	740	5,256	84,317	
	対応時間平均(分/件)	20.7	24.6	24.6	26.3	34.7	30.2	29.6	27.5	26.7	34.5	29.9	27.4	12	14	18.1	21.8	20.6	23.9	24.5	24.7	19.3	34	32.3	32.2	23.9	27.5	
電話	件数(件)	58	67	81	195	87	72	119	99	88	105	137	115	7	19	17	10	14	12	11	6	8	1	9	12	126	1,349	
	対応時間月計(分)	605	501	656	1,944	1,008	812	1,262	1,007	2,050	1,076	1,875	1,399	55	156	175	95	143	105	105	45	55	5	75	82	1,096	15,291	
	対応時間平均(分/件)	10.4	7.5	8.1	10.0	11.6	11.3	10.6	10.2	23.3	10.2	13.7	12.2	7.9	8.2	10.3	9.5	10.2	8.8	9.5	7.5	6.9	5	8.3	6.8	8.7	11.3	
その他	件数(件)	4	7	6	9	13	2	8	2	8	12	25	24	0	1	4	5	3	0	1	0	2	0	0	1	17	137	
	対応時間月計(分)	95	55	206	39	175	15	36	10	175	133	180	400	0	10	45	55	20	0	10	0	20	0	0	1	161	1,680	
相談者属性	市民活動団体(件)	85	82	106	155	99	80	93	106	110	110	167	169	8	11	17	9	14	12	15	10	18	5	13	14	146	1,508	
	自治会・町内会(件)	13	14	25	18	27	18	31	28	14	21	30	41	0	2	5	1	2	1	0	4	4	0	4	2	25	305	
	生涯学習団体(件)	61	31	39	59	11	8	23	23	12	14	25	32	0	0	0	5	2	4	2	0	4	0	3	2	22	360	
	行政・外郭(件)	17	16	25	24	23	26	27	32	22	28	44	36	1	5	5	3	4	2	1	0	2	0	1	4	28	348	
	企業関連(件)	19	24	30	56	23	13	24	22	44	28	51	31	1	5	6	5	2	3	3	3	0	3	1	35	400		
	学校・学生(件)	9	7	9	19	11	2	11	5	10	27	18	19	0	0	2	1	2	0	1	0	0	0	0	0	6	153	
	マスコミ・議員(件)	2	2	2	7	2	2	2	2	2	2	4	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	3	4	34	
	個人(件)	65	88	81	127	62	51	90	64	63	60	100	64	2	5	6	7	7	9	7	6	5	1	9	9	73	988	
	その他(件)	26	45	33	62	30	25	32	33	43	38	26	21	0	1	4	3	2	0	3	2	1	0	4	1	21	435	
初来館	初来館者(人)	126	97	99	165	88	79	96	64	88	70	76	76	0	1	4	4	2	5	4	3	4	0	8	8	43	1,167	
	どこで知ったか	公共施設(人)	37	23	34	46	16	23	24	16	12	17	15	13	0	0	0	1	0	1	0	1	0	0	0	1	4	280
		ロコミ(人)	14	15	8	14	18	14	25	9	18	27	22	20	0	0	2	0	1	3	1	0	0	0	1	1	9	223
		SCホームページ(人)	11	15	24	29	21	19	25	16	24	6	9	8	0	1	0	1	1	0	0	1	3	0	4	1	12	219
		その他(人)	64	44	33	66	33	23	22	23	34	20	30	35	0	0	0	2	2	0	1	3	1	1	0	3	5	18

2. 相談内容の内訳

(1) 支援対象について

[illegible]

(2)施設利用相談

施設利用状況(件)		72	25	46	60	13	11	29	42	27	22	43	68	2	1	5	2	8	4	3	2	7	2	0	4	40	498	
対応時間(分)		866	270	599	643	136	170	296	655	415	270	545	920	15	30	80	45	110	50	50	15	75	30	0	50	550	6,335	
対応時間平均(分/件)		12.0	10.8	13.0	10.7	10.5	15.5	10.2	15.6	15.4	12.3	12.7	13.5	7.5	30	16	22.5	13.8	12.5	16.7	7.5	10.7	15	0.0	12.5	13.8	12.7	
場の提供	貸室(件)	46	11	19	34	2	3	10	19	16	7	15	13	1	0	3	0	1	0	2	0	0	0	0	0	7	202	
	フリースペース(件)	2	1	1	1	2	1	5	7	1	1	3	13	0	0	0	0	1	0	0	0	1	1	0	0	3	41	
	ロッカー(件)	3	2	1	0	0	0	2	1	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	1	2	13	
	レターケース(件)	3	1	2	1	1	1	0	1	1	1	1	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	14	
	共同事務室(件)	2	4	1	6	2	0	1	4	5	3	3	4	0	0	0	1	0	0	0	0	0	1	0	2	4	39	
	展示スペース(件)	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	
	駐車場(件)	0	0	3	3	1	1	0	0	0	1	0	6	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	15	
	備品(件)	2	0	2	3	1	0	3	0	0	2	5	9	0	0	0	0	5	3	1	2	3	0	0	0	14	41	
	その他(件)	3	2	6	9	2	1	2	4	1	0	4	3	0	0	1	1	0	0	0	0	0	0	0	1	3	40	
	情報関係	PC(件)	2	1	0	0	0	1	0	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	8
インターネット(件)		1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	2	
コピー機・印刷機(機)		6	2	7	2	0	1	1	1	1	2	0	6	0	0	1	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2	31	
チラシ・ポスター(件)		13	2	4	0	1	0	1	0	0	0	3	2	1	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	28	
サポートセンターHP(件)		0	0	0	0	0	1	1	0	1	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
サポートセンター情報誌(件)		0	2	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	4	
その他(件)		2	3	1	1	1	0	1	3	1	3	6	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	1	33

(3) 市民活動相談

「市民活動相談」(件)		84	163	173	215	164	139	169	154	135	168	266	201	4	13	11	13	19	9	13	15	21	2	25	17	162	2,193		
対応時間(分)		2,500	4,083	5,267	5,527	5,708	3,835	4,676	4,790	5,360	4,670	7,375	5,757	40	116	170	240	348	185	205	375	435	135	905	543	3,697	63,245		
対応時間平均(分/件)		29.8	25.0	30.4	25.7	34.8	27.6	27.7	31.1	39.7	27.8	27.7	28.6	10	8.9	15.5	18.5	18.3	20.6	15.8	25	20.7	67.5	36.2	31.9	22.8	28.8		
ホップ	団体情報の問い合わせ(件)	21	47	41	56	46	53	40	44	33	47	55	43	0	5	9	3	4	3	4	3	1	0	5	7	44	570		
	ボランティア相談(件)	6	16	24	35	10	13	15	4	7	7	17	5	0	0	0	2	0	1	0	0	0	0	1	2	6	165		
	NPO基礎情報(件)	10	3	3	2	3	1	6	0	3	1	1	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	0	2	37		
	その他(件)	14	8	9	20	13	10	11	3	11	7	3	10	0	1	0	3	8	1	3	0	2	0	7	1	26	145		
	ホップ計	51	74	77	113	72	77	72	51	54	62	76	60	0	6	9	8	12	5	7	3	3	0	15	10	78	917		
ステップ	任意団体の立ち上げ(件)	7	23	12	5	7	1	7	12	8	10	10	6	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	2	4	112		
	NPO法人の設立(件)	2	2	1	2	8	4	4	2	1	2	6	4	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1	1	39		
ステップ計		9	25	13	7	15	5	11	14	9	12	16	10	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	0	3	5	151		
ジャンプ	団体運営	団体PRPR(件)	4	10	31	12	3	9	15	9	10	11	33	17	0	0	0	2	2	0	0	5	9	0	0	2	20	184	
		イベント運営(件)	9	25	18	38	17	18	43	19	20	28	52	39	0	0	1	0	0	1	0	1	4	0	2	0	9	335	
		助成金(件)	0	2	2	9	14	7	5	10	7	9	14	15	0	0	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	1	95	
		会計(件)	0	3	2	0	1	2	2	3	0	4	3	1	0	0	0	1	0	0	0	1	0	0	0	0	2	23	
		ボランティア募集(件)	0	2	1	1	0	3	2	3	0	7	10	10	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	39	
		人材育成(件)	1	3	0	0	0	0	1	1	1	4	2	3	0	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	19
		その他(件)	7	16	27	18	32	13	13	32	21	19	39	34	3	1	1	1	3	3	4	0	0	1	4	1	22	293	
	その他(件)	3	3	2	17	10	5	5	12	13	12	21	12	1	4	0	1	0	0	2	4	5	0	4	1	22	137		
ジャンプ計		24	64	83	95	77	57	86	89	72	94	174	131	4	7	2	5	6	4	6	12	18	1	10	4	79	1,125		

(4) 受益者からの相談

「受益者からの相談」(件)	21	5	7	20	6	8	15	10	12	10	20	12	1	3	0	1	0	3	2	2	2	1	2	2	19	165
対応時間(分)	520	40	110	365	130	310	255	170	200	205	690	210	10	40	0	15	0	35	45	60	35	5	25	80	350	3,555
対応時間平均(分/件)	24.8	8.0	15.7	18.3	21.7	38.8	17.0	17.0	16.7	20.5	34.5	17.5	10	13.3	0	15	0	11.7	22.5	30	17.5	5	12.5	40.0	18.4	21.5

(5)その他

【その他】(件)	25	18	34	69	31	11	27	33	41	47	53	48	5	10	21	10	4	7	6	2	2	1	6	5	79	516
対応時間(分)	490	461	455	2,084	835	370	1,145	707	880	2,241	1,435	1,340	50	96	340	175	35	200	225	10	15	5	75	75	1,301	13,744
対応時間平均(分/件)	19.6	25.6	13.4	30.2	26.9	33.6	42.4	21.4	21.5	47.7	27.1	27.9	10	9.6	16.2	17.5	8.8	28.6	37.5	5	7.5	5	12.5	15.0	16.5	26.6

(3) 情報提供

1) 団体情報ファイル

団体情報ファイルには、団体ごとに団体紹介シート（※）、パンフレット、チラシ、定款・会則、予算書、決算書、事業計画書・報告書などをファイリングしている。

このファイルは、団体の運営・事業の参考となる情報源であり、新規団体立ち上げの先行事例としても紹介できるものである。また、受益者がサービスを受ける場合や、市民がボランティアとして活動に参加する場合にも活用することができる。

団体情報ファイルは、全国の活動団体の情報を「二市三町」「県内」「県外」のジャンルごとに分けてファイリングしており、利用者は館内で自由に閲覧できる。

今年度、ファイリングされている総団体数は2,192団体（前年度比100.5%）とほぼ横ばいだった。新型コロナウイルス感染拡大により、TSCの一時休館や団体の活動休止など余儀なくされる中、コロナ禍ゆえの課題解決のために新たな形で立ち上げた団体も見受けられた。イベントや交流の機会が減少したが、活動者と対話しながら団体の情報を入手することに努めた。

「二市三町」の団体数は、316団体（前年度比102.9%）。相談対応を経て、新たな取り組みが始まったり、拠点をTSCや多賀城に移した団体、以前より活動していた団体の新たな情報が加わり情報の増加につながった。

分野別の増加の特徴としては、従来から多かった子育て支援の団体に加え、国際交流支援の団体が県外での実績を活かして多賀城で活動を始めた。また、子どもの人権の支援を行う団体のコロナ禍での課題解決意識も高まっている。

次年度以降も、多賀城の新しい団体の情報収集により力を入れるとともに、収集した情報を市民が活用しやすいよう編集・発信していく。

※団体紹介シート

市民活動団体の情報発信を支援するTSC独自のツール。団体の連絡先、設立経緯、目的、活動内容、アピールポイントなどを記入するもの。提出された団体紹介シートは団体情報ファイルにファイリングされるとともに、TSCのウェブサイト上で公開している。令和2年度末現在、121団体の団体紹介シートを公開している。

令和 2 年度多賀城市市民活動サポートセンター年間事業報告書

①団体情報ファイル数（単位：団体） ※二市三町：多賀城市・塩釜市・松島町・七ヶ浜町・利府町

	二市三町	県内	県外	合計	キーワード
福祉	21	143	62	226	障がい者支援、高齢者支援、移送サービス、配食サービス、地域福祉
医療・保健・健康	13	57	92	162	健康、医療、難病支援、カウンセリング、自殺予防、保健、依存症
スポーツ	25	22	4	51	スポーツ振興
人権・ジェンダー	8	53	51	112	平和、ホームレス支援、貧困支援、労働問題、人権、男女共同参画、DV、マイノリティ、ジェンダー、ひきこもり
子どもの育成・支援	49	118	87	254	子育て、青少年健全育成、障がい児支援、学習支援、児童虐待、不登校、母子・父子家庭支援
社会教育	16	17	22	55	生涯学習
環境	10	106	93	209	自然保護、環境保全、リサイクル、農業・林業・漁業・食育、動物・ペット、エネルギー
まちづくり	53	167	121	341	まちづくり、地域づくり、コミュニティ形成、地域おこし、観光
災害救援・地域安全	4	25	28	57	災害救援、被災者支援、地域防災・安全
国際交流・協力	9	37	62	108	国際交流、国際協力、在日外国人支援、フェアトレード
文化・芸術	74	139	53	266	文化振興、文学、音楽、映画、演劇、アート、歴史、伝統文化、ミニコミ出版、芸術、工芸
シニア	2	13	5	20	団塊世代、セカンドライフ
市民活動支援	2	27	196	225	市民活動団体支援、助成活動
その他	2	30	36	68	オンブズマン（行政監視）、政策提案、消費者保護、科学技術、職能開発、コミュニティビジネス、その他
地域組織	28	7	3	33	自治会、町内会、地域自主組織、まちづくり協議会、老人クラブ、子ども会
合 計	316	961	915	2,192	

②分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

分野 \ 年度	H20（初年度）	H27	H28	H29	H30	H31	R2	
福祉	52	192	199	214	221	226	227	
医療・保健・健康	34	168	171	160	161	162	162	※平成 29 年度 より分離
スポーツ				49	49	50	51	
人権・ジェンダー	20	87	88	106	108	112	112	
子どもの育成・支援	57	245	257	211	242	252	255	※平成 29 年度 より分離
社会教育				49	54	55	55	
環境	32	178	183	193	203	209	209	
まちづくり	47	338	354	309	331	340	342	※平成 29 年度 より分離
災害救援・地域安全				54	55	57	58	
国際交流・協力	19	102	104	103	105	106	108	
文化・芸術	22	179	190	226	251	265	267	※平成 29 年度 より分離
シニア	8	21	21	20	20	20	20	
市民活動支援	47	206	209	210	222	225	225	
その他	19	60	60	58	68	68	68	※平成 22 年度 より集計開始
地域組織		11	11	25	30	33	33	

③二市三町分野別団体情報ファイル経年変化（単位：団体）

分野 \ 年度	H20(初年度)	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2	
福祉	4	15	17	16	18	19	21	21	
医療・保健・健康	3	17	21	22	14	13	13	13	※平成 29 年度より分離
スポーツ					25	24	24	25	
人権・ジェンダー	0	2	3	4	6	7	8	8	
子どもの育成・支援	6	37	43	46	38	43	48	49	※平成 29 年度より分離
社会教育					13	15	16	16	
環境	6	10	11	12	10	10	10	10	
まちづくり	8	34	39	43	44	48	52	53	※平成 29 年度より分離
災害救援・地域安全					4	4	4	4	
国際交流・協力	5	8	8	8	7	8	8	9	
文化・芸術	1	37	44	50	59	70	73	74	
シニア	0	1	1	1	2	2	2	2	
市民活動支援	1	2	2	2	2	2	2	2	
その他	0	0	0	0	1	2	2	2	
地域組織		9	11	11	16	20	23	28	※平成 22 年度より集計開始

④エリア別団体情報ファイル経年変化（前年度比）（単位：団体）

エリア \ 年度	H20(初年度)	H26	H27	H28	H29	H30	H31	R2
二市三町	34	172	200	215	259	287	306	316(2.9% ↑)
県内	188	752	794	826	879	926	959	961(0.2% ↑)
県外	135	752	793	806	849	907	915	915(0% →)
合 計	357	1,676	1,787	1,847	1,987	2,120	2,180	2,192(0.5% ↑)

2) ウェブサイト・ブログ・ツイッター

①ウェブサイト・ブログについて

		ウェブサイト	ブログ	
		訪問者数	訪問者数	記事数
平成 21 年度(初年度)		9,777	15,889	74
平成 27 年度		70,953	25,150	261
平成 28 年度		14,328	23,906	236
平成 29 年度		8,758	28,869	225
平成 30 年度		13,920	35,412	261
平成 31 年度		14,662	45,661	237
令和 2 年度	4 月	1,034	3,285	19
	5 月	1,040	3,924	13
	6 月	1,038	3,329	14
	7 月	938	3,905	13
	8 月	959	3,373	15
	9 月	913	3,035	19
	10 月	1,124	2,618	19
	11 月	1,022	3,080	20
	12 月	1,043	3,039	19
	1 月	1,149	2,940	21
	2 月	930	2,607	18
	3 月	1,503	3,069	24
令和 2 年度計		12,693	38,204	214

ウェブサイト：平成 21 年 12 月 25 日開設

ブログ：平成 20 年 7 月 19 日開設

※平成 28 年 5 月にセキュリティ対策としてウェブサイト」の訪問者数測定ソフトを変更。同一人が重複してカウントされない方法となった。

※平成 30 年 4 月、ウェブサイトリニューアルに伴い訪問者測定ソフト・方法を変更。これまでは同一人が 1 ヶ月に何度訪問しても 1 件とカウントされていたが、同一人が訪問した回数だけカウントされるようになった。

ウェブサイトは主に T S C の機能や事業を、ブログは主に市内外の市民活動に関わる取り組みやノウハウ、地域イベント等を発信している。

ブログ 1 記事あたりの平均訪問者数は以下の通り。

令和 2 年度 179 件

参考：平成 30 年度 136 件

平成 31 年度 193 件

記事・平均訪問者数ともに前年度より減少しているが、例年並みの利用があった。ブログ訪問者の 8～9 割はブックマークをしている人であり、T S C 事業に対して関心を持つ市民、ブログを通じて市民活動や地域の情報を得ようとしている市民であると考えられる。

前半は新型コロナウイルス感染症の影響で、関連する情報を得ようとする訪問が多く、増加した。しかし後半は多賀城市のイベントの中止なども影響してか訪問者数が減少している。しかし、全体の件数で見ると、コロナ禍前の平成 30 年度以前より訪問者が増加しているので、今後も時勢に沿った情報を発信することを心掛けていきたい。

閲覧が特に多かった記事は、4 月は「新型コロナウイルス感染症の影響で生活が困っている方への特別貸付について」、7 月は「九州豪雨に関する情報」、10 月は「フードバンク・フードドライブ」だった。

②ツイッターについて 平成 23 年 9 月 1 日開設

今年度もブログ更新や T S C 事業の告知を行い、フォロワーに対して広く、T S C の情報を届けることができた。今後も継続して各事業とも連携し、講座やイベントの様子を発信など、多様な地域の情報の発信に努める。

3) たがさぽ文庫

たがさぽ文庫は、情報サロン内にある市民活動、NPO、地域活動などに関する書籍を集めた図書貸出コーナーとして平成 21 年 6 月 1 日より開始した。

広報、会計、労務など団体マネジメントに関する書籍、市民活動の入門となる書籍、各分野（福祉・まちづくり・子ども等）の専門書、活動の参考になるハウツー書籍をそろえている。また、震災関連の資料やNPOに関する絵本なども収集している。

<蔵書数>（令和 3 年 3 月現在）

- ・ 1,269 冊 登録者数計 212 人

<概要> ・ 事前登録により、貸出カードを発行

- ・ 1 人 2 冊まで、貸出期間は 2 週間



令和 2 年度書籍貸出件数（令和 2 年 4 月～令和 3 年 3 月）

		貸出図書		
		登録者数	貸出件数	貸出冊数
		人	件	冊
平成 21 年度(初年度)		37	100	132
平成 27 年度		13	151	215
平成 28 年度		7	138	209
平成 29 年度		11	60	87
平成 30 年度		10	75	102
平成 31 年度		10	63	95
令和 2 年度	4 月	1	7	7
	5 月	1	8	12
	6 月	0	2	2
	7 月	1	1	2
	8 月	0	5	9
	9 月	1	4	4
	10 月	1	6	8
	11 月	3	7	9
	12 月	0	5	9
	1 月	2	9	16
	2 月	1	4	6
	3 月	3	5	10
令和 2 年度計		14	63	94

令和 2 年度は前年度と比較し、登録者数はほぼ横ばいで、コロナ禍による閉館期間や市民の外出自粛傾向による利用数の減少もみられた。

新規登録者数は平成 24 年度をピークに減少傾向にあるが、イベントや講座で来館した際に活動に関連した図書を借りるために登録する利用者の姿が見られた。さらに講座受講を機に TSC を利用し図書を借りる傾向にあったため、貸出件数・冊数は増加した。

さらに今年度は、TSC 事業の会場に新規登録の受付の設置や、関連書籍をマイクロライブラリーとして各階に設置するなど、TSC の機能をより発信していくことに努め効果を得た。

TSC が主催した事業に関する図書の展示や、活動の相談を受ける際に積極的に図書の活用や本の紹介を行った時期の貸出しや新規登録者は増加した。

今年度は、幅広い分野を網羅できるようジェンダー・人権、環境全般に関する本を重点的に追加した。

次年度は地域・社会課題の解決のヒントとなる資料を揃え、より市民に活用を促したい。

(4) 場の提供

1) 共同事務室入居団体インキュベート相談

インキュベート相談会について 事務用ブースに入居 6 ヶ月後に、団体の代表者や事務局を担うスタッフと T S C スタッフで個別相談会を実施している。相談は 1 団体あたり 1 時間程度で、団体の活動の現状把握、団体の運営課題の整理、課題解決に向けた情報提供やアドバイスをを行った。 相談内容は、事業展開の方法や広報の仕方、組織の人材育成や合意形成、運営資金の調達、会員・メンバーの増やし方、活動に必要な備品の保管場所やワークスペースの確保についてなど、今後の団体運営に関する内容が多かった。 また、事務用ブースの空きがある場合には、3 年間の入居期間満期を迎えた団体の再入居を可能としており、現在 2 団体が再入居中である。	 事務用ブース
日 時：令和2年7月6日（月）14:30～15:30 団体名：宮城県学童保育連絡協議会（平成30年9月入居／2年目） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための一部休館に伴い、通常の実施時期（3月）から延期して実施した	
日 時：令和2年7月6日（月）15:40～16:20 団体名：生涯学習100年構想実践委員会（令和元年9月入居／再々入居1年目） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための一部休館に伴い、通常の実施時期（3月）から延期して実施した	
日 時：令和2年7月7日（火）19:30～20:30 団体名：ミタケオアシン（平成30年9月入居／2年目） ※新型コロナウイルス感染症拡大防止のための一部休館に伴い、通常の実施時期（3月）から延期して実施した	
日 時：令和2年10月23日（土）11:15～12:20 団体名：てんでん宮城（平成30年6月入居／3年目） ※「自己分析と運営パワーアップ事業」の「NPO・市民活動 運営なんでも相談」と兼ねた形で実施した	
日 時：令和2年10月23日（土）15:00～14:00 団体名：多賀城イングリッシュ・サポーターズ（平成29年6月入居／再入居1年目） ※「自己分析と運営パワーアップ事業」の「NPO・市民活動 運営なんでも相談」と兼ねた形で実施した	
日 時：令和3年3月6日（土）13:30～14:30 団体名：生涯学習100年構想実践委員会（令和元年9月入居／再々入居2年目）	
日 時：令和3年3月6日（土）15:00～16:00 団体名：宮城県学童保育連絡協議会（平成30年9月入居／3年目）	

2) フリースペース利用状況

①フリースペース概要

○通常の利用

地域づくりに関わる方の交流を深めるための場として、予約不要・無料で利用できる。平成27年5月から、2階ギャラリーにWi-Fiが設置され、利用者が自身のスマートフォンやノートパソコンなどでインターネットをすることができ、情報収集・発信が可能となった。また今年度は全館Wi-Fiの利用が可能となった。

新型コロナウイルス感染予防対策のため、テーブル・イスの数を減らし、利用人数・利用時間に制限を設けながら運営した。（右記写真参照）事前の申込制とし、利用を1時間とした。

- ・5月20日に輪転機を2階ギャラリーに移動
- ・5月23日まで貸出を休止
- ・5月24日より一部利用制限をしながら貸出を再開
- ・9月17日に輪転機を印刷室に戻した

（利用人数などは「運営状況-利用状況集計」を参照）

○企画の利用

NPO、自治会・町内会、子ども会、生涯学習団体、個人、企業（社会貢献活動での利用）を対象に、展示、ワークショップ、交流会など、下記の目的のもと利用ができる。

【利用目的】

- ・団体の活動を多くの人に知ってもらう
- ・企画づくりを通して団体運営のパワーアップを図る
- ・市民が集い新たなつながりを生む
- ・市民が自分たちの住む社会・地域について知り、考える
- ・市民が地域・社会のためにアクションを起こす

フリースペースの利用の傾向

今年度は3団体計3回の利用があり、新規で1団体がフリースペースでのアクションをおこした。詳細は次ページ以降に記載。

※参考：前年度は10団体計12回の利用

○TSC事業での利用

来館者にTSCの取り組みやNPOのことを知ってもらう場合やオープンな空間づくりを行う場合は、TSC事業の会場としてフリースペースを活用している。



1階フリースペース



2階ギャラリー



3階交流サロン

②企画利用内容

	企画タイトル	利用団体	期間	実施目的	実施内容	フロア	参加人数
1	作品展 &ワークショップ	さをりひろ ば余暇よか	1/8～ 1/11	さをり織りの普及、 会員の作品発表の場 のため	会員の作品展示、 さをり織りワーク ショップ、小物作 品の一部販売	3階 交流サロン	35名 (WS5 名)
2	ともだち・カワ ン・カフェ	【新規】 ともだち・ カワン・コ ミュニティ	1/16	国際交流をしながら 新しい友だちをつく る場のため	参加者同士の文化 交流、多賀城史遊 館のスタッフによる 見覆い	2階 ギャラリー	20名
3	これからパッチワ ークをやってみた い！	サーラ文庫 大代	2/11	コロナ禍のなか、自 宅でも手づくりの楽 しさを見つけてもら うきっかけづくり	パッチワークの基 本の縫い方	2階 ギャラリー	1名

③企画利用の様子



1. 作品展&ワークショップ
(さをりひろば余暇よか)



2. ともだち・カワン・カフェ
(ともだち・カワン・コミュニティ)



3. これからパッチワークをやってみたい！
(サーラ文庫大代)

④TSC事業での利用の様子



たがさぼのクリスマス雑貨市（団体紹介展示）

2階（12月1日～24日開催）



たがさぼのクリスマス雑貨市（団体商品展示）

3階（12月1日～24日開催）



たがさぼのクリスマス雑貨市（ゲームセンター）

2階（12月5日・19日・20日）



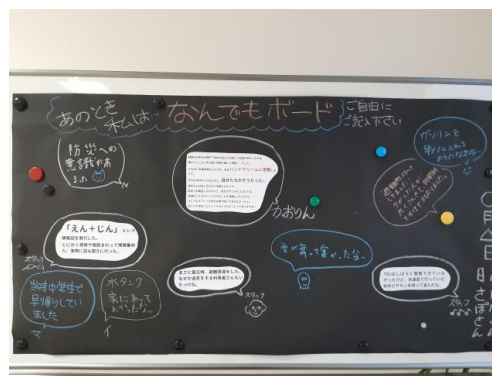
3.11 そのときまちは~~90~~これからのまちを考える

1階（2月18日～3月31日）



3.11 そのときまちは~~90~~これからのまちを考える

2階（2月18日～3月14日）



3.11 そのときまちは~~90~~これからのまちを考える

2階（2月18日～3月14日）

(5) 他団体・他機関との連携

1) 各会議・実行委員会への参加

地域課題を解決していくためには多様な主体で連携して取り組んでいく必要がある。
今年度、T S C では多賀城市の課を横断した情報交換や取り組みの場に参加した。

①令和 2 年度被災地域支援関係課ミーティング

災害公営住宅の現状について、多賀城市各課・各関連機関の垣根を超えて共有し、連携して課題解決を図ることを目的に実施された。T S C は平成 29 年度より参加。

【参加団体・機関】

地域コミュニティ課（主管）、都市計画課、生活支援課、介護福祉課、社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会、一般社団法人東北圏地域づくりコンソーシアム、一般社団法人パーソナルサポートセンター、社会福祉法人宮城県社会福祉協議会震災復興支援室、宮城県サポートセンター支援事務所、一般社団法人みやぎ連携復興センター、地域包括支援センター

【T S C の役割】

- ・市民によるコミュニティ形成や課題解決に関する取り組み事例の提供
- ・自治会運営に関する相談対応

【実施状況】

	実施日	内容
第 1 回	7 月 17 日（金）	・各住宅の現状共有 ・感染症対策の上でのコミュニティ活動
第 2 回	9 月 18 日（金）	・各住宅の現状共有 ・コミュニティ形成支援シートの説明と作成依頼について
第 3 回	3 月 19 日（金）	・各住宅の現状共有 ・今後の住宅内施設管理方法について

【成果】

- ・災害公営住宅の支援者へ向けて、災害公営住宅以外の自治会の課題や取り組み事例や地域の活動の事例などの情報を提供することができた。

【課題】

- ・各住宅の自治会・既存の各自治会の課題や取り組み事例を、他自治会が活用できるように一般化し、情報共有できるような仕組みを各部署とともにつくっていくことが必要。

②令和 2 年度住民主体の地域づくりを広げる事業実行委員会

地域の自然な支えあいの取り組みに価値を見出し、事例として地域に発信していくことを目的に実施された。T S C は平成 29 年度より参加。

【参加団体・機関】

介護福祉課（主管）、社会福祉課、生活支援課、健康課、生涯学習課、地域コミュニティ課、社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会、多賀城市地域包括支援センター（中央・西部・東部）、多賀城市自立相談支援窓口（P S C）、N P O 法人全国コミュニティライフサポートセンター

【T S C の役割】

- ・自治会・町内会をはじめとした住民同士の支えあい事例の情報を提供する。
- ・各分野で活動する市民活動の情報を提供する。
- ・自治会・町内会の会長や役員、若い世代の活動者が実行委員会の企画する講座に参加するよう促し、すでに地域づくりに関わっている人に対して地域で支え合う意義を知ってもらう。

【実施状況】

	実施日	内容
第 1 回	7 月 1 日（水）	・実行委員自己紹介、これまでの取り組みと地域資源の紹介 ※T S C スタッフは休館日のため欠席
第 2 回	7 月 31 日（金）	・「住民主体の地域づくり（お宝）について」の説明 ・地域支え合い講座の内容と周知について
第 3 回	8 月 25 日（火）	・地域支え合い講座の内容・役割分担など確認
第 1 回 企画	9 月 17 日（木）	・企画名：「つながり」はコロナに負けない 地域支え合い講座（西部会場） ・内 容：ちょっとした困りごとや悩み事を地域の身近な人々で相談したり、助け合ったりする「つながり」を持つことの大切さを様々な

		事例と一緒に学ぶ。
第２回 企画	10月12日（月）	・企画名：「つながり」はコロナに負けない 地域支え 合い講座（東部会場） ・内 容：第１回企画と同じ
第３回 企画	10月14日（水）	・企画名：「つながり」はコロナに負けない 地域支え 合い講座（中央会場） ・内 容：第１回企画と同じ ※ＴＳＣスタッフは休館日のため不参加
臨時	10月19日（月）	・地域支え合い講座の振り返り ・地域支え合い講座「お宝事例発表会」に向けて
第４回	11月6日（金）	・地域支え合い講座「お宝事例発表会」に向けて ・地域資源取材分担等
第５回	12月8日（火）	・地域支え合い講座「お宝事例発表会」に向けて ・発表会役割分担等
第４回 企画	1月15日（金）	・発表会会場設営・リハーサル
第４回 企画	1月16日（土）	・企画名：「つながり」はコロナに負けない 地域支え 合い講座 お宝事例発表会 ・内 容：３つの地域の講座で発掘したお宝を紹介し、 地域の支え合いの輪を広げる
第６回	1月26日（火）	・お宝事例発表会の振り返り、次年度に向けて
臨時	3月18日（木）	・令和３年度住民主体の地域づくりを広げる事業の方 向性について

【成果】

- ・ＴＳＣが把握している自治会・町内会の活動事例や市民活動の情報を提供することができた。
- ・各地域で行われている住民同士の支え合い事例を収集し、ＴＳＣの運営や事業実施の参考とすることができた。
- ・ＴＳＣに来館した方に講座や発表会への参加を促し、地域で支え合うことの意義を再度確認してもらえた。

【課題】

- ・各分野の市民活動団体や、若い世代の活動者の参画を促し、より多様な支え合いを広げていく。

③施設情報交換会

市内の施設がより連携して事業を実施したり、各種対応について意見交換できるような情報交換の場を設けている。平成30年度より始まった。

【参加団体・機関】

多賀城市文化センター、中央公民館、山王地区公民館、大代地区公民館、多賀城市総合体育館、多賀城市立図書館、市長公室（市民文化創造担当）、地域コミュニティ課、蔦屋書店

【TSCの役割】

- ・TSCの取り組みや視点を各施設へ共有する。

【実施状況】

	実施日	内容
第1回	6月10日（水）	・新型コロナウイルスへの対応についての共有 ・本年度事業の共有
第2回	8月4日（火）	・今後の施設情報交換会について ・今後実施される市内のイベントの共有
第3回	3月16日（火）	・2月13日（土）に発生した地震についての共有 ・各施設の避難誘導訓練の実施状況 ・次年度事業の共有 ・施設情報交換会の持ち方

【成果】

- ・各施設の取り組みや、新型コロナウイルス対策を共有することができた。
- ・連携した事業を1件実施することができた。
- ・TSCの持つ市民活動や課題解決の視点から問題提起や情報共有することができた。

【課題】

- ・来年度以降も情報交換にとどまらず、互いに連携して事業を進めたり、課題解決に取り組んだりしていく場としていく。

④中央地区生活支援体制整備協議体『ちゅうおう盛り上げ隊たが和っか』

中央地区における見守り体制やコミュニティ支援について情報共有をしていくための協議体。

【参加団体・機関】

多賀城市中央地域包括支援センター、多賀城市社会福祉協議会、多賀城市介護福祉課、多賀城市シルバー人材センター、せいふう多賀城駅前、アースサポート多賀城、デイサービスヒマワリ、NPO法人ケアブレンド、八幡下二区町内会、向山地区民生委員、多賀モリ会、中央地区住民

【TSCの役割】

- ・市民活動団体等の取り組みの共有。
- ・多様性を持った視点での情報共有。

【実施状況】

実施日	内容
12月21日（月）	・当協議体についての共有 ・地域の自慢の共有
2月19日（金）	・4月・5月実施の勉強会について ・2月13日（土）に発生した地震についての共有
3月16日（火）	・4月・5月実施の勉強会について ・地域の自慢の共有

【成果】

- ・TSCの事業の紹介を通して、地域の取り組みや市民の多様性を示すことができた。

【課題】

- ・協議体の意味の確認、他の協議体との役割分担、より市民に開かれた協議体の構築などが今後必要となるため、TSCからも視点やアイデアを提供していく。

⑤地域福祉活動計画策定委員会

多賀城市地域福祉活動計画策定にあたって、地域福祉に関わる幅広い意見を聞くために設置された委員会。

【参加団体・機関】

学識経験者、民生委員、住民組織代表、福祉関係者、ボランティア団体、行政、宮城県社会福祉協議会

【ＴＳＣの役割】

- ・市民活動・地域活動支援・協働促進に取り組む立場から、地域の課題、団体の運営課題を伝え、計画づくりに反映させる。

【実施状況】任期：令和２年９月１８日から第１期計画策定完了の日まで

	実施日	内容
第１回	９月１８日（金）	・講演「地域福祉活動計画策定の意義について」 ・策定委員会について ・策定の方向性とスケジュールについて ・市民アンケートの分析結果について
第２回	１０月２９日（木）	・第２層協議体へのヒアリング結果について ・施策体系図及び骨子（案）について
第３回	１１月２６日（木）	・骨子【基本目標４】（案）について ・骨子【施策事業】（案）について
第４回	１２月２３日（水）	・計画素案について ※ＴＳＣスタッフは休館日のため不参加
第５回	１月２１日（木）	・計画素案について
第６回	２月１５日（月）	・計画素案について

⑥環境審議会

第三次多賀城市環境基本計画策定にあたって、調査審議するための市長の諮問機関。

【参加団体・機関】

学識経験者、関係行政機関、市長が必要と認めた者

【ＴＳＣの役割】

- ・市民活動・地域活動支援・協働促進に取り組む立場から、地域の課題、団体の運営課題を伝え、計画づくりに反映させる。

【実施状況】任期：平成３１年３月２０日から平成３３年（令和３年）３月１９日まで

令和３年３月２０日から令和５年３月１９日まで

	実施日	内容
第１回	７月３日（金）	・計画の構成素案について ・令和２年度スケジュールについて
第２回	書面開催	・第２層協議体へのヒアリング結果について ・施策体系図及び骨子（案）について

第 3 回	書面開催	・ 計画について
第 4 回	2 月 26 日（金） オンライン開催	・ 計画答申について ・ 令和 3 年度以降の審議会について

⑦都市計画審議会

市が決定する都市計画について調査審議するための諮問機関。

【参加団体・機関】

学識経験者、市議会議員、関係行政機関、本市の市民

【T S C の役割】

- ・ 市民活動・地域活動支援・協働促進に取り組む立場から、地域の課題、団体の運営課題を伝え、計画づくりに反映させる。

【実施状況】 任期：令和 2 年 8 月 1 日から令和 4 年 7 月 31 日まで

	開催日	内容
第 1 回	書面開催	仙塩広域都市計画緑地の変更について

2) 他部署・他機関との連携事例

①多文化共生事業「地域で広げる多文化共生の輪」

○外国人技能実習生との交流サポーター育成講座

【企画について】

日 時：令和2年9月26日（土）13:30～16:00

10月3日（土）13:30～16:00

場 所：大代地区公民館

参加者：46名（全2回）

内 容：地域の国際化の現状、外国人技能実習制度、
企業の技能実習生の受け入れの状況について、
「やさしい日本語」について

【連携について】

概 要：各々の主体が持つ情報を発信した。TSCは主催団体と企業をつなぐとともに、運営のサポートを行った。

構成団体：多賀城市国際交流協会、ユニバーサル株式会社ソーイング事業部仙台工場
公益財団法人宮城県国際化協会、大代地区コミュニティ推進協議会、
多賀城市立図書館

成 果：多賀城市民が外国人技能実習生の現状を知り、「やさしい日本語」をツールに外国人との交流を図る準備ができた。



「やさしい日本語」の講座

○防災研修

【企画について】

日 時：令和2年11月8日（日）13:30～16:30

場 所：大代地区公民館

参加者：72名

内 容：日本語サポーターと外国人技能実習生の
懇談、防災講座、大代地区住民との交
流、避難場所の確認など

【連携について】

概 要：外国人技能実習生が多く暮らしている大代地区の5つの町内会と一緒に合同で防災研修をおこなった。TSCは町内会、技能実習生、サポーターをつなぐファシリテーターを担った。



地区の町内会長と防災担当と地図を見ながら避難所の場所を確認する実習生

構成団体：多賀城市国際交流協会、ユニバーサル株式会社ソーイング事業部仙台工場
公益財団法人宮城県国際化協会、大代地区コミュニティ推進協議会、
大代地区５町内会、宮城県多賀城高等学校

成 果：町内会、技能実習生、企業など一堂に介しての防災訓練を行うことで顔
の見える関係を築いた。

○陶芸体験と懇談会

【企画について】

日 時：令和２年１２月１３日（日）１０：００～１２：００

場 所：大代地区公民館

参 加：４０名（技能実習生、交流サポーター、多賀城市国際交流協会等）

内 容：日本文化体験と外国人技能実習生との懇談で、交流を図る

【連携について】

概 要：各々の主体が持つ情報や事例を発信した。ＴＳＣは主催団体と企業をつな
ぐとともに、運営のサポートを行った。

構成団体：多賀城市国際交流協会、ユニバーサル株式会社ソーイング事業部仙台工場
公益財団法人宮城県国際化協会、大代地区コミュニティ協議会、
多賀城市立図書館

成 果：日本文化に触れながら地域に暮らす技能実習生とサポーターの交流を図れ
た。

②東北学院大学工学部講義「地域の課題Ⅱ（地域課題版）」

【企画について】

日 時：令和２年１０月１２日（月）８：５０～１０：２０（第３回講義）

令和２年１１月 ９日（月）８：５０～１０：２０（第７回講義）

令和３年 １月１８日（月）８：５０～１０：２０（第１４回講義）

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター（学生はオンラインで受講）

参加者：９名

主 催：東北学院大学

内 容：多賀城市の概要、市民活動や地域活動、コミュニティについての講話
地域の若手や町内会長へのヒアリング
学生による地域課題解決に向けた取り組み案の発表と、ゲストからの質
疑やアドバイス

【連携について】

概 要：ＴＳＣからは、ＴＳＣの設置目的や機能について、また多賀城周辺で活動
するＮＰＯの紹介を行った。また学生の発表に際しては質疑やアドバイス

を行い、学生の更なる気づきを促した。

構成団体：東北学院大学、多賀城市総務部地域コミュニティ課、志引町内会、
桜木東区町内会

成 果：大学生が講義の中でNPO・市民活動団体のことについて知り、地域課題
の発見や解決のための取り組み案の作成の参考にした。

I -4 事業実施状況

(1) 地域の担い手育成事業 1) 雑貨市 (市民向け)

目 的	○市民活動を知らない方やこれまで関わったことのない方に、市民活動団体（以下、団体）の活動内容・販売している商品の紹介展示や販売・ワークショップを通して市民活動に触れ、社会課題や団体の活動を知ってもらう。 ○雑貨市を毎年楽しみにしているリピーターの方やこれまで雑貨市のボランティアに参加していただいた方に出席団体の現状を知ってもらうことで、イベント時だけでなく普段の暮らしの中で、団体の活動に参加する・商品を購入するなどの行動を起こすきっかけにしてもらう。
背 景	○前提として、今年度は新型コロナウイルス感染の予防から前年度までのようなTSCを会場とした雑貨市の開催はできないと判断した。（令和2年9月時点で多賀城市を起点にクラスターが発生し、新型コロナウイルス陽性者数が増加したため） ○今年度はコロナ禍の影響があり、例年同様に広く集客をしての開催は避けるべきである。前年度までとは形式を変えての開催を模索することで、雑貨市の継続と、コロナ禍の団体の活動と市民のつながりについて考えるきっかけにする。 ○そのため、前年度の出席団体に対して今年度の雑貨市の開催と団体活動についてのアンケートを実施して、その結果をもとに今年度の雑貨市の開催形式を検討した。
対 象	○雑貨に関心を持つ20～40代 ○SNSを利用する学生から若者層、これまで雑貨市のボランティアに参加した若者
成果目標	①市民活動団体や活動、地域・社会の課題を初めて知る人の増加 （SNSへのアクセス数と閲覧者へのアンケートによる） ②団体に初めてアクセスする方が増えるなど変化がみられる （団体への事後アンケートによる）
成 果	○前年度の出席団体へアンケートを取り、団体のコロナ禍での活動状況や課題を確認し、課題の解決につながるよう企画に反映することができた。 ○コロナ禍の中で感染予防対策をしながら、会場や日程の分散等新たな形式で雑貨市を開催することができた。 ○今年度の新たな試みとして、多賀城市立図書館、薦屋書店と共催・協力することで、市民活動と関わる機会がない人に知ってもらえる機会を提供することができた。 ○Instagramのページを新設し、33の投稿に対して、インプレッション（投稿が閲覧された合計件数）が1,500件あった。 ○1団体、雑貨市の来場者が団体に来所し商品を購入したとのこと。（事後アンケート）
次年度に 向けた課題	○現時点では次年度も新型コロナウイルスの感染対策が必要なことは必至のため、どのような形で市民活動を知らない人に知ってもらう機会をつくるか。 ○対面のイベントを開催する場合、一人でも多くの人に出展団体について知ってもらいたいが、コロナ禍の対策を講じながらどのような方法を取れるか。 ○出席団体と趣旨を共有する場を持ち、TSC含め団体同士の連帯感を持ちながら取り組むことで、皆で創り育てていくものという意識を持つことができるのではないか。

実施概況(1)地域の担い手育成事業 1)雑貨市(市民向け)

1. たがさぼのクリスマス雑貨市

1)展示

①雑貨市プレ展示

日 時：令和2年11月1日(日)～11月24日(火)

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター

2階フリースペース

内 容：前年度の雑貨市の様子の写真展

②雑貨市展示

日 時：令和2年12月1日(火)～12月24日(木)

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター

2階3階フリースペース

参加費：無料、出入自由

出展団体：20団体(2階12団体・3階8団体)

内 容：活動紹介展示、団体の商品・作品展示

【2階フリースペース/活動紹介展示】

○社会教育

・生涯学習100年構想実践委員会/多賀城

○障がい者支援

・社会福祉法人ゆうゆう舎

多賀城市地域活動支援センターコスモスホール/多賀城

○困窮者支援

・NPO法人いのちのパン/多賀城

○子ども

・「サーラ文庫」大代/多賀城

・家庭文庫ちいさいうち/多賀城

・多賀城子ども食堂(NPO法人アスイク)/多賀城

・多賀城市家庭教育支援チームあんだんて/多賀城

○国際協力

・ともだち・カワン・コミュニティ/塩釜

○福祉

・傾聴の会多賀城/多賀城

・ハッピーピース/塩竈

・パープル・アイリス/多賀城

○まちづくり

・NPOゲートシティ多賀城/多賀城

【3階フリースペース/活動紹介、商品・作品展示】

○社会教育

・多賀城イングリッシュ・サポーターズ/多賀城



前年度の雑貨市の写真展の様子



雑貨市紹介 1階の様子



展示 2階フリースペースの様子



展示 3階フリースペースの様子①

○ノーマライゼーション

- ・さをりひろば余暇よか/利府

○動物愛護

- ・マオメオ・キャットクラブ/仙台

○障がい者支援

- ・認定NPO法人麦の会 コッペ/仙台
- ・NPO法人みどり会みどり工房長町/仙台
- ・NPO法人煌の会工房すびか/仙台
- ・プチエクレア/仙台

○国際協力

- ・NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ/仙台

2)インスタグラム

日 時：令和2年12月1日（火）～12月24日（木）

内 容：団体の商品・作品や活動の紹介、雑貨市の紹介など

投 稿：33 投稿

フォロワー：26 名

インプレッション：1500 （投稿が閲覧された合計件数）

3)販売会

日 時：令和2年12月19日（土）・20日（日）13:00～16:00

会 場：蔦屋書店 多賀城市立図書館 1階

参加費：無料 出入自由

出展団体：6 団体

出展料：1日2,000円

内 容：市民活動団体による販売会

○障がい者支援

- ・認定NPO法人麦の会 コッペ/仙台
- ・NPO法人みどり会 みどり工房長町/仙台
- ・NPO法人煌の会 工房すびか/仙台
- ・プチエクレア/仙台

○動物愛護

- ・マオメオ・キャットクラブ/仙台

○国際協力

- ・NPO法人アマニ・ヤ・アフリカ/仙台

4)ワークショップ

日 時：令和2年12月19日（土）・20日（日）11:00～16:00

会 場：多賀城市立図書館 2階



展示 3階フリースペースの様子②



インスタグラムの様子



販売会の様子①



販売会の様子②

参加費：有料

受 付：多賀城市立図書館

出展団体：2 団体

内 容：市民活動団体によるワークショップ

○社会教育

・多賀城イングリッシュ・サポーターズ/多賀城

参加者：1 日目 10 名 2 日目 7 名

○ノーマライゼーション

・さをりひろば余暇よか/利府

参加者：1 日目 8 名 2 日目 9 名

5) スタンプラリー

日 時：令和2年12月1日（火）～12月24日（木）

内 容：多賀城市民活動サポートセンターの展示、蔦屋書店
・多賀城市立図書館の販売会場、多賀城市立図書館のワークショップ会場の3カ所にスタンプを配置。3カ所のスタンプを集めると多賀城市民活動サポートセンターでクッキーをプレゼント。

目 的：市民の方に3会場すべてを回っていただき、出展団体や施設のことを知ってもらう。

参加者数：74 名

6) リーフレットの作成・配布

仕 様：団体の活動内容・もっと応援、ここで買えます、ひとこと
との項目から2～3項目を選択して掲載。

掲 載：TSCでの展示に出展した20団体

7) たがさぼのゲームセンター

日 時：令和2年12月5日（土）・19日（土）・20日（日）

13:00～16:00

会 場：多賀城市民活動サポートセンター2階フリースペース

内 容：ボードゲームやカードゲームを通じて多様な人とコミュニケーションを取る

参加費：無料 出入自由

参加人数：5 日 9 名（子ども6名 大人3名）

19 日 15 名（子ども8名 大人7名）

20 日 6 名（子ども3名 大人3名）



ワークショップの様子①



ワークショップの様子②



スタンプラリー台紙



リーフレット



ゲームセンターの様子

アンケート集計結果

0. 昨年度出展団体への事前アンケート 回収 20 (送付 31 団体)

○8月31日に送付、9月14日回答締切りでアンケート実施

①コロナ禍の現在、コロナ以前の団体の活動状況を100%とすると、現在はどの程度か

101%以上	100-75%	75-50%	50%未満
0 団体	4 団体	5 団体	11 団体

②雑貨市に参加する目的について（複数回答可）

団体を知ってもらう	他団体との交流	商品の販売	その他
19 団体	9 団体	11 団体	4 団体

③コロナ禍の現在、商品を制作・販売している団体のみ

a. 販売場所はコロナ以前と変わらないか。

変わった	変わらない	無回答/無該当
9 団体	4 団体	7 団体

b. 今年度どこかに出展したか。

出展した	出展していない	これから出展する	無回答/無該当
5 団体	7 団体	2 団体	6 団体

c. オンラインを活用した販売を行っているか。

行っている	行っていないが 今後行いたい	行っておらず 今後行う予定はない	無回答/無該当
2 団体	4 団体	8 団体	6 団体

d. 販売場所が変わった（減った）と回答した団体のみ

新たな販売場所の開拓は必要か。

必要	必要ではない	現在開拓中	無回答/無該当
7 団体	1 団体	1 団体	11 団体

④今年はコロナの感染リスクがあるため、例年通りの雑貨市開催は難しいと考える。

a. コロナ禍で雑貨市を開催する場合、どのような方法が考えられるか（抜粋）

- ・開催日、時間を増やす
- ・屋外での開催
- ・人数制限をする
- ・マスクや入店時の検温、アルコール消毒の徹底
- ・飲食はマスクを外すことになるため避ける
- ・スペースに余裕を持たせる
- ・短時間での販売
- ・オンラインでの開催、動画の配信

b. コロナ感染予防対策をしたうえで、雑貨市を開催する場合、参加するか。

参加する	参加しない	無回答
13 団体	4 団体	3 団体

○b の理由について自由記述 （抜粋）

- ・近隣の感染状況や、開催の工夫・対策次第で検討することになるが、利用者が楽しみにしているイベントであるため、参加したい気持ちはある
- ・生徒はこれまでの参加において、様々な活動をしている方から学ぶことが多かった。また、地域の方に説明することを通して自分たちの活動を見つめ直すよい機会となったので参加させたい。ただ、現在の感染状況では参加可能だが、今後の状況によっては、学校の指示や相談等によって参加できない可能性もある
- ・しっかりと予防対策ができていれば、参加を検討したい
- ・既にマスク生活も手洗い消毒の生活にも、世の中が慣れてきているので、やるのであれば参加したい
- ・参加する事によって我々団体の存在とすばらしい商品（やかもち鍋他）とさまざまな活動を知ってほしい
- ・リスクが不明確な状況での開催は差し控えた方がベターではないかと考える
- ・顔見知りになった参加者もお客様もできたので楽しみにしている
- ・参加したいとは考えているが、どの様な形にするのかを聞いてから考えたい
- ・感染予防対策でマスクをすると唇の動きが見えない為、ろう者や難聴者はかなり参加が難しくなる など

⑤開催時期はいつ頃がいいと思うか。

12 月	1 月	2 月	無回答
11 団体	1 団体	0 団体	8 団体

○⑤の理由について自由記述 （抜粋）

- ・今年の冬はコロナとインフルがどのような状況になっているのか予想できない
- ・年間スケジュールが決まっているため
- ・クリスマスを意識したいのと、1月2月は学校行事の都合上難しい日程である
- ・施設の都合上、1番ゆとりがある時期のため
- ・やる時期に関してはわからない
- ・クリスマス製品を検討しているため、11月から12月前半を希望
- ・毎月第何何曜日開催とか毎月やったらどうか
- ・今年度は見送り、来年クリスマス雑貨市を開催するのが良いのでは？ など

⑥雑貨市への意見等、自由記述 （抜粋）

- ・コロナで様々なイベントが出来なくなり残念。開催できる日を楽しみにしている。
- ・やりたいのはやまやまだが、無理をしてまで、とは思わない
- ・仕事場や家庭で感染した場合のリスクはまだまだ大きい。ただ通常の生活をしなければならない時期にも来ていると感じるので、やるというなら出店する
- ・毎年の開催はすばらしいと思う
- ・せっかく毎年やって定着しているので、工夫しながら開催してもらえればと思う
- ・よい企画だと思うので、来年度以降も継続していただきたい
- ・毎年参加を楽しみにしていたが、今般の状況を鑑みると、これまでのようなワークショップ形式で参加させていただくのは難しいのではないかと考えている。新たな形を模索しているので、またの機会にぜひとも参

加さしていただければと思う。

- ・雑貨市は毎年楽しみにしているイベント。情報保障を手伝ってくれる人達も楽しんでいる。普段なかなか会えない他団体の方々との情報交換も、楽しみのひとつ
- ・協力が必要なことがあればできる限りはしたいと思う。色々大変だと思うががんばってください
- ・安心して皆さんが参加できる状況になるまで、集う形での雑貨市の開催は難しいと思う など

1. 販売会・出展団体アンケート 回収 11（6 団体）※1 団体複数人から回答あり

①他の同様のイベントと比較して売り上げはどうだったか。

よかった	いつもと同じくらい	よくなかった	無回答
3 名	5 名	2 名	1 名

○理由について自由記述（抜粋）

- ・コロナ禍の中、思ったより多くのお客様に商品をご覧いただきました。
- ・会場で通常販売されている商品群の価格帯が、当工房が参加する販売会よりも高いため、心理的にハードルが低い。また、本との相性のよい商品を取り扱っているため。
- ・図書館なので、デザインや身につける物など、少し高くても良いものが欲しい方が多かった印象でした。
- ・売り場がせまく、パンを見せるスペースが小さかった。 など

②お客様と話ができたか。

a. 販売商品について

できた	できなかった	売り上げの使途について説明した
10 名	1 名	0 名

○a の理由について自由記述（抜粋）

- ・コロナの感染予防を考えているお客様が多く、商品を手にとらず見るだけという方もいらした。興味を持ってくださった方とは多くお話できました。クリスマス用の商品の品揃えを増やし、今だけを強調した売込みをはかれるようにすると、もう少し話がしやすくなると思う。
- ・クリスマスカードが人気でした。沢山会話をしました。
- ・コミュニケーションをとりながら売り上げにつながった方もいて嬉しかったです。
- ・TSCでやるより、（雑貨市を）目指してきているというより、通りすがりの方、図書館利用者の方が多く興味はうすい感じでした。 など

b. 団体の活動について

説明できた	説明できなかった	無回答
2 名	7 名	2 名

○b の理由について自由記述（抜粋）

- ・そういう雰囲気ではなかった。
- ・ショップ案内（工房案内）もってきていたので
- ・スペースの狭さもあり、お待ちいただく時間を最小限にする為、スピーディな対応を心掛けた。 など

c. その他お客様とどのような話をしたかについて、自由記述（抜粋）

- ・ 去年たがさぼの雑貨市に参加した方が、他の商品も見られて嬉しかったと話がありました。
- ・ 例年のクリスマス雑貨市の話
- ・ あまり話は広がらなかった。

③感想、意見、気づいたことなどについて自由記述（抜粋）

- ・ 準備から開店までが長かった。開店時間が午前中だとよかった（その方が集客がありそう）
- ・ 素敵な空間で販売する機会をくださり誠にありがとうございました。

※販売会出展団体売り上げ（6団体合計）

12月19日（土）	12月20日（日）	合計
121,869 円	131,860 円	253,729 円

2. ワークショップ出展団体アンケート 回収2（2団体）

○感想、意見、気づいたことなど、自由記述（抜粋）

- ・ 2階という場所は良かったけれど、宣伝方法を考えないとお客さんは上がって来ない。
- ・ 初日のカード作りでの子どもによるローマ字での住所書き、2日目のバッグの色塗りで普段子ども（小学生）様子を直接見られない保護者の方が感激していた。近くで見ていてうれしくなった
- ・ 当日は自分の体験ブースのことで夢中になっておりましたが先日貴センターから送付された「活動まるわかり Booklet」でたくさんの団体の方々がいらっしゃったことを知りました。貴センターの取り組みに敬意を感じました。また、これからも関わり合っていきたいと新たに思いました。ありがとうございました。

3. 来場者アンケート 回収27

①ご自身のこと

a. 年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代以上
9名	4名	4名	3名	4名	3名	0名

b. お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他	無回答
17名	2名	2名	0名	0名	4名	0名	2名

c. 回数

初めて	2回目	3回目	4回以上	無回答
14名	2名	1名	7名	3名

②どこで雑貨市を知ったか（複数回答可）

a. 聞いて

スタッフ	家族	友人知人	他
11名	3名	2名	3名

b. チラシ

T S C	市役所	市内外施設	店舗等	他
3 名	2 名	1 名	2 名	1 名

c. インターネット・各種メディア

HP	ブログ	ツイッター	新聞、雑誌	フリーペーパー	その他
3 名	0 名	0 名	1 名	0 名	4 名

③参加したイベント（複数回答可）

団体展示	販売会	ワークショップ
15 名	19 名	13 名

④5 段階評価

5	4	3	2	1	無回答	平均
14 名	7 名	5 名	0 名	0 名	1 名	4.3

○④の理由について自由記述（抜粋）

- ・狭すぎてゆっくりみることは難しかった。もう少し広いといいなと思いました。
- ・かわいい雑貨がたくさんあるだけでなく、様々な団体が活動していることを知れて良かった。
- ・手作りのものはぬくもりを感じて嬉しいです。
- ・コロナで例年通りとはいかない開催でしたが、さをり織りの体験や好きなお店（コッペさん）もあり、ポイントでは大満足です。
- ・様々な活動を知るには良い場所にあり、関心を持てた。ただ、もう少し知りたいので情報をもっと欲しい。
- ・展示品がもっとあると良かった。もっと見てみたい。

⑤雑貨市の日程

ちょうどいい	もう少し早く	気にしない	その他	無回答
14 名	1 名	6 名	0 名	6 名

⑥雑貨市に来た理由（複数回答可）

雑貨	クリスマス イベント	都合よし	団体活動	自分の 活動	気軽	偶然	その他
11 名	7 名	10 名	9 名	4 名	10 名	6 名	2 名

⑦出展団体について初めて知ったこと（複数回答可）

商品購入 が支援	商品がつく られた経緯	国際協力・ フェアトレード	障がい者福 祉・社会福祉	子ども	まちづくり	動物愛護	その他
18 名	8 名	7 名	9 名	4 名	8 名	4 名	1 名

○⑦について自由記述（抜粋）

- ・展示がいろいろありすぎて華やかではあるがよくわからなかった。
- ・多賀城(市市民活動)サポートセンターがあることを今日初めて知りました。
- ・少し入りにくかったですが、こういう機会があってよかったです。
- ・商品を購入する際に、商品がどのように作られたか知れてよかったです。

⑧今後も支援につながる買い物をしたいか

はい	いいえ	無回答
25 名	0 名	2 名

⑨感想、気づいたことについて自由記述（抜粋）

- ・雑貨もワークショップもとても楽しかった。
- ・楽しいイベントで良かったです。
- ・スタンプの位置、やり方がわからなかった。
- ・また来たいです！コロナのさなか大変な状況続くとは思いますが、応援しています。
- ・仙台の友人を通じてこのイベントを知りました。
- ・もっと、障害のある方と手作りのものを通してふれあえる機会が沢山ありますように。

4. 販売会・ワークショップ出展団体事後アンケート 回答6（送付8団体）

○実施 令和3年2月8日（月）～14日（日）

①雑貨市終了後、お客様からの問い合わせが増えるなど、反響はあったか。

あった	なかった
1 名	5 名

○あった場合の内容について自由記述

- ・雑貨市にご来客の方が工房に来所くださり、商品をお買い求めくださった。

②雑貨市の実施により支援者が増えるなど、団体の活動に関して変化があったか。

あった	なかった
0 名	6 名

③1ヵ月後経過しての意見、改善点などあらためて気づいたことなどについて 自由記述

- ・今年1月に行ったワークショップには、雑貨市に来られた2組の親子がおいでになり、楽しんでいらした。
- ・一般のお客さんの目を引き、関心を持ってもらうことはなかなか難しいことだと思う。でも、あそこでなければ、出会えない方もいらしたと思う。「外」に出ていくことも大切だと思った。
- ・コロナ禍の中で、商品を販売する機会がとても貴重だった。販売場所、時間帯によって商品の種類や売れ行きが違うことが分かり、今後販売するうえでもとても参考になった。
- ・お客様も私どもの協力者か、あるいは多賀城駅前のマルシェにきていただいている方、毎年クリスマス雑貨市にいらしている方という感じだった。事前の周知が少なかったせいか、と思う。開催時間が短く、その割に集合時間が早く待ち時間が長かったので、開催時間を午前中から午後は3時ころまでにしていただきたい。

- ・図書館の都合が許すならば、年１回のクリスマス雑貨市とは別に定期開催があれば市民の方々にも定着、浸透するのではないかと思います。
- ・会場テントに屋根で全体が暗かった印象。屋根を外すと影がなくなり、より明るくなるのではないかと。
- ・当工房を含め、販売ブースの全体的な雰囲気が、“クリスマス”を意識していなかったと感じた。次回は全体の雰囲気も考えたブース作りに尽力したい。
- ・開催日までメールが多く届き、情報を拾うのに苦勞し、当工房の段取りの確定に時間を要した。販売時間の割には労力が多かった販売会であった。
- ・蔦屋書店での開催は初めてとの事で、主催者側には多くのご苦勞があったと思うが、次回はお互いの労力がより少なく、よりお客様に來場いただける市になるよう、参加者側でも協力できればと思う。
- ・参加者からのフィードバックを効率よくして頂きたい。
- ・現場（特に振返りの場）で参加者の気を削ぐような発言は慎んで頂きたいと思う。

* 添付資料 ☐ チラシ ☐ 当日配布資料

(1)地域の担い手育成事業 2)いちから塾

目 的	○自分も含めた身の回りの「困った」「大変だ」などの想いを共有し、「ほっとけない」「何とかしたい」こと(＝課題)の気づきを促す。 ○上記の課題に対して、自分にできることや取り組みたいことを考え、アクションにつなげる。
背 景	○平成31年度「多賀城市まちづくりアンケート」(令和2年2月実施)において「市民活動、NPO活動、ボランティア活動などに、『今後参加してみたい』と答えた市民が40.7%を占めた。本事業では、このように関心はあるもののまだ行動に表わしていない市民を本事業のメインターゲットに据えて進めていく。 ○また前年度までの実施事業では、参加者がNPOの基礎や既活動者の取り組みを学び、自分の想いを深めることで新たな活動が生まれたり、すでに取り組んでいた活動がレベルアップした事例が複数出てきた。本事業でもこれを継続し、想いを引き出し深めることを出発点にし、個々で取り組めるアクションを考えることを通して地域活動の担い手を増やせると考えた。 ○その際に、コロナ禍の現状も踏まえ、自分も含めた身の回りについての気づき～自分の好きなこと・興味のあることや特技、コロナ禍で困ったことなど～をかたちにして、住みよいまちにするために自分たちでできることから取り組んでいけるようサポートをしていきたい。
対 象	○何かしたいと思っているが、まだ一步を踏み出せていない方 ・何かしたいと思っているが、その何かが定まっていない方 ・やりたいことはあるが、具体的な実現の方法が分からない方 など
成果目標	①参加者の8割が、自分も含めた身の回りの「困った」「大変だ」などの想いを言葉にすることで、自分なりの「課題」を見つけることができる。 ②参加者の5割が、「課題」に応じて、何らかのアクションを起こすことができる。
成 果	○参加者のほとんどが、自分の興味関心や得意なこと、取り組みたいと考えていることだけでなく、コロナ禍の中での「困った」「大変だ」と思っていることも多く共有され、そこから取り組めそうなことを考えることができた。 ○講座に参加したことで、「自分の想いを整理できた」と感じた参加者が多かった。 ○NPOの基礎を学ぶことで、自分の取り組みたいことを考えることができていた。 →成果目標①：達成率100%(小さなアクション講座において)
次年度に向けた課題	○自分について見つめ直すことやNPOの基礎を学ぶことに時間をかけてしまい、アクションを起こす所まで進めることができなかった。ただ、すぐにアクションにつながらなくとも、あとから動きが起こるケースもあるので、折を見て声がけしていきたい。 →成果目標②：達成率8%(小さなアクション講座・NPOいちから塾において) ○上記の「多賀城市まちづくりアンケート」の通り、「何かしたい」「～したいけど、踏み出せない」方は一定数いると思うが、その掘り起こしが今後の課題となる。TSC窓口などでの情報収集、各所との連携やTSCの役割の周知などを通して、このようなことを考えている市民にアプローチをしていきたい。

実施概況(1)地域の担い手育成事業 2)いちから塾

1. 「with コロナ」今だからやりたい!! 小さなアクション講座

日 時:

【木曜コース】

令和3年1月14日(木)・28日(木) 19:00~20:30

【土曜コース】

令和3年1月16日(土)・30日(土) 10:30~12:00

※木曜コース、土曜コースともに同内容の2回連続講座

会 場: 多賀城市民活動サポートセンター 301 会議室

参 加: 木曜コース: 3名(うちオンライン参加1名)

土曜コース: 2名

ファシリテーター: スタッフ渡辺

プログラム:

【1回目】

- ①イントロダクション
- ②自分のことを振り返る
 - ・自分の「好き」「興味」「得意」
 - ・新型コロナウイルスの影響による「困った」「たいへんだ」
- ③さらに、自分のことを掘り起こしていく
 - ・他の参加者やスタッフからの質問も踏まえながら

【2回目】

- ④前回のワークをもとに、
 - アクションの種を見つける・生かし方を考える
- ⑤自分にできる小さなアクションの案をつくる
- ⑥まとめ・アンケート記入など

2. NPOいちから塾

日 時: 令和3年3月13日(土) 14:00~16:00

会 場: 多賀城市民活動サポートセンター

301 会議室、1、2階フリースペース

参 加: 8名

プログラム:

- ①イントロダクション
- ②NPO基礎講座(講師: スタッフ渡辺)
- ③たがさばガイドツアー(担当: スタッフ勝井)
- ④「3.11」展示から考えるワークショップ
(ファシリテーター: スタッフ奥村)
- ⑤まとめ・アンケート記入など



(1回目) ワークシートで自分を振り返る



(1回目) シートを見ながら想いの深掘り



(2回目) アクションの種をふくらませる



NPO基礎講座。「非営利」とは?



たがさばガイドツアー。「チラシも置けます」

3. 出前いちから塾

1) 東北学院大学工学部

「地域の課題Ⅱ（地域課題版）」第3回講義

日 時：令和2年10月12日（月）8:50～10:20

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 201 会議室
（オンラインで配信）

参 加：9 名

講 師：スタッフ渡辺

内 容：

- ・多賀城市の概要、市民活動や地域活動、コミュニティについて多賀城市総務部地域コミュニティ課舩木崇雄主査とともに話題提供を行った（それぞれ20分程度）。
- ・このうち、TSCについてと多賀城周辺で活動するNPOについての部分を担当した。

その他：

- ・令和3年1月18日（月）実施の第14回講義（学生の調査結果の発表会。TSCからオンラインで配信）にも参加し、発表に対する質疑や助言を行った。

2) 多賀城高等学校1学年「社会人講話」

日 時：令和2年11月10日（火）12:50～16:10

会 場：多賀城高等学校

参 加：11 名

講 師：スタッフ渡辺

内 容：

- ・NPOやTSCについて
- ・講師のこれまでのキャリアや、仕事をする上で大事にしていることなど

その他：NPO法人ハーベストが運営



生徒たちと車座になってNPOを語る講師

アンケート集計結果

1. 「with コロナ」今だからやりたい！！小さなアクション講座 回収5（参加5名）

①年 代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	2名	2名	1名	0名	0名	0名

②お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市
2名	1名	0名	0名	0名	2名

③講座をどこで知ったか

T S C ウェブページ	広報多賀城	「河北新報」 イベント欄	「きてけさ in 仙台」	無回答
1名	1名	1名	1名	1名

④5段階評価

5	4	3	2	1	平均
1名	4名	0名	0名	0名	4.2

⑤感想など

- ・自分の考えていたことが、根っこではつながっていたことが分かった。
- ・いろいろと掘り下げていくことの大切さを改めて感じました。思ったことを行動に移していきたいと思います。
- ・自分を客観視することができて、分かりやすかったです。分析が楽しかったです。
- ・自分のやりたいことにコンセプトを持ってやるための作業の必要性を改めて感じました。今後の活動に生かしていきたい。
- ・新しい会を始められそう。

2. NPOいちから塾 回収8（参加8）

①年 代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
1名	0名	2名	3名	1名	0名	0名	0名	1名

②お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	富谷市
5名	2名	0名	0名	0名	0名	1名

③講座をどこで知ったか

講座チラシ	T S C Web ページ	広報多賀城	友人から聞いた
5 名	1 名	1 名	1 名

④5 段階評価

5	4	3	2	1	平均
5 名	1 名	0 名	1 名	0 名	4.4

※参加者のうち1名が途中退席であったため、7名から回答

⑤感想など

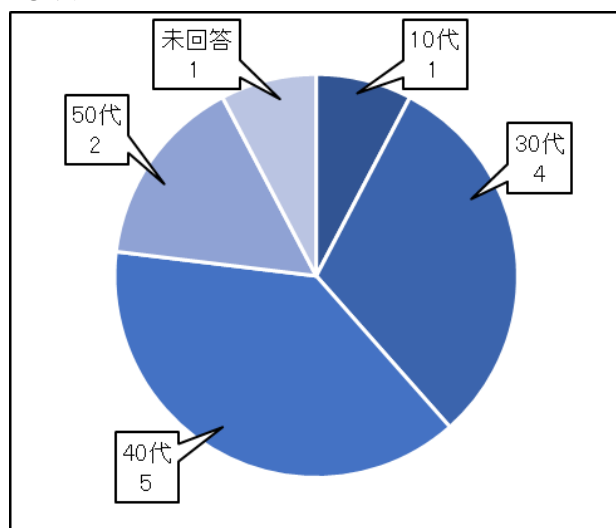
- ・NPOの基本や成り立ちなどを詳しく学ぶことができた。学んだことを今後に生かしていきたい。
- ・「非営利」ということの本来の意味を知り、NPOの活動自体が循環してるのだと感じました。
- ・NPOについて、分かりやすい説明が聞けてためになった。また、TSCに寄らせていただきます。
- ・NPOの活動をしている人の価値観と自分の価値観にズレを感じました。
- ・NPOを立ち上げた方が、活動の場が広がると感じました。
- ・NPOの基本を学ぶことができた。自分のやってみたいことをデザインして、実現に向けて行動してみます。
- ・NPOを立ち上げるための段階や進め方を学びました。地域のため、人のために動いていきたいと感じました。

3. 出前いちから塾

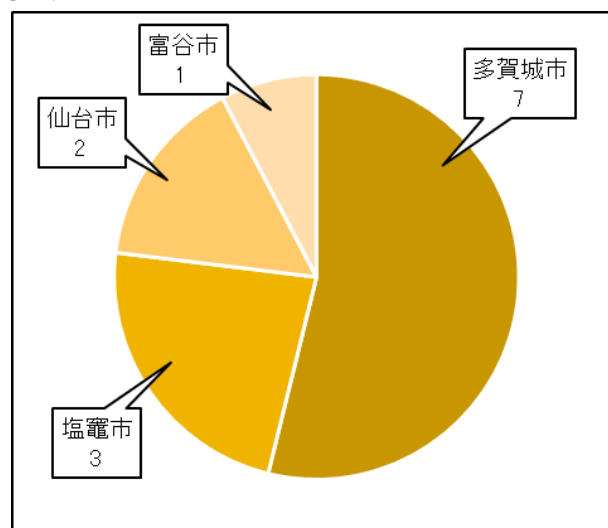
- ・事後アンケートは行わなかった。(今年度は、高校や大学の授業に参加という形でのみ実施したため)

4. 全体集計

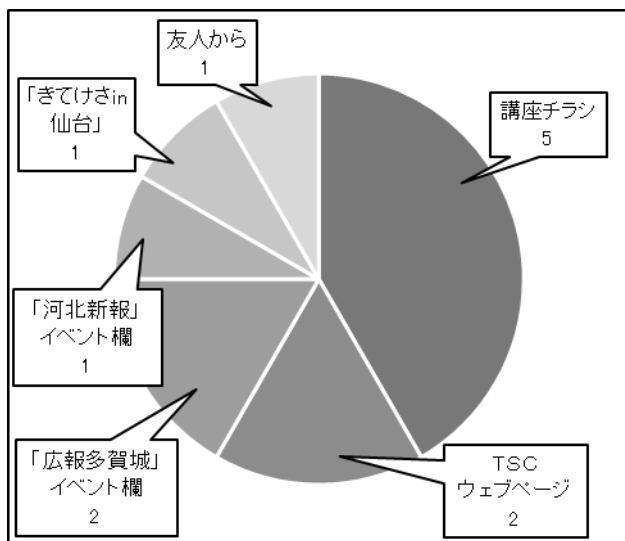
①年代



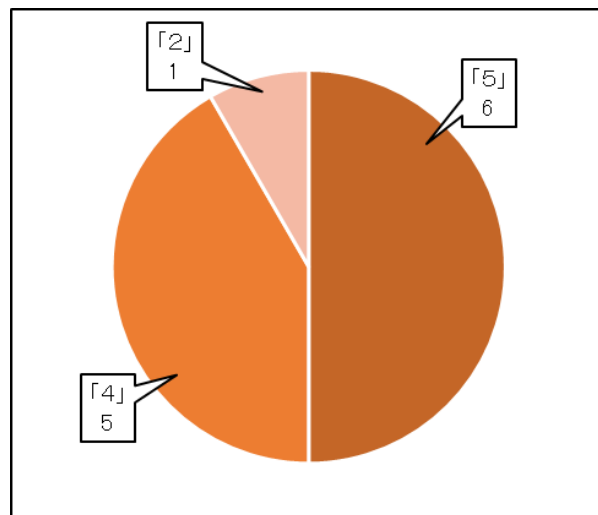
②お住まい



③講座をどこで知ったか



④5段階評価



【分析】

- ・30～50代の現役世代の参加は85%であった。
- ・住所は多賀城市が最も多く、過半数を占めた。また塩竈市も多く、この二市で4分の3を占めた。
- ・講座を知ったきっかけは講座チラシが最も多く、続いてTSCウェブサイト、「広報多賀城」イベント欄が続いた。これらと、多賀城市からの参加者が多かったこととの関連性もあると推定される。
- ・講座満足度は、「5」と「4」で92%を占めた。参加者が多くなかった分、ていねいに講座を進めることができた点、また、参加者から今後の活動にもつながりそうだという感想も多くあった点がこの評価につながったと考えられる。

* 添付資料 □チラシ □当日配布資料

(1)地域の担い手育成事業 3)自己分析と運営パワーアップ事業

目 的	○地域で活動する団体が、自団体の強み・弱みを分析する力を高め、団体の運営課題を明らかにし解決する力をつけ、より効果的に活動できるよう促す。 ○コロナ禍によって変化を求められる団体の運営面や活動のサポートをし、今後の活動のモチベーション維持、継続につなげるきっかけをつくる。 ○団体の運営や活動に必要な情報を提供し、活動の幅を広げる力をつける。
背 景	○コロナ禍で活動内容の変化が求められ、団体の環境や情報不足などにより活動のモチベーション維持、継続が難しくなっている。 ○団体が力をつけたいテーマとして、情報発信・人材育成・資金調達が多く上がっており、広報や資金調達の講座を希望する声もあった。 ○ブース入居半年後に行われるインキュベート相談会は、団体の現状と課題・目標をヒアリングし、これまで以上に課題解決へ向けた継続したサポートが必要である。 ○活動に関して似た内容の相談が多くみられる。よりよい対応を行うため要望や相談の多い内容を集積することで、一貫した対応と団体に合わせてステップアップした対応をこれまで以上に可能とする。
対 象	○既活動者・NPO・市民活動団体 ○地域や社会の課題解決に取り組みたい個人 ○ブース入居団体／レターケース・ロッカー利用団体
成果目標	①講座・相談会実施後、団体が課題解決に向けてのアクションを起こしている。 ②団体のことを知ってもらいたい相手に、必要な情報を届けることができている。 ③お役立ち情報を活用し新しい手法を取り入れながら、課題解決につなげる。
成 果	○個別相談会で課題を深掘りした成果、これまで見えていなかった自団体の課題に気づき、新しい視点で課題の本質を考えることができた。また、人材育成を課題とあげていた団体が、相談会に参加したことにより団体内では見えていなかった人材の発掘ができた。 ○広報相談会によって、団体が伝えたい内容をまとめた広報物を完成させ、団体の活動周知のツールが増えた。 ○これまで寄せられていた相談を基に、お役立ち情報をリニューアルした。課題を持つ団体や個人に対し、これまで以上にアプローチしやすくなった。
次年度に 向けた課題	○個別相談での深掘りを経て、団体が必要と感じた相談会や講座に参加してもらうような流れをつくる。またお役立ち情報を活用し、課題解決のための相談をより充実させる。 ○アンケート回答から広報に関する制作物についての講座希望の声が多い。さまざまなツールの講座・相談会などを通して、団体がより効果的な発信をできるよう支援する。

実施概況(1)地域の担い手育成事業 3)自己分析と運営パワーアップ事業

0. 新型コロナウイルスの影響下にある多賀城のNPO向けヒアリング

実施：令和2年6月

対象：活動範囲に多賀城が含まれるNPO・市民活動団体

- ・事務用ブース・事務用ロッカー・レターケース利用団体
- ・団体紹介シート提出団体
- ・雑貨市出展団体（多賀城周辺）
- ・市内こども食堂運営団体 ・市内NPO法人
- ・当事者団体 などからリストアップ

内容：団体の現状をWeb ページや来館時に情報収集。その後メールでアンケート回答の依頼をする。メールアドレスのない団体へは、電話や窓口でヒアリングを行う。

回答数：42 団体（アンケート依頼、電話などでのヒアリング数は46 団体）

1. NPO・市民活動 運営なんでも相談会

日時：令和2年10月23日（金）

①11:15～12:15 ②13:00～14:00 ③14:30～15:30

令和2年10月29日（木）

④11:15～15:30

会場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室

対象：ブース入居団体。他に希望団体の募集も行う。

内容：団体の強み弱みの分析と整理をする。事前に行ったNPO向けヒアリングアンケート、また、運営相談のヒアリングシートから、団体の相談内容に合わせた各種ワークシートを用い、深掘りと整理を行った。

相談員：スタッフ櫛田

参加：4 団体/9 名

- ・多賀城イングリッシュ・サポーターズ（TES）
- ・てんでん宮城 ・生涯学習 100 年構想実践委員会
- ・ハッピーピース

2. NPO広報相談会～「伝える」から「伝わる」に！～

日時：令和2年11月16日（月）

①15:00～15:45 ②16:00～16:45

令和2年11月23日（月・祝）

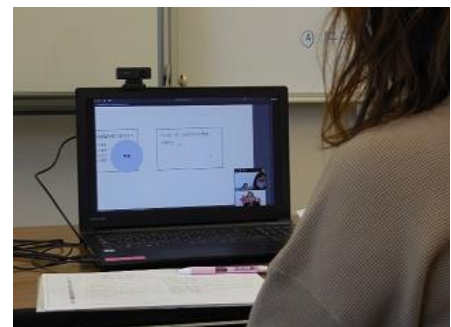
③13:00～13:45 ④14:00～14:45

令和2年12月1日（火） ⑤15:00～15:45

会場：多賀城市市民活動サポートセンター 201 会議室

対象：市民活動団体所属の方

運営相談会で使用したワークシート



広報相談会の様子。Zoom で個別に行った

内 容：団体の課題にあわせた情報発信のための個別相談会。事前に相談したい広報物と相談内容ヒアリングシートを提出いただき、相談内容に合わせたアドバイスを行う。

講 師：林田全弘さん（グラフィックデザイナー）

参 加：7団体/10名

- ・みやぎ化学物質過敏症の会～ぴゅあい～
- ・特定非営利活動法人MIYAGI子どもネットワーク
（多賀城市鶴ヶ谷児童館・多賀城市西部児童センター）
- ・ともだち・カワン・コミュニティ
- ・宮城県学童保育連絡協議会
- ・桜木東町内会
- ・ハッピーピース
- ・特定非営利活動法人いのちのパン

3. 知ると広がる！NPO資金調達のはなし

日 時：令和2年12月6日（日）13:30～15:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室

対 象：市民活動団体に所属の方

内 容：資金調達の種類や手法の基本を学び、自団体のアピールをするワークを行う、ファンドレイジング入門講座。

講 師：鈴木美紀さん（日本ファンドレイジング協会・認定ファンドレイザー／特定非営利活動法人せんだい・みやぎNPOセンター）

参 加：7名（申込8名）

- ・特定非営利活動法人いのちのパン
- ・一般社団法人宮城県キャンプ協会
- ・「サーラ文庫」大代
- ・ココロサポート
- ・しっぽゆらゆら杜猫会
- ・他（町内会役員、個人）

4. （新）市民活動お役立ち情報作成

作成テーマ：①NPOってなんだろう？（改訂）

②市民活動のはじめかた（新規）

③情報発信／インターネットを活用しよう（新規）

仕 様：A4 裏表 モノクロ ※データ受取はaiとPDFファイル
デザイン：(株)ユニグラフィック ※印刷は輪転機で行う

活 用：館内配架、また相談対応での参考資料などで活用。

ホームページへ掲載し閲覧、ダウンロード可能にする。



広報相談会で使用した資料



資金調達講座の様子。イラストで団体の紹介をするワークを行った



（新）お役立ち情報

アンケート集計結果

0. 新型コロナウイルスの影響下にある多賀城のNPO向けヒアリング 回収 42 (送付 46)

①新型コロナウイルスの感染拡大により、活動に影響は出ているか

出ている	これから出てくと思う	ない	わからない
38 団体	1 団体	3 団体	0 団体

○「影響が出ている」と回答した団体の具体的な内容

- ・活動の一定期間の休止、作品展&ワークショップの中止
- ・活動場所も確保できないため計画が立てることができない
- ・集まって話す機会がなくなり、情報交換がしにくくなった
- ・食料品廃棄が増えたため、これまでにないほど食料品を受け取った

②新型コロナウイルスの感染拡大により、活動の対象者への影響や問題・課題はあるか

ある	これから出てくと思う	ないと思う	わからない
30 団体	2 団体	3 団体	7 団体

○「ある」と回答した団体の具体的な内容

- ・リスクを感じ活動を休止しているが、温度差があり再開を望む人もいる
- ・家から出られないもどかしさもあり、当事者もその家族も不安が募っている。
- ・子どもに虐待をしてしまったという母親からの相談が増えた
- ・オンライン環境を整えることができない人がお休みしている
- ・ステイホームで猫の里親依頼が多いが、精査するのが難しい。また他県への犬猫譲渡をストップしている。
- ・啓発活動がメールだけのやり取りで、「顔の見えない存在」となってしまう、不利な状況が続いている。
- ・主催者として「感染予防に関するガイドライン」等を提示して対応について理解してもらう
- ・収入減
- ・企業からの支援（マスク・菓子など）があり、活動対象者へ配布。つながりができた

③新型コロナウイルスの感染拡大により、活動や団体運営の中で変えたことはあるか

ある	ない
29 団体	13 団体

○「ある」と回答した団体の具体的な内容

- ・衛生管理の徹底
- ・会員・サポーターがつながる場として、月2回の会報を郵送している
- ・オンラインの講義や勉強会
- ・役員会の中止・縮小、イベントのWeb化
- ・リスクを避けるために、食堂開催ではなくテイクアウトに変更
- ・Zoomを使用してのカウンセリングに変更
- ・営業（出店先）の強化
- ・「新型コロナウイルス対応ガイドライン」を策定し、カンパンプログに公開している

④現状において力をつけたいテーマ（複数回答可）

事業立案	人材育成	資金調達	情報発信	協働	政策提言	その他
7 団体	9 団体	9 団体	14 団体	4 団体	1 団体	10 団体

○その他と回答した団体の具体的な内容

- ・会員の増員。事務局員の増員
- ・本当に支援を必要としている子供へのアプローチの方法
- ・虐待をした親向けのカウンセリング（更生プログラム）
- ・養成講座開講・助成金申請等
- ・学生ボランティアの発掘

⑤今後活動していく上での課題や心配事について

- ・会員内でのモチベーションの維持
- ・活動を再開したところで以前のような人数が果たして集められるのか不安
- ・「集まる」という形が持っているメリットが、「テイクアウト」では、単に食事の提供になってしまう
- ・いつコロナが終息するかと、仮に事業実施できた場合の安全性の確保や対策が万全に行えるかという点
- ・イベント資金だけを原資に活動している。（イベント中止が多い中）活動資金に不安がある
- ・販売会の声が掛からず、これからのメンバーの活動を模索中
- ・読み聞かせは、生の声で届けたい。オンライン上では来場者との呼吸がつかめない。
- ・団体メンバーは慎重な方が多く参加も躊躇する。責任もあり、簡単に「顔を出して」と声をかけることができない
- ・オンラインでの活動が増えていくことを考え、よりスムーズに行えるよう、知識を増やしていくことが課題
- ・（感染者増加により施設が使えないなど）今後施設での活動が減っていく中で地域貢献等どのような形でできるか

1. NPO・市民活動 運営なんでも相談会 回収6（参加9）

①運営相談会を何で知ったか（複数回答可）

たがさばスタッフ	チラシ	HP・ブログ・ツイッター	知人・友人	広報多賀城	その他
5 名	2 名	0 名	1 名	0 名	2 名

②参加理由について

- ・会の運営や継続についての知識吸収のため
- ・解決したい課題がいくつかあったため。客観的なアドバイスが欲しかったため
- ・ブースをお借りしているため
- ・やれる事をやって、行動を進めなければと考えて、進むことにしました

③5段階評価

5	4	3	2	1	平均
1 名	3 名	2 名	0 名	0 名	3.8

○③の理由

- ・たがさぼスタッフと二人でさまざまな話をした。大変意義があった
- ・時間がもっと欲しかった
- ・こちらのわがままで、席の位置など配慮いただいた。ありがとうございます

④相談会に参加して得られたことや感想について

- ・このような話し合いは必要。年数回ぐらいはあっても良いと思う
- ・客観的にヒアリングしてもらうことで、課題がより明確になった。解決策につながるヒントや選択肢が広がった
- ・これから先の活動のあり方を考えるきっかけになった
- ・自分ではネガティブにとらえていることでも、肯定しつつ違う考え方を提示してくれた。自分では考えつかないことも多く驚かされる。UDトークを、たがさぼでも是非活用してほしい。(無料の時間が増えたり、バックグラウンドでも動くようになったり、色々使いやすくなっている)

⑤今後実施してほしい相談会や講座について

- ・コロナ対策
- ・パワーポイントについて
- ・チラシ作成について
- ・団体の課題について
- ・Zoomの講座をまたやってほしい

2. NPO広報相談会～「伝える」から「伝わる」に！～ 回収10(参加10)

①年 代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	4名	3名	0名	3名	0名	0名

②お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
3名	1名	1名	0名	1名	3名	1名

○その他(名取市)

③講座を何で知ったか(複数回答可)

たがさぼスタッフ	チラシ	HP・ブログ・ツイッター	知人・友人	広報多賀城	その他
5名	2名	0名	1名	0名	2名

④5段階評価

5	4	3	2	1	平均
4名	5名	1名	0名	0名	4.3

○④の理由

- ・聞きたいことが質問でき、イメージがわかりました

- ・自分では思いつかなかった発想が出てきてチャレンジしてみようと思った
- ・自分達だけで情報収集できない分野で詳しい方に質問を生ですることができたのは大変助かった

⑤感想

- ・新しい周知方法（対象を絞る、新しいメディアの活用など）が知れた
- ・個別に相談できて、聞きたいことも質問できた。専門的なことが全くわからない状況だが、とてもわかりやすく教えていただき、広報物のイメージが湧いた
- ・誌面づくりの心構えや、広報誌の作り方について資料をいただき具体的な説明が参考になった。特に「行事スケジュールと発行時期」は作成計画の必須アイテムとなる
- ・ウェブサイト寄付サイトを導入するにあたっての、諸々の手続きや取組むべき課題が具体的になった

⑥今後開催してほしい相談会や講座のテーマ

- ・インスタなどの活用方法について
- ・個別相談会、広報相談会、ブログ・SNSに関する講座や相談会
- ・PRのための動画作成や、広報のためのSNS（インスタ）利用について
- ・困窮者支援に関してのノウハウ
- ・会費や協力者（支援者等）など人材を増やすための講座

3. 知ると広がる！NPO資金調達のはなし 回収7（参加7）

①年代

10代以下	20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	0名	1名	2名	3名	1名	0名

②お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
3名	0名	1名	0名	0名	2名	1名

○その他（大崎市）

③今回の講座を何で知ったか（複数回答可）

たがさぼスタッフ	チラシ	H P ・ プ ロ グ ・ ツ イ ャ ャ ー	知人・友人	広報多賀城	その他
5名	0名	0名	1名	1名	0名

④5段階評価

5	4	3	2	1	平均
3名	4名	0名	0名	0名	4.4

○④の理由について

- ・とても分かりやすい内容だった
- ・内容は理解できたが、実際にできるかとなると自信がない。本の紹介はよかった
- ・NPOの資金調達のしくみを知ることができた

⑤講座に参加して得られたことや感想

- ・自分たちの団体の活動目的、成果についてもう一度考える必要を感じました。共感を得ることはなかなか難しいと実感している
- ・資金より前のことで考えた方がよいのがわかった。また必要になった時に足がかりができたのでよかった
- ・資金調達するための準備に向けての必要なことなどを知ることができた
- ・継続的に助成金を続けられるよう、さらなる努力（特に活動）が必要と感じた

⑥今後開催してほしい相談会や講座のテーマ

- ・町内報・回覧のつくり方など広報活動に関すること
- ・チラシの作成（こちらのチラシがいつもステキで見えていて楽しい）
- ・「Zoom」での絵本のやり方（？）専門士の方の話

* 添付資料 ☐ チラシ ☐ 当日配布資料

(１)地域の担い手育成事業 ４)連携の担い手となるためのヒアリング事業

目 的	○企業も市民であり、地域の課題を知り、企業の資源を地域の課題解決に活かすこと ○企業がもつ課題は地域の課題でもあるので、その課題を知る ○コロナ禍における地域・社会貢献の実施や、地域・社会貢献の意識の変化を探る ○コロナ禍における企業が抱える問題などを知る（雇用解雇、技能実習生など） ○コロナ禍における働き方の変化による地域の関わり方を探る
背 景	T S Cでは各セクターがさまざまな立場や資源を持ち寄り、地域の課題解決に取り組んでいくことを目標に、当事者や企業、自治会・町内会の声から、地域課題を考える場をつくってきた。企業も市民であるとともに、企業が抱く課題も地域の課題でもある。 また、今年度はコロナ禍で企業活動の制限がある中、地域貢献活動の状況も変化していると思われる。地域との関わり方をどうしているのか、どう考えているのかをアンケートから調査し、企業のもつ資源の活用を考えていく。
対 象	・多賀城市内に事業所がある企業。特にコロナ禍での地域・社会貢献を行っている企業 ・連携の可能性のある業種。飲食業やスーパー等小売り、資源をもつ工場。 ・T S R会議に参加した企業や事業所 ・多賀城市内の寺院等
成果目標	①コロナ禍における地域・社会貢献の実施や、地域・社会貢献の意識の変化を探る ②コロナ禍における企業が抱える問題などを知る ③コロナ禍における働き方の変化による地域の関わり方を探る
成 果	○アンケートを送付した企業から 46 件の協力があり、その後詳しくヒアリングなどを行い、関係性づくりにつながった。その後、T S R会議などへ参加していただいた企業もある。 ○コロナ禍の影響で少なくない数の企業がコロナ以前より業務状況割合の低下しているなかで、「貢献活動を行っている」との回答が多く寄せられた。また貢献活動を「現在行っている」と「今は行っていないが、今後行う予定」を合わせると半数以上の企業が貢献活動へ前向きな回答をしている。
次年度に 向けた課題	○地域（N P O・市民活動団体や町内会・自治会）の課題を考慮した上で、地域と企業がつながる機会を丁寧に組み立てていくこと。 ○まだ貢献活動を実施していない企業、資源も見つかっていないが、地域や社会への貢献意識のある企業への継続的なアプローチを行うこと。 ○観光への支援を継続的に行っていた企業が、今年度は支援できない現状がある。その支援を今必要としているN P O・市民活動団体へ支援する仕組みを作る。 ○企業が支援しやすい仕組みを作り、コロナ禍での企業の取り組みも発信する。

実施概況(1)地域の担い手育成事業 4)連携の担い手となるためのヒアリング事業

1.「コロナ禍における多賀城市の企業の社会貢献活動等のアンケート」の実施

時 期：6月1日(月)～30日(火)まで回収

対 象：多賀城市内に事業所をおく企業・宗教法人 200 社

多賀城工場地帯連絡協議会参加企業 60 社

回答数：46 件

方 法：アンケートをTSRの冊子とともに郵送。回答方法はFAX、メール、入力フォームで受付

2. アンケート内容のヒアリング

時 期：随時

対 象：アンケートに回答したヒアリングが可能な企業 29 件程度

多賀城市民活動サポートセンター 宛て

コロナ禍における多賀城市の企業の社会貢献等のアンケート

①企業 業 種：
②担当責任(部署)：
③ご連絡先(TEL)：

1) コロナ禍の発生、コロナ以前の業務状況を100%(コロナ前と変わらない)とすると、現在はどの程度でしょうか？

☐101%以上(コロナ前より増加) ☐100～90% ☐89～70%
☐69～50% ☐49～21% ☐20%以下

2) コロナ禍で、下記の選択の中で貴社が、対応すべきと考えていることや、社会や地域のなかで貴社が事業として取り組んでいる項目(複数可)を記入してください。(はい/いいえで可)

☐時短勤務・テレワークへの移行 ☐従業員に対する安全の確保 ☐労働力不足
☐外国人技能実習生や外国人への支援 ☐社会的弱者の雇用維持 ☐労働力不足
☐コロナ感染リスクが高い業務への地域の理解 ☐従業員への支援
☐生活困窮者への支援 ☐高齢者の雇い ☐障がい者の雇い
☐学生への支援 ☐子どもへの支援 ☐母子父子家庭への支援
☐障害者への安心安全 ☐社会的弱者の情報提供 ☐結核の安心安全
☐地域とコミュニケーション不足 ☐従業員教育・DVRの増加
☐ほか()

3) コロナ禍の中で、貴社では地域・社会への貢献活動(ボランティアなど)を行っていますか？

☐行っている ☐コロナ前は行っていたが、現在は見合わせている
☐今も行っていない(今後行き予定) ☐行っていない(今後見合わせている)

4) コロナ禍に対して被災者への支援のため、税関の専門家を開設した「新しい生活様式」を進めるにあたり、貴社が地域などに提供可能な資源は何か考えられますか？

☐提供可能な資源がある(具体的に) ()
☐今は考えられない

5) 貴社が現在抱えている課題について、貴社の業務で取り組まなければならない課題を、(自由記述)

6) アンケートの内容について、お電話で見てほしいお話を聞かせていただきたいと考えております。お電話でのヒアリングに協力いただけるかどうかが、この質問です。

☐はい、協力できます
☐いいえ、協力できません

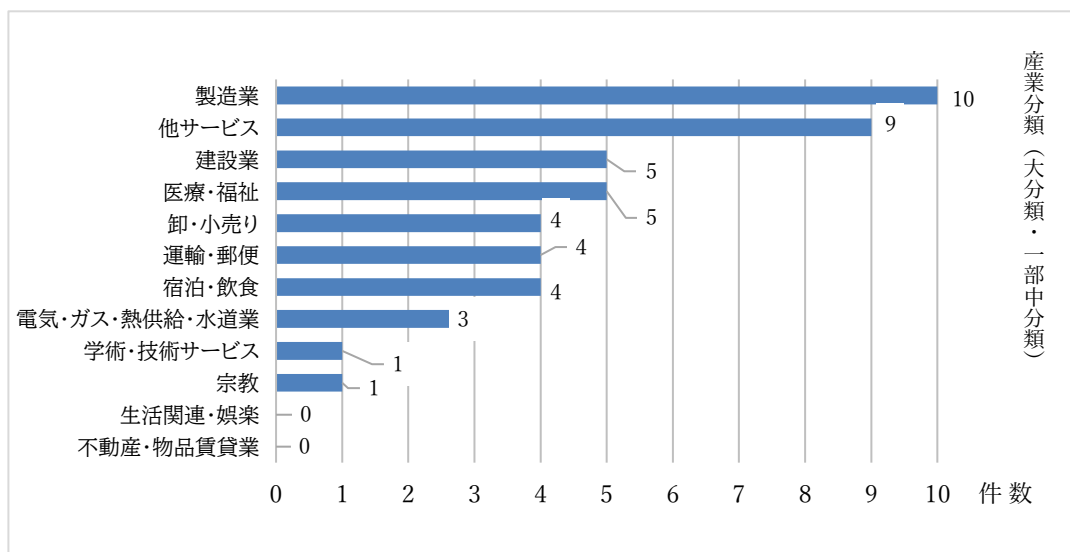
ご回答ありがとうございます(送付先FAX番号：022-309-3705)

コロナ禍における多賀城市の企業の社会貢献活動等のアンケート

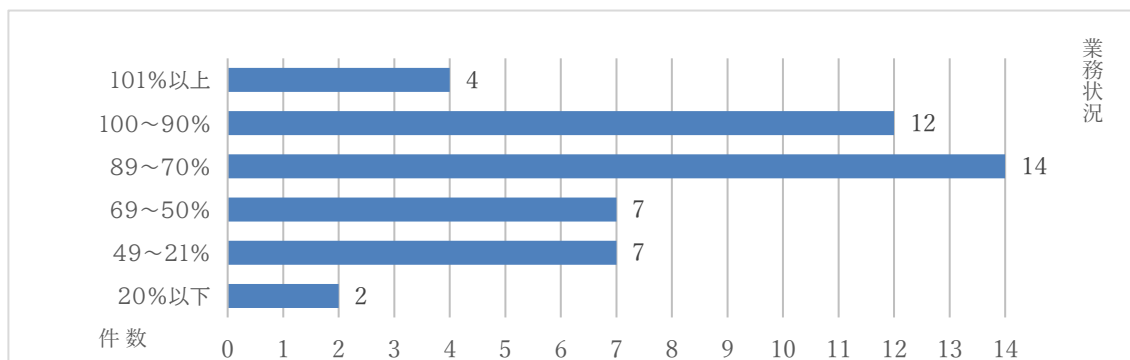
アンケート集計結果

1. コロナ禍における多賀城市の企業の社会貢献活動等のアンケート 回答数 46 (送付 260)

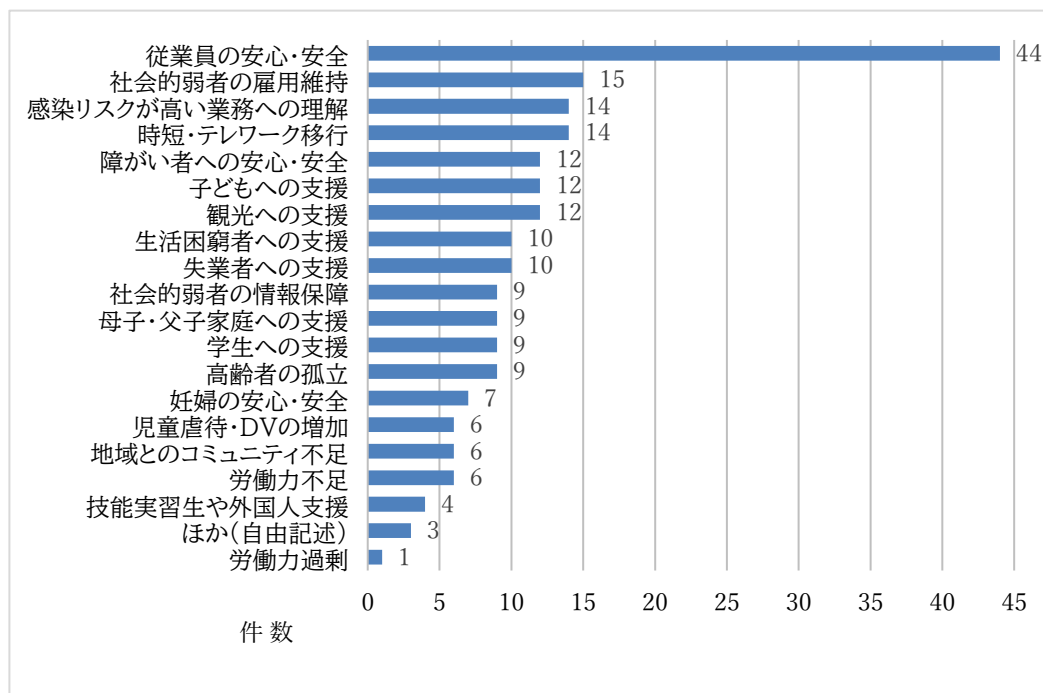
①回答企業の産業分類



②コロナ禍での業務状況をコロナ前との比較(コロナ以前を100%とする)



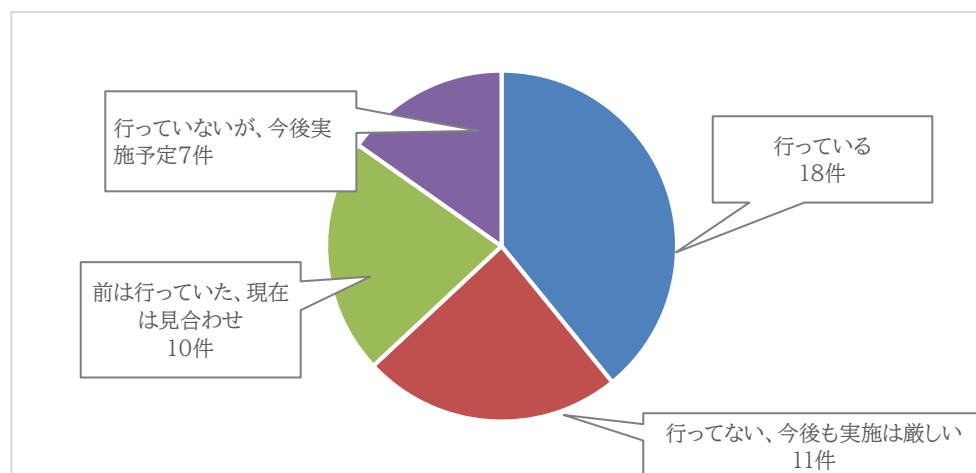
③コロナ禍で対応すべき、または社会や地域で支援が必要と感じていること（複数回答可）



○ほか自由記述の回答について

- ・コロナ禍の影響を踏まえた自立型経済の育成と、住民ネットワークの構築
- ・従業員の雇用維持
- ・1人暮らしの高齢者への訪問

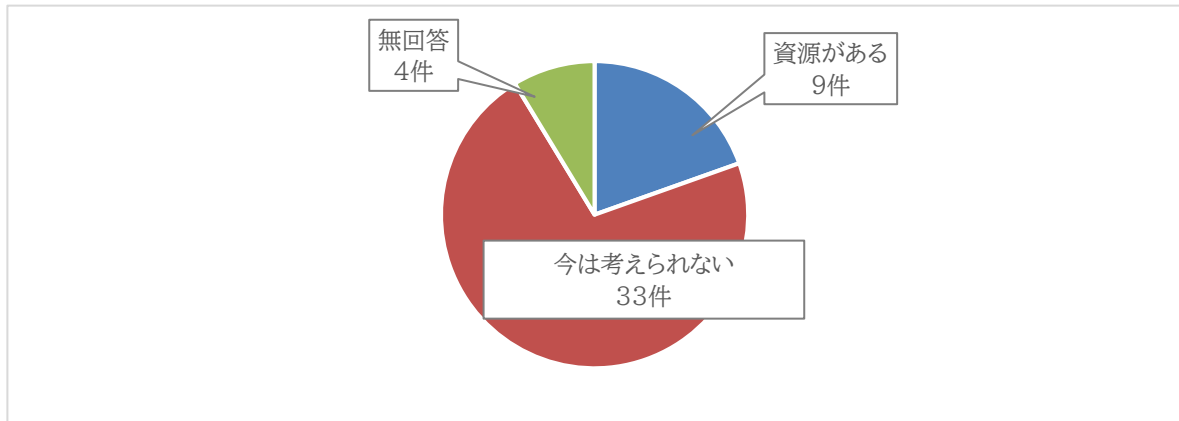
④コロナ禍での地域・社会貢献や助け合いの実施状況



○④についての意見

- ・空き家の活用、在宅買い物支援、テレワークを考えた都心部からの転入推進など推進するにあたり、それぞれ認識の違いもありリスク回避には課題がある。
- ・1人暮らしの高齢者へ少しでも勇気づけたいと思い個別訪問をすると、後日お礼品が届けられてしまう
- ・With コロナの時代における本会の存在意義、価値の整理。新様式の地域貢献、各事業の在り方を模索中。
- ・時流と地域ニーズに対する企業としての社会的貢献の在り方

⑤新しい生活様式を進めるにあたり、地域への提供可能な資源の有無



○⑤の提供可能な資源の内容について

- ・行政への車両の貸代
- ・N95 マスク、ゴム手袋の備蓄があり、提供済み
- ・エネルギーや通信回線、またE Cサイトでの食品販売・配送
- ・新しい生活様式に対し、専門職として少し掘り下げて伝えることなど
- ・科学・技術分野の教育支援
- ・物的資源ではなく、情報資源として、社内の新たな生活様式、施策、成果についての情報提供は可能

⑥企業が現在抱えている課題について

〔売り上げに関連すること〕

- ・売り上げの低迷
- ・コロナ感染防止と売上向上
- ・経済全体の落ち込みによる収入減、店舗販売量の低下に伴い、新しい販売スタイルを検討。
- ・交流人口の減少により、店舗での販売が激減しており、それを回復させる方法を考えなければならない。
- ・国、自治体からの公示及び発注件名が激減しており、売上の確保に苦慮している。
- ・インバウンドがほぼ無くなったことにより、お土産や娯楽関連の売り上げが低下し事業の維持継続に支障をきたす可能性があること。

〔コロナへの対応〕

- ・コロナによって社会のルール、働き方などが変化する。どのように対応していくべきか考えている。
- ・地域活動支援センターとして通常活動が制限され、また通所頻度を減らすことで、利用者の生活リズムが変化してしまう。
- ・弊社では県外の作業が多いので客先と密な打ち合わせが今以上に必要。どのような方法が良いのか模索。
- ・新しい生活様式に則って営業すれば、会社を続けることが難しい。
- ・効果的な精神科デイケアを実施するには密接、密集が避けられない。
- ・業務量低下に伴う過剰人員、コロナに対する社内対応
- ・作業時のマスク使用は熱中症のリスクがあり、現場での判断により着用しているが、益々気温上昇する時期の対応が必要。新人社員教育・人材育成・実習生の生活様式等々。

* 添付資料

□ アンケート関連資料

(1) 地域の担い手育成事業 5) 「支える人材」との連携・育成事業

目 的	○市内で市民に対してさまざまな支援を行ったり、地域やその活動を支えている公共施設や市役所各課など（以下、「支える人材」と総称する）とで、地域自治支援の方向性の共有を行い、これまで以上に連携して支援業務に当たれるようにする。 ○「支える人材」が上記の共有に基づいて、地域や市民からの相談に応じ解決を図れるようにする。
背 景	○T S Cではこれまでも、「住民主体の地域づくりを広げる事業実行委員会」「災害公営住宅ミーティング（今年度より「被災地域支援関係課ミーティング」に改称）」「施設情報交換会」などに参加し、各所の「支える人材」との情報交換や各課題の解決に向けての協議・実践の一翼を担ってきた。また、T S Cと「支える人材」とのつながりを生かして講座・イベントを開催したり、相談対応にあたったこともあった。これらの取り組みを通して、それぞれの「支える人材」の強みを生かした地域支援やそれに伴う地域の変容などを知ることができ、講座・イベントをT S C単独で取り組むよりも成果が出たケースも出てきた。 ○そこでこれらの取り組みをさらに進めて、それぞれが行っている支援業務及び地域自治支援の方向性を共有し、共通して必要なスキルなどを学ぶ場を設けることで、これまで以上に連携して支援に取り組み、より効果的な支援につながるのではないかと考え、本事業を設定した。 ○また、新型コロナウイルス禍の現状も踏まえ、業務や活動にあたって立てている対策や支援の進め方での変化を知りT S Cの運営にも生かしていきたいと考えている。
対 象	○「支える人材」（市民に対してさまざまな支援を行い、地域やその活動を支えている公共施設や市役所各課）
成果目標	※設定せず
成 果	○新型コロナウイルスに関するアンケートやヒアリングを通して、「支える人材」がそれぞれ取っている対策や課題、成果などを知ることができた。 ○各会議に参加し、T S Cならではの視点から情報収集及び発信を行うことができた。 ○イベント開催の際に連携・協力し、T S C講座を見学して自施設での開催の参考にしようという動きも出ていた。
次年度に向けた課題	○新型コロナウイルスの影響のため開催回数が減少した会議もあり、情報交換や支援のあり方などを検討する機会が減少したため、自治支援の方向性の共有までには至らなかった。 ○「スキルを学ぶ場」開催の前提となる、各「支える人材」のニーズの収集に至らなかった。

実施概況(1)地域の担い手育成事業 5)「支える人材」との連携・育成事業

1. 各種会議への参加、情報交換及び連携

- ・本報告書内「3 運営状況(5)「他団体・他機関との連携 ①各会議・実行委員会への参加・②他部署・他機関との連携事例」(39～48 ページ)を参照。

2. 「支える人材」へのアンケート・ヒアリング

(1) 実施にあたっての背景

TSCでは令和4年度末に「共通する課題や手段ごとにさまざまな主体による連携が進んでいる」「さまざまな年代の方が、多様な方法で地域に関わっている」まちになっていることを目指し、その実現に向けての令和2年度事業企画の立案を始めている。しかし、昨今の新型コロナウイルスの影響により、「さまざまな主体(自治会・町内会、NPO、企業、学校、行政など)」や、「地域やその活動を支えている公共施設や市役所各課など(以下、支える人材)」の活動が停止していたり、活動内容・方法の変化を余儀なくされていることが分かってきた。

そこでこのたび、各施設・機関の現状や今後の活動の方向性を知った上で事業の企画立案を行うことが不可欠であると考え、調査・ヒアリングを実施することとした。

(2) 実施の目的

- ・「支える人材」の、新型コロナウイルスの影響も含めた現状や今後の支援の方向性を知る。
- ・「支える人材」側から見た、支援にあっている団体・地域や市民の現状を知る。

◎上記を通して、事業企画立案の一助とするとともに、TSCの運営や支援の参考とする。

(3) 実施概要

- ①調査方法 ・各「支える人材」にアンケートへの回答を依頼し、回答を受けたのち、さらに聞きたい点などを追加でヒアリングを行う。

- ②調査期間 ・アンケート 6月5日(金)～6月26日(金)
・追加ヒアリング アンケート回収後、7月半ばにかけて

③主な調査内容

○主に、各主体や地域、市民(特に受益者)を支えることに関して聞く。

○地域や受益者との関わりに関して

- ・新型コロナウイルスの影響があっても、従前どおり活動できていること
- ・新型コロナウイルスの影響により、できなくなったこと、できていないこと
- ・コロナ禍の現状において、このままだといけないと思っていること、どんな関わり方が必要か

○地域や受益者から寄せられている相談や要望事項、またこれらにどのように対応しているか

④ご協力いただいた施設・機関など

生活支援・福祉	中央地区包括支援センター、東部地区包括支援センター、西部地区包括支援センター、社会福祉法人多賀城市社会福祉協議会、多賀城市保健福祉部生活支援課
子育て・子ども	子育てサポートセンター、鶴ヶ谷児童館、西部児童センター ※鶴ヶ谷児童館・西部児童センターには、市内放課後児童クラブの状況も聞いた。
生涯学習・文化振興・地域支援	多賀城市文化センター、多賀城市中央公民館、山王地区公民館、大代地区公民館(大代地区コミュニティ推進協議会)、多賀城市立図書館、多賀城市総合体育館、多賀城市教育委員会生涯学習課

(4) 調査から分かったこと（抜粋）

①「支える人材」の支援の現状

- ・各施設は、制限を設けながら開館を再開している。
- ・各種会議や集いの場の開催、訪問活動などができなくなったり、人数や時間などの制限を設けて開催している。
- ・対面での業務や活動の代わりとして、電話やオンラインを活用する場面も多くなってきた。
- ・主催事業についても、年度当初の計画を変更して進めることになった。また「三密」を回避しての事業実施が不可欠と考えている。
- ・平時からの関係各所との連携や、日ごろからのつながりが大事であるとあらためて感じた。さまざまなつながりを切らない工夫が必要。

②団体や市民の現状

- ・新型コロナウイルスの影響で、生活困窮に関する相談が激増している。
- ・施設の休館中の時点から、「早く開館してほしい」という声が、再開後には、「開館してよかった」という声が多くあった。
- ・サロン活動など、地域での活動の再開を望む声が多かった。また地域サロンなどの自粛で、これまで培ってきた介護予防の効果が減退するのではないかと懸念がある。
- ・活動の縮小や休止・中止せざるを得ない状況になっている団体も出てきている。また、成果を発表する場が行事の中止を含めて減少し、メンバーの活動へのモチベーションも心配。

③TSCの運営に生かしたこと

- ・会議室貸し出し後の消毒・換気や事業の進め方の工夫など、各施設でとっている新型コロナウイルスへの対策を、TSCでも参考にした。
- ・市民や団体、地域の活動の現状をTSC内で共有し、事業立案や講座・イベント開催の参考とした。
- ・オンラインツールやWebの活用について、町内会などからの相談の際に事例として話したり、他施設の取り組みを参考にしてTSCでも事業を実施することができた。

(2) 自治会・町内会支援事業 1) 現状把握と多様な地域人材の参加促進事業

目 的	○自治会・町内会が自身の地域を見直したり、他地域を知ることで、地域の現状を把握し課題や魅力を明らかにする。 ○より暮らしやすい地域として継続していくため、町内会活動等の地域活動に関わる人材を発掘し、地域の担い手不足を解消する。
背 景	○平成 17 年・平成 27 年・令和 2 年の多賀城市の人口分布統計をもとに、市内を西部・中央・東部の 3 地区に分けて作成した年少人口と老年人口の割合推移グラフから、地区ごとの人口推移の特徴が見えてきた。地区ごとの差異はあるものの、多くの地域で少子化と高齢化が急速に進んでいることがグラフから読み取れる。 これからの自治会・町内会のあり方を考えた場合、従来と同様の取り組み方では地域活動が維持できないということを認識する必要がある。自治会・町内会が将来目指すべき姿を市民と一緒に検討する機会を設けることが大事になる。 ○そのために、自治会・町内会長、役員だけではなく、自治会・町内会活動に携わっているさまざまな方や今まで活動に関わってこなかった若い方や学生、引越して間もない方など多様な立場の方に興味関心を持つきっかけとなるプログラムを提供する。 ○また T S C としては本事業をはじめとする、住民が自由に意見を言えて、既成概念にとらわれることのない活動ができる場を自治会・町内会が自らつくっていけるような支援をしていく。
対 象	○自治会・町内会長、役員と共に関わる住民及び企業を含む地域資源
成果目標	①自分の住む地域の現状を把握し、地域の課題や魅力に気づく市民（特に町内会長や役員）を 30 名生む。 ②町内会活動等の地域活動に関わる人材を 3 名発掘する。
成 果	○講座参加により町内会新聞の意義を理解し、住民に届く発信を意識すること、地域には関わりのタネがあることを知るなどの気づきがあった。3 つの町内会が新たに町内会新聞発行に取り組み、地域の魅力や課題を発信した。 ○実施した 3 つの企画を経て地域課題への興味と相互の関係性を高める効果が実感でき、町内会現役役員に留まらず地域づくりに関わる多世代他分野のつながりを生むきっかけとなった。延べ 40 名の町内会及びそれに関連する人材に対してのアプローチとなり、今後の更なる関係構築のステップとなった。
次年度に向けた課題	○町内会相互のつながりと情報交換の布石を打つことはできたが、T S C を介さない関わりや協力した取り組みの成果はまだ不足している。今年度得た問題意識の共有と共感を軸に、町内会相互の関係性を深めるつながりの場をつくる必要がある。 ○地域課題を考える時、多様性を意識することが大切であり、町内会のみでの取り組みではなく企業・団体との相互協力と理解を高めつつ取り組んでいく必要がある。また、町内会運営の担い手不足解消と若手の意識向上を目指す上でも、T S C が場づくりをしてその実現の可能性を示していくことが求められる。

実施概況 (2)自治会・町内会支援事業 1)現状把握と多様な地域人材の参加促進事業

0. 自治会・町内会へのヒアリング

目 的：コロナ禍における自治会・町内会の運営課題、工夫している取り組みを聞き取り、運営課題解決のための参考とする。また、コロナ禍の住民の変化を明らかにする。

実 施：令和2年6月～令和2年7月

対 象：自治会・町内会長及び役員、子ども会役員、民生委員・児童委員

方 法：TSC来館時や電話でのヒアリング

内 容：①コロナ禍前の自治会運営の状況及び問題点

②コロナ禍での自治会運営の状況及び問題点、必要なこと

③コロナ禍で行っていること・行っていないこと・工夫

④今後想定される課題

回答数：17件

○聞き取り結果（ジャンルごとにまとめた）：

【行事】

- ・夏祭り、敬老会は中止。
- ・敬老会は飲食を伴うものは難しい。
- ・抽選会のみといった夏祭りの代替案を検討。
- ・軽運動でのマスク着用は熱中症リスクが高まって心配。
- ・行事等がなく楽に感じている。

【総会・役員会等】

- ・役員会の実施ができていない。
- ・総会は書面決裁とした。
- ・定例会等の会場確保がむずかしい。
- ・前役員からの引継ぎができていない。
- ・高齢化でみんな役員はやりたがらない。
- ・班長会議はせず配付物のみ持って帰ってもらっている。

【会費】

- ・班長や役員がすでに徴収している。
- ・行事ができず会費の使途は困っている。商品券の配付を検討。

【民生委員】

- ・地域をまわることができていない。
- ・気になる世帯には、訪問して様子を伺った。
- ・心配な方に対しては、包括に連絡している。
- ・散歩で顔を合わせたときに最近の調子を聞いている。
- ・コロナは関係なく民生委員のなり手がおらず、地区から選出ができていない。

【住民】

- ・高齢者や認知症の方の体調把握ができていない。
- ・町内会長、民生委員、包括でライングループをつくって連携している。
- ・情報発信は、市の広報を読まない方もいるので都度チラシを配っている。
- ・市の広報の配布ボックスを設置している。浸透はしていない。

●ヒアリング及び、過去の相談対応から出てきた課題

- ・コロナ禍における住民の状況把握と行事運営
- ・敬老会、夏祭りの中止、メニューや参加団体の検討
- ・若い世代に運営に参加してもらう方法
- ・敬老会参加者増加に伴う集会所の代替施設の検討
- ・町内会の事務作業に伴うパソコンを使える人材の育成
- ・行事を継続するための資金調達
- ・住民への周知情報やイベント等のお知らせの方法
- ・会報発行の方法
- ・地域の魅力を活かした住民交流と町内会同士の交流
- ・地域の男性のつながりづくり
- ・災害公営住宅自治会の後継者不足、見守り体制

1. 町内会新聞をつくろう。

「おらいのまち（町内会）新聞をつくるコツ～まちの魅力を紙面に載せて～」

日 時：令和2年11月7日（土）18:00～20:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室

ゲスト：高橋公彦氏（河北新報社塩釜支局）

内 容：・現役新聞記者を招き、記事の探し方・書き方を学び町内の魅力を楽しみながら発信するコツを知る。

・町内会同士で新聞発行についての情報交換をして交流を図る。

参加者：11 名（5 団体）

成 果：町内会新聞を創刊する町内会が生まれた。

（旭ヶ岡町内会、東田中南自治会、下馬東自治会、桜木東区町内会）



各町内会からの参加者同士で情報交換



ゲストの河北新報現役記者より
指南を受ける参加者

2. データを用いて町内会のことを知る。

「データ de なにすやっ?! おらい（町内会）をきいてけさいん
～おらいのまちの今昔そしてこれから～」

日 時：令和3年1月23日（土）18:00～20:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 大会議室

講 師：武内 基氏（地域アナライザー）

内 容：多賀城市の人口統計データを用い、人口推移の変化から見える将来の課題と、町内会同士の連携を探る

参加者：9 名（8 団体と個人）

成 果：町内会同士の関係性を深め、共通テーマをもって対話するきっかけとなった。



自分たちで作ったグラフを見比べながら
ゲストとともに傾向とこれからの考えた。
自身の地区についての発言も活発

3. 東日本大震災を介して、町内会が取り組んできたことを振り返りこれからの地域連携と可能性を探る。

「【座談会】3.11 その時まちは〇〇これからのまちを考える」

日 時：令和３年３月１４日（日）１３：３０～１６：００

会 場：多賀城市民活動サポートセンター 大会議室

聞き手：スタッフ中津

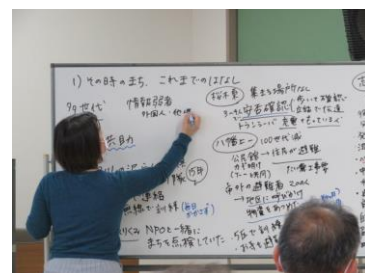
内 容：東日本大震災から１０年目を迎えるにあたり、当時町内会や地域が取り組んできた軌跡と記録されたキーワードから、これからの地域づくりに必要な連携と可能性を考える。

参加者：１７名（１１町内会、市民活動団体、個人事業主）

成 果：３．１１当時の取り組みや課題を共有することにより、同じ市内であっても沿岸部と内陸部や幹線道路沿い、戸建てとマンションなど環境の違いで支援の課題や対応の視点がさまざまであることを知り得る機会となった。また、世代間や地域・分野の壁を超えて連携をしていく時「頼る」「シンプル」といったキーワードを見出し、これまでの取り組みや経験を活かしつつ、発想の転換を図るイメージをもつ意識につながった。町内会相互や視点を広げた今後の能動的な関係性の構築に取り組むきっかけづくりとなった。



「これから」を見出すために、まずは「これまで」を共有する時間



同じ市内でも当時の課題の違いに気づき他地区の取り組みが参考になる



地域を越えて交流



会の最後は「配慮」。

災害時の手話

「火事だ！一緒に行きましょう」

を声をだしながら全員で。

実際にやってみること。

アンケート集計結果

１．おらいのまち（町内会）新聞をつくるコツ～まちの魅力を紙面に載せて～ 回収 8（参加 11）

①年 代

40 代以下	50 代	60 代	70 代	80 代以上	無回答
0 名	0 名	3 名	5 名	0 名	3 名

②5 段階評価

項目	5	4	3	2	1	平均
ゲスト講話	5 名	3 名	0 名	0 名	0 名	4.6
ワークショップ	3 名	3 名	1 名	0 名	0 名	3.8
展示資料	3 名	5 名	0 名	0 名	0 名	4.4
開催日時	4 名	4 名	0 名	0 名	0 名	4.5
合計	15 名	15 名	1 名	0 名	0 名	4.3

③参加した感想など

- ・新聞記事作成について具体的に説明があり、今後の参考になった。
- ・見出しの大切さ、重要性に改めて認識した。
- ・町内会新聞の発行を難しく考えていたが、今日の話を聴いて何となくできそうな気がしてきた。（新春号を発行した）
- ・何かのヒントになった（この後、町内会の年長者や近隣施設などに聞き取りにまわり 91 歳の方が描いた鳥瞰図に出会う）
- ・他の町内会の方からどう作っているのか、なぜつくっているのかと質問を受けたのが良かった。困っている方多いみたいですね。
- ・他の町内会新聞に企業・商店などの紹介もあり驚いた。
- ・大変参考になった。

※現役新聞記者のお話は、町内会新聞を作っている町内会もこれからの町内会にも興味深く意欲沸く機会となりました。

２．データ de なにすやっ？！おらい（町内会）をきいてけさいん～おらいのまちの今昔そしてこれから～

回収：6（参加 8）

①年 代

30 代以下	40 代	50 代	60 代	70 代以上	無回答
2 名	1 名	1 名	1 名	1 名	0 名

②5 段階評価

項目	5	4	3	2	1	平均
ゲスト講話	5名	1名	0名	0名	0名	4.8
ワークショップ	5名	1名	0名	0名	0名	4.8
展示資料	4名	1名	1名	0名	0名	4.5
交流タイム	2名	2名	0名	0名	0名	4.5
開催日時	3名	0名	2名	0名	0名	4.2
合計	19名	5名	3名	0名	0名	4.6

③参加した感想など

○ゲストの講話について

- ・自身の業務に活かすことができる。
- ・貴重な独自分析と解説が解り易かった
- ・わかりやすい（データで見られたこと）

○ワークショップについて

- ・ワークにより理解が深まった。
- ・自ら作成したことが良かったです。
- ・実際にやることで気づきがあったこと

○展示資料について

- ・一人で写真を見てもピンとこず、誰かの話を聴くことが主になった
- ・司会からの紹介があったので興味を持てた
- ・資料から情報を説明付きでできたこと

○交流タイムについて

- ・当時を知る方から話を聴けたこと
- ・途中退席

○開催日時について

- ・休日の夜が最も自由な時間の為
- ・ちょうどよい
- ・いつでも可です。

○その他感想など

- ・個人のワークとしてグラフ作成は面白いもの、気づきの多いものでしたが、真価はそれを囲んで生まれる会話やアイデアだと思うので、参加者は多ければ多いほど良いと思った。関係する方には有意義なイベントですので、強めの勧誘をするなど「騙されたと思って」でも来てもらいたいです。
- ・出張版とかあってもいいと思います。
- ・参加者の配置・展示・進行・雰囲気作りに一貫性を感じました。企画構成がしっかりしている事を感じました。
- ・町内会活性化の一つとして、このような勉強と情報交換の機会が定期的にあるとよい。その場合、今回の司会のようなスキルを持ったファシリテーターが必要。
- ・今回のような分析データの共有ができると、今後効率的に論議がしやすい。

- ・高齢者へのオンライン会議のインフラ整備が必要。
- ・司会進行が素晴らしかった。
- ・様々な視点から多賀城の状況を得ることができたこと。また、参加者からも話が聞けて自分が住む町を改めて知ることができたこと。多賀城市内でも中身に差があるので興味をひいた。
- ・多賀城市外で活動することが多いので、改めて地元のことを考えられて勉強になりました。

3. 3.11 その時まちは〇〇 これからのまちを考える 回収 15 (参加 17)

①年 代 (11 町内会・個人事業主・地域活動団体)

30 代	40 代	50 代	60 代	70 代
2 名	2 名	2 名	3 名	6 名

②今回のイベントを何で知ったか (複数回答可)

たがさぼスタッフより	チラシ	その他
13 名	1 名	2 名

○その他…自治会長より、「たがさぼ Press」を見て

③今回のイベントに参加しようと思った理由 (複数回答可)

3.11 当時の話を 聴きたかった	当時の話をした かった	イベントのテー マに興味があっ た	自町内会・活動 の取り組みの参 考にしたかった	これからのまち づくりの話をし たかった (聞き たかった)	その他
7 名	2 名	6 名	7 名	7 名	1 名

④今回のイベントに参加した目的は達成されたか

達成された	達成されなかった	無回答
14 名	0 名	1 名

○回答の理由

- ・各地区の取組等や考え方を聞く事が出来て良かった
- ・各地区の方の話を直接聞けたため
- ・防災教育のあり方についても情報があると良かったです。2 時間では不足でしたので継続して行って頂きたい
- ・とても参考になった
- ・今後の課題のヒントを思い出した
- ・参加された方々を把握できたので、先々につなげることができます
- ・地区の状況が理解できた
- ・他地区の情報を得ることができた

⑤5 段階評価

項目/満足度	5	4	3	2	1	平均
3. 11 当時のふりかえりのフリートーク	7 名	6 名	2 名	0 名	0 名	4. 3
これからのまちを考えるフリートーク	8 名	2 名	5 名	0 名	0 名	4. 2
展示資料	9 名	4 名	2 名	0 名	0 名	4. 4
交流タイム	5 名	5 名	3 名	0 名	0 名	4. 2
開催日時	7 名	3 名	1 名	0 名	0 名	4. 5
合計	36 名	20 名	13 名	0 名	0 名	4. 3

(自由記述より)

○3. 11 当時のふりかえりのフリートーク

- ・市内で環境が異なり、様々な話が聞けたため

○これからのまちを考えるフリートーク

- ・市内で環境が異なり、様々な話が聞けたため

○展示資料

- ・見やすくしっかり作られている
- ・文字のものが多くて時間が少ない

○開催日時 (参加しやすい日程)

- ・平日
- ・いつでも可 (勤務日以外)
- ・午後 1 時 30 分頃

⑥今回のイベントに参加して興味をもったキーワードやその理由及び感想 (いくつでも)

※ (キーワード) ⇒ (理由など)

- ・頼る 備え⇒巻き込む実践に必要なだと実感しました
- ・スマホ⇒今後の世代交代などを考える場合はスマホ等の活用が必要
- ・スマホの活用⇒多くの方が活用していない勉強会の開催
- ・個人情報⇒震災時でもだいたひ情報収集に苦労されたと様々な人から聞かされていたので、現在はさらに制約が多いと思うので、どのようにすればよいか難しい課題となっているため
- ・情報の提供、共有の方法について⇒スマホについて勉強会の話も出ていたが、スマホを使えない方が多いと思うのでその点のカバーの方法を考えていく必要があるので情報が第一にきました
- ・スマホの活用⇒楽に目的を伝えられる
- ・はなれたものをつなげる⇒そこにイノベーションが生まれると思うから
- ・Zoom の話をするとう沈黙するという話⇒沈黙の先に進むアイディアを考えます
- ・情報⇒緊急情報・避難情報どうやって隅々までできるか
- ・備え⇒今後活用したい
- ・シンプル⇒シンプルでないと続かない

⑦今回のイベントに参加して、感じたことやアイデア、今後できると感じたこと（いくつでも）

- ・区長さんのアイデアをもって取り組んでいる姿勢を素晴らしいと思いました
- ・トランシーバーからスマホと話がでたが、一括で情報を送信できるスマホの活用は大きな力になるのではないのでしょうか？※高齢の方のスマホの活用が必須
- ・女性の参加がなかったのは残念でした。女性の視点での震災の経験談なども聴きたいです。また避難所での生活についても女性の視点での話も聴きたいですネ
- ・異質なものとつながりを広げていく
- ・婚活イベントに防災を足す。あらためてちょい足しの大切さを感じました
- ・一人一人判らないことを教えて理解者を増す
- ・災害リスクを追求する（利府長町断層地震・大雨こう水・土砂崩壊）想定すること大切
- ・参考になったので今後にかきたい

⑧たがさばに企画してもらいたい事からはあるか（複数回答可）

町内会新聞など 広報の仕方	町内会と他分 野・市民団体など の交流会	多世代交流会	まち歩きイベン ト	町内会同士の情 報交換の場
7名	6名	5名	2名	8名

まちの魅力の掘 り起こし(写真な どの活用)	コロナ対策	Zoom やSNS講 座	その他
5名	3名	5名	3名

○その他

- ・多賀城の観光人口の増加に向けたとりくみ
- ・まちの中で経済・感謝が循環して継承されていく仕組み

* 添付資料 ☐ チラシ ☐ 当日配布資料

(3)連携による課題解決を進める事業 1)連携の場づくり事業

目 的	○NPO、市民、企業、自治会・町内会等の多様な主体が地域や社会の課題を考え、お互いの理解も深めながら、連携して解決する場が主体的につくられるように促す。 ○地域のさまざまな主体が身近な地域のことを考える場がつくられるよう促す。
背 景	各セクターがさまざまな立場や資源を持ち寄り地域の課題解決に取り組んでいくことを目標に、当事者や企業の声などを聞き、地域課題を市民が知るきっかけや考える機会を設けてきた。今年度はさらに地域課題にスポットをあて、より解決に近づくよう取り組みを進めてきた。 また、6月にコロナ禍での企業の地域貢献活動などを調査し、企業や寺院などの現状を把握した。市のイベント等が中止となる中、例年通り地域貢献ができていない状況もあり、地域との関わり方を提案する方向で取り組んだ。ほかに、前年度行った当事者の視点でまちを見る事業から、具体的な地域の取り組みを実践した。
対 象	○企業 ○NPO・市民活動団体 ○自治会・町内会 ○行政などさまざまなセクター
成果目標	①各セクターが集まり、地域課題に対しての取り組みや場が生まれること。 ②これまで、各セクターが個別に取り組んできた課題に他セクターもに気づき、支援や取り組みに参加すること。 ③市民が課題解決へ向けて話し合いの場に参加すること。 ④TSCへ課題解決への相談が持ち込まれる状況となること。
成 果	○TSR会議では「まちの課題を知る」「これからの実践に向けて、対話と協働が生まれる下準備ができる」を今年度のゴールとして行った。当事者や市民、企業、NPO、行政職員などが参加し場を共有した。 ○TSR会議後に、参加した企業や議員、寺院、市民からの貧困者へ物資の提供や情報交換の依頼があった。 ○UDトークでの情報保障を行い、聴覚情報から情報を得にくい人や聴覚障がい者も会議に参加できた。 ○多文化共生事業では、企業、市民活動団体、TSC、自治会、支援団体、行政などが集い、多賀城で働く技能実習生と地域をつなぐ具体的な取り組みを実施することができた。内容は日本語サポーター養成講座、大代地区の防災訓練、お互いの文化を知る座談会などを開催できた。 ○貧困の取り組みを行うNPOを知ってもらうため、市民向けのフードボックスをTSCに設置し、市民に寄贈を呼びかけた。その後、ほかの施設でも同様の動きがあった。
次年度に 向けた課題	○TSR会議では、知ることからのスタートであり、より課題解決に向けて動き出すような場を持ち、各セクターが主体的に動き出すように進めていく。 ○課題解決へ向けた持続可能な関係性を構築すること。また、引き続き市民に広く地域課題を知ってもらう機会を増やしていくこと。 ○地域課題解決に向けて、他セクターとの連携を強めつつ、より具体的な取り組みを進めていく。 ○情報保障についても当たり前となるよう今後も取り組んでいく。

- ・地域における技能実習生の受入について
毛利誠氏
(ユニバーサル株式会社ソーイング事業部仙台工場)
- ・技能実習生出身国の生活習慣と言葉について
(ベトナム編)
ド バントゥアン氏 (在仙台ベトナム人協会)

②日 時：令和2年10月3日(土) 13:30～16:00

場 所：大代地区公民館

参 加：25名

- 内 容：・「やさしい日本語」について
- ・技能実習生出身国の生活習慣と言葉について
(ミャンマー編)
スーザ ミョータン氏
(NPO法人宮城ミャンマー友好協会 理事)

II. 防災研修

日 時：令和2年11月8日(日) 13:30～16:30

場 所：大代地区公民館

参 加：72名(大代地区5町内会、防災担当、多賀城高校、
企業、技能実習生、交流サポーター等)

- 内 容：・サポーターと技能実習生の懇談
- ・防災についての話
宮城県国際化協会、多賀城市交通防災課
宮城県多賀城高校 語学研究会
 - ・大代地区防災対策協議会
町内会長、技能実習生との懇談

III. 陶芸体験と懇談会

日 時：令和2年12月13日(日) 10:00～12:00

場 所：大代地区公民館

参 加：40名

(技能実習生、交流サポーター、多賀城市国際交流協会等)

内 容：日本文化体験と懇談で、技能実習生との交流を図る

* I～III共通

主催：宮城県国際化協会(MIA)

共催：多賀城市国際交流協会、大代地区コミュニティ推進協議
会、多賀城市市民活動サポートセンター

協力：多賀城市立図書館

2) 困窮者への支援

多賀城フードバンク推進交流会

日 時：令和2年10月9日(金) 14:00～15:30



交流サポーター育成講座。「やさしい日本語」を学んだ



大代地区での防災研修。技能実習生に避難場所を伝える町内会長



ミャンマー人技能実習生が仕事や生活を紹介



TSCを会場に情報交換が行われた多賀城フードバンク推進協議会

場 所：多賀城市市民活動サポートセンター 参 加：30 名（子ども食堂、フードバンク団体、行政等） 内 容：食品を寄贈している企業、支援を受けている施設、 行政、サポート団体、フードバンク団体などが集い、 情報交換、アイデア出しなどを行った。 主 催：NPO 法人いのちのパン	
--	--

アンケート集計結果

1. Tagajo Sustainable Relationship 2020 参加者アンケート 回収 50 (参加 80)

①所属している団体の属性

企業	団体（NPO・市民活動）	自治会・町内会	行政	個人	学生
9 名	23 名	2 名	2 名	13 名	1 名

②参加の理由（複数回答可）

ゲストの話が聞きたかった	23 名
登壇する団体に興味があった	16 名
イベントにテーマに興味があった	30 名
企業や他セクターとのネットワーキング	4 名
自団体の取り組みの参考にしたかった	12 名
T S Rに興味をもったから	15 名
ほか	3 名

③T S R会議へ参加して目的を達成できたか

はい	いいえ
47 名	3 名

○③の目的達成の理由について（抜粋）

- ・色々な分野でご活躍されている団体の方々のお話を聞くことができ、当事者や行政の考えや取り組みも知ることができました。今後地域で行うべき、考えていくべき課題が明確にわかり、有意義な時間でした。
- ・地元における具体的な問題と、地道な活動状況を知ることができた。
- ・多賀城市の分析が把握できた。
- ・これまで見えていなかった地域課題が見えた。きっかけづくりのヒントをもらった。
- ・多賀城での様々な団体の課題なども知ることができてよかった。
- ・寛さんの講演を聞き、持続可能な地域づくりに取り組むにあたってのSDGsの考え方について基本的な理解・整理ができたから。
- ・情報保障の見せ方をもっと工夫してほしい。
- ・多賀城にある他の団体や活動を知ることができた。
- ・こども食堂の存在、活動内容を教育や福祉分野ではない方へもお伝えすることが出来た。

④今回参加して興味をもったテーマ（複数回答可）

ユニバーサルなまち	36 名
貧困・孤立・フードロス	31 名
発達障害	30 名
外国人労働者	27 名
化学物質過敏症	24 名
LGBT・ジェンダーレス	25 名

⑤イベントで心に残ったことについて自由記述（抜粋）

- ・相手の痛みを想像することの難しさと必要性
- ・障害や病気など、社会で生活する上で生きづらさを抱えている方々の苦悩や思いを聴くことができました。どのテーマについても、地域との連携が重要であり、より多くの住民の障害や課題についての認知度を向上させていくことが大事であると感じました。
- ・それぞれの団体の困り感や課題は、つながっていると思いました。
- ・団体の生の声が聞くことができた。当事者が声をあげることのつらさに気づいた。
- ・何かを訴える活動団体が不要な社会がなくなることがみんなにとって暮らしやすい社会ということが大事なことだということ、何かを配慮する仕組みを作るときに当事者の意見を聞くことが大切だと感じた。
- ・寛さんの話の中にあつた地域課題はすべてつながっているという視点は目から鱗でした。すべてに連鎖してくるだけに、一つ一つの活動が大切になりますね。また、視覚障害者にとって今の便利さは不便さへ向かっているという内容の話も、私自身便利さに慣れて障害のある方への配慮を忘れていたことを反省しました。
- ・自分の困りごとを自分で解決するのはつらい。楽しい活動をしたいというお話が心に残りました。当事者が傷つきながら動くことがないようにしたい、力になりたいと思いました。
- ・どのテーマでも、少数派になってしまう人たちの困り感に寄り添うことはこれからの世の中にとって大切で、私たちの生活もっと良くなる可能性を秘めていると感じました。

⑥今後のアイデアについて自由記述（抜粋）

- ・常に『困った時はお互い様』と言う気持ちで人と接する事が出来たらと思います。
- ・6テーマもお話を聞いて課題が似ていたりすることもあったので、他の分野も含めて多賀城で抱えている課題について包括的に取り組んでいけたらと思った。
- ・障害や病気、その他の社会課題の認知度を上げるためには、個々に活動している団体だけでなく行政が中心となって、チラシや広告などで情報を発信することが重要だと考えます。そして、地域の課題に今まで興味なかった人たちにも、今回のワークショップのように対策案を考える機会を与える事で、誰しもが生活しやすい地域になっていくと思いました。
- ・各団体が相談窓口となり、様々な人の声やまちの課題を受け止める場所となるとよいと感じた。行政がすべて行うことが正解ではなく、個々人と様々な団体が結びつくことで、地域の課題は共有され、取り組まれるのだと改めて感じた。
- ・とにかく、多種多様な人との関わりが大切だと思いました。自分を知ってもらうことと、相手を知ろうとすることはセットで考えようと思いました。
- ・求めている人が適切な支援を受けられるような情報共有のプラットフォームが必要だと感じました。また、多様性を受け入れる社会を作るためには、困っている人がいることを知る＝教育が大切なのではないかと思っています。学生は学校で学ぶことができるかもしれませんが、大人は自らアンテナを高く持たないと見逃してしまい、無意識のステレオタイプから「住みにくいまち」を作ってしまうのではないかと思います。大人になっても学べる場を作ること、それに参加する人を増やす方法を考えていきたいと思いました。

* 添付資料 ☐ チラシ ☐ 当日配布資料

(4) 情報発信事業 1) フリーペーパー「tag」発行事業

目 的	○新しい生活様式のもとで、市民活動が衰退しないよう、さまざまな工夫を市民に提供し、社会・地域の課題解決を進めるきっかけとする。 ○新しい生活様式で生じる生活の困りごとについて、NPOの情報を市民に提供することで解決のきっかけとする。 ○新しい生活様式のもとでの多様な市民活動へのかかわり方を市民に提供し、社会・地域課題への市民の参画の機会を増やす。
背 景	○平成25年1月から発行してきた「tag」は、地域づくりのフリーペーパーとして定着を図りつつも社会や地域の状況の変化に応じて掲載する情報も変化させてきた。 ○令和2年初頭から新型コロナウイルス感染症の拡大により「新しい生活様式」が必要となった。市民活動の側面で活動が停滞する一方、情報発信の側面では口コミの機会が減った。すなわち紙媒体や人を介した情報流通がし難くなる状況にある。 ○コロナ禍での市民活動促進、地域づくりに関する情報の流通を目指して、今年度は下記の方針で発行頻度、形態、内容を見直した。 ・感染リスクを抑える情報発信を行う。 ・新鮮な情報よりも恒常的に活用できる情報を提供することにより重きを置く。 ・「tag」に限らずTSC全体としてWebを活用した情報発信の強化を別事業で実施。
対 象	○活動者（コロナ禍で通常の活動ができなくなった方） ○受益者（コロナ禍で生活等に困りごとを抱えている方） ○無関心層、潜在的活動者（活動に関心のない方、社会の変化に関心を示している方）
成果目標	○「tag」を通してアクションを起こす市民（あるいは団体）を計8件生み出す。（アクションとしては活動に参加する、自身で活動を起こす、TSC事業へ参加する、団体同士が連携する、活動者が新たな取り組みをはじめ、などを想定。）
成 果	○コロナ禍でもイベントの開催が可能なことを広く市民に伝えられた。時間を合わせる事が難しい、会場が遠いなどの理由でこれまで参加できなかった方が参加しやすくなり、遠くに住んでいる人たちとの交流がその場でできるなど、オンラインツールの利用で活動の幅が広がるメリットの気づきにつなげることができた。 ○取材した成果物である防災マップをTSC事業で活用することができ、講座参加者に身近で考える防災についての意識づけになった。 ○「tag」を見た報道関係者から掲載されている団体、人を紹介したいという要望があった。さらに広く市民に伝わることでやってみたいという意識を持つ市民の増加につながることに期待が持てる。
次年度に向けた課題	○「tag」を見た市民による、TSCに来館しての相談もあったが、アクションを生み出すには至らなかった。今後とも、市民がアクションを起こそうと考えた際に必要な、想いの整理や活動立ち上げなどに参考になるような情報をストックしていく。 ○配架先へのヒアリングや講座参加者アンケートなどで、「tag」が事業への参加やTSCを知るきっかけになったか、また身近な市民活動を知るきっかけになったかなどを把握するよう努めていきたい。

(4) 情報発信事業 1) フリーペーパー「tag」発行事業

1. 発行形態

- 1) 令和2年4月～6月 発行頻度：月1回 様式：A4×1枚 全2ページ 両面カラー
- 2) 令和2年9月、12月、令和3年3月
発行頻度：3ヵ月に1回 様式：A3二つ折り 全4ページ 両面カラー
(9月号は、様式：A4×1枚 全2ページ 両面カラー)

- ・発行部数：2,000部
- ・誌面デザイン：合同会社 nekiwa、印刷は外注

2. 内容（各号の詳細は別項を参照）

- ・情報の重要性、市民の興味・関心を考慮し、「新型コロナウイルス」「新しい生活様式」にスポットを当てたテーマを取り上げる。
- ・コロナ禍における市民活動団体や自治会・町内会の活動の工夫を聞く。
- ・コロナ禍における団体運営や活動に役立つツールや情報源情報などを掲載。
- ・多賀城の人・できごと・ものなどの地域資源を紹介。
- ・地域課題解決のために活動する市内外の人・団体（企業や学校等も含む）に話を聞き、紹介。
- ・地域づくりや課題解決に取り組む団体を紹介。
- ・市民活動に携わる人の活動をはじめたきっかけや想いを紹介。
- ・市民活動にTSCスタッフが参加し、その体験を紹介。
- ・TSCのブログ記事を簡単に紹介。
- ・TSCのサービスやイベント・講座などを紹介。

3. 配架先（月別部数及び配架箇所数は別項を参照）

- ・多賀城市内及び周辺市町公共施設
- ・多賀城市内民間施設（病院、福祉施設等）
- ・多賀城市内民間店舗（スーパー、コンビニ、銀行、飲食店等）
- ・マスコミ
- ・多賀城市内外のイベント出展時に配布
- ・県内外NPO支援センター

4. 各号の掲載内容	
内容（目次）	号数・発行月・表面写真
1P ○子育ての頼れるサポーター！「あんだんて」 /多賀城市家庭教育支援チーム「あんだんて」 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・「デザインガイドライン」とは？～NPO法人 soar の取り組みから～ ・「もったいない」世界の気持ちが食品ロスを救う ・ふりかえりのヒント「経験学習モデル」 ○たがさぼからのお知らせ ・「たがさぼ Press」で、新型コロナウイルス感染症の関連情報を発信 2P ○みんなで考える多賀城のこと ・子どもの心の声に耳を傾ける「子どもアドボカシー」 /Tagajo「子どもの声を聴く」プロジェクト	88号／4月 
1P ○歌う楽しさをみんなに伝えたい/うたっこカフェ ○ヒント from “たがさぼ Press” ・その情報、本当に正しい？真偽を検証「ファクトチェック」 ・「働くこと」に関する相談窓口 ・「みんなの小さな声」を集めて、地域の力で解決を探る ○たがさぼからのお知らせ ・「たがさぼ文庫」のご案内 2P ○市民活動はじまりのはじまり ・人も動物もしあわせになる未来をめざして /にゃん太通販「三毛猫にゃん太のショッピングモール」	89号／5月 
1P ○新型コロナウイルス感染症に関連したNPOによる相談窓口 /NPO法人 POSSE 仙台支部、NPO法人ハーティ仙台 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・マスクを手づくり！ ・「新型コロナ対策支援カード」のご紹介 ・市民活動団体にも支援の手を ○たがさぼからのお知らせ ・新型コロナウイルス感染症に関連した支援情報やお役立ち情報を発信中！ 2P ○みんなで考える多賀城のこと ・オンラインでの新たなつながり方/ハッピーピース	90号／6月 

内容（目次）	号数・発行月・表面写真
1P ○海への想い、浜風に乗って「ハマひら」/SEVEN BEACH PROJECT 実行委員会 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・内閣府「令和元年度市民の社会貢献に関する実態調査」の結果が公表されています ・災害に備える『新型コロナウイルス避難生活お役立ちサポートブック』 ・NPO（市民活動団体）のための新型コロナウイルス対応お役立ちサイト ○たがさぼからのお知らせ ・出前活動お役立ち Zoom 講座 2P ○市民活動体験記 ・オンラインワークショップにチャレンジ！ /「壺の碑」全国俳句大会実行委員会/アサノタケフミさん（ミュージシャン）	91号／秋号 
1P ○仲間と一緒に！子どもたちのコロナ禍のチャレンジ /NPO法人みやぎみなとまちづくり市民会議 2P ○みんなで考える多賀城のこと① ・子どもたちの笑顔を守る！コロナ禍の放課後児童クラブ /NPO法人 MIYAGI 子どもネットワーク 3P ○みんなで考える多賀城のこと② ・中学生がまちを点検！身近な防災の取り組み /多賀城市立東豊中学校、NPO法人防災・減災サポートセンター ○お役立ちホットライン ・よりそいホットライン/一般社団法人社会的包摂サポートセンター ・18歳までの子どもがかかる子ども専用電話/NPO法人チャイルドラインみやぎ 4P ○たがさぼからのお知らせ ・いちから塾「今だからやりたい！！小さなアクション講座」 ○ヒント from “たがさぼ Press” ・子どもたちの「オンライン」の居場所を提供しています！ ・多賀城の多文化共生を考える日本語サポーター講座！ ・中高生が主役のNPO応援プロジェクト	92号／冬号 

内容（目次）	号数・発行月・表面写真
1P ○桜の花とともに、未来へ/NPO法人さくら並木ネットワーク 2P ○みんなで考える多賀城のこと ・紙面がつなぐ住民と学生のきずな/一般社団法人復興応援団 3P ○市民活動はじまりのはじまり ・いつの日か、誰かのために 被災者が伝える 3.11 /宮城武雄さん（アマチュアカメラマン） ○ほっと一息コーナー ・歩いて知ろう多賀城の歴史遺産/多賀城市史跡案内サークル 4P ○たがさぼからのお知らせ ・たがさぼのYouTubeチャンネル開設しました！ ○ヒント from “たがさぼ Press” ・日曜ブロッグー「万灯会」/NPOゲートシティ多賀城 ・「3.11」検索は応援になる～あなたの検索が、東北の復興を後押しする～ ・Voice from 3.11 ～東日本大震災から10年、「みなさんの声を、お聞かせください」～	93号／春号 

配架部数										
号数	館内	公共 施設	支援セ ンター	マス コミ	学校	行政	民間施 設店舗	その他	配架部数 合計	発行 部数
88 号（4 月号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
89 号（5 月号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
90 号（6 月号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
91 号（秋号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
92 号（冬号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
93 号（春号）	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
配架部数計	1,200	3,564	990	240	720	480	1,614	756	9,564	12,000

配架個所・配架部数 前年度 3 月比										
今年度 3 月号										
配架部数	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
配架個所数		65	51	21	20	6	34	18	215	
前年度 3 月号										
配架部数	200	594	165	40	120	80	269	126	1,594	2,000
配架個所数		65	51	21	20	6	34	18	215	
配架部数増減	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0
配架個所数増減	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0	±0

* 添付資料 ☐ 「tag」 88 号～93 号

(4) 情報発信事業 2) コロナ禍における市民向け情報発信

目 的	○コロナ禍、新しい生活様式の中でも市民が市民活動の情報を得られる環境を整える。 ○コロナ禍、新しい生活様式の中でも市民が市民活動に参画する機会を整える。
背 景	新型コロナウイルス感染症拡大によって、市民が市民活動の情報を得て、さらに活動に参画するという機会が減少した。 一方で、新しい生活様式において動画共有サービスや Web 会議ツールといった新たな情報収集、コミュニケーションの機会も生まれている。市民活動団体の中にはすでに講座や団体のミーティングでこれらのツールが活用されている。単に新型コロナウイルス感染拡大防止という観点だけでなく、これまでの直接集まる講座や会議では参加できなかった方（遠方の方、時間が取れない方等）が新たに参画する機会にもなっている。 そこで T S C としても、こうしたツールを活用した団体運営・活動の支援をしていくとともに、T S C 自身も情報発信の手段として活用していく。
対 象	○市民活動や地域活動に関して情報を得にくい環境にある市民。特に動画共有サービスの利用率が高い 10 代～30 代 ○メンバー間や市民との新たなコミュニケーション方法を模索している活動者 ○何らかの活動に携わりたいと考えているが、関わり方が分からない潜在的活動者
成果目標	①60 名の市民が T S C の動画コンテンツに関心を示し、定期的に情報を得ようになる。（YouTube 公式チャンネル登録者数で計る） ②30 名の市民が手法として Web 会議等のオンラインツールを活用できるようになる。（講座参加人数と満足度・理解度で計る）
成 果	○動画共有サービス YouTube に「多賀城市市民活動サポートセンターチャンネル」を開設し、18 名の市民がチャンネル登録を行った。市民が動画を通して定期的に市民活動の情報を得る環境が整った。 ○「多賀城市市民活動サポートセンターチャンネル」を観た市民 1 名が、自身でも動画を活用した情報発信をしたいと考え、チャンネルを開設して動画を発信した。T S C がモデルとなって市民の情報発信の機会創出につながった。 ○Web 会議ツールの使い方講座によって計 27 名の市民が、ツールに触れる機会を得て、市民活動の手法が広がった。内 8 名はより実践的にツールを活用するためのアイデアを出し合い、そのアイデアの実験をすることができた。
次年度に向けた課題	○「多賀城市市民活動サポートセンターチャンネル」については、登録者は成果目標の 60 名に達しておらず、特定の市民への発信に留まっている。さらなる周知を図り、より多くの市民にとっての市民活動に関する情報を得る媒体として定着させていく。 ○Web 会議ツールの使い方講座については、単なるツール活用のための技術の学びに終始せず、市民が活動の幅を広げられるような場の創出が必要である。 ○オンラインツールを取り入れることで、これまで活動に参加していなかった層の参画を促すことができるようになった。一方で、ツールに不慣れな層が活動に参加しにくくなるというデメリットもある。今後は、オンラインに不慣れな層を取り残すのではなく、あくまで活動への参加の機会を多様化するという視点が必要となる。

実施概況 (4)情報発信事業 2)コロナ禍における市民向け情報発信

1. Zoom 講座

いずれの講座も参加費は無料

1)活動ははじめの一步 Zoom の使い方講座

【第1回】

日 時：令和2年8月29日(土) 14:00~15:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室

内 容：Web 会議ツール「Zoom」の基礎

講 師：スタッフ渡辺

参加者：10 名

【第2回】

日 時：令和2年10月31日(土) 14:00~15:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 301 会議室

内 容：Web 会議ツール「Zoom」の基礎

講 師：スタッフ渡辺

参加者：6 名

【第3回】

日 時：令和2年11月27日(金) 14:00~15:30

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター 101 会議室

内 容：Web 会議ツール「Zoom」の基礎

講 師：スタッフ櫛田

参加者：3 名

2) ステップアップ Zoom 講座

日 時：令和2年12月13日(日) 13:30~15:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター

共同事務室(オンライン有)

内 容：Zoom の活用方法のアイデア出しとアイデアの実験

講 師：スタッフ櫛田

参加者：4 名

3) 出前 Zoom 講座

日 時：令和3年3月11日(木) 13:30~15:00

会 場：多賀城市市民活動サポートセンター

201 会議室(オンライン有)

内 容：Zoom を使ったパワーポイントでのプレゼン方法

講 師：スタッフ櫛田

参加者：4 名



第1回の様子 感染対策で距離をとって実施



Zoom 画面をスクリーンに映しながら実施



第3回の様子 学び直したいというリピーターの参加もあった

2. YouTube「多賀城市民活動サポートセンターチャンネル」

開設日：令和2年12月26日（土）

登録者：18名（令和3年3月末時点）

動画数：5本（令和2年度）

●投稿動画

- ・個性を織って楽しむ場「さをりひろば余暇よか」

投稿日：令和2年12月26日（土）

内 容：活動の想い、活動の様子、参加者の声

- ・ちがいがつなぐ友達の輪「ともだち・カワン・コミュニティ」
※字幕漢字有りバージョンと字幕ひらがな・カタカナのみバージョンの2本を掲載。

投稿日：令和3年2月19日（金）

内 容：活動の想い、活動の様子、参加者の声

- ・現代にも通じる民話の教訓「多賀城民話の会」

投稿日：令和3年3月15日（月）

内 容：活動のきっかけ、活動の想い、民話語り

- ・「多賀城民話の会」による民話語り10篇

投稿日：令和3年3月19日（金）

内 容：10篇の民話語り

各動画のサムネイル（見本）画像



「さをりひろば余暇よか」



「ともだち・カワン・コミュニティ」

日本語が苦手な方を対象にひらがな・カタカナのみバージョンも制作



「多賀城民話の会」



「多賀城民話の会」による民話語り

アンケート集計結果

1. Zoom 講座

1) 活動ははじめの一步 Zoom の使い方講座

【第1回】回収10（参加10）

①年 代

20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上	無回答
2名	0名	0名	2名	3名	1名	1名	1名

②お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
8名	0名	0名	0名	0名	1名	1名

③講座を何で知ったか（複数回答可）

スタッフより	チラシ・ポスター	HP・ブログ	広報多賀城	新聞	ラジオ	知人・友人	tag	その他
3名	0名	0名	7名	0名	0名	1名	0名	0名

④5段階評価

5	4	3	2	1	平均
4名	6名	0名	0名	0名	4.4

○④の理由

- ・時間が足りなかった。もっと知りたい。
- ・私にとっては未知の世界でした。とても勉強になりました。
- ・招待の方法まで教えていただきかった。とてもわかりやすく教えて頂きました。
- ・Zoomの使い方を改めて確認することができました。
- ・改めて知れたこともあって良かったです。

⑤今後の活用方法・アイデアについて

- ・何か教室に通いたいと思う。（たとえば、あみものなど）
- ・関係する団体のZoom会議に参加。
- ・仲間との情報交換。
- ・資料共有、背景、チャット等より深く学んだので活用していきたい。
- ・知人・家族と会えないが電話だけでは物足りないので活用したい。
- ・ボランティア活動に使えたら良いなあと…。
- ・個人（グループ）傾聴のボランティアに活用を検討します。
- ・今後離れた友人と話したいときに活用していきたいです。
- ・授業、友達との会話、会議、サークルのミーティング。

⑥感想

- ・何となくズームがわかったような気がします。
- ・基本から教えていただき助かりました。

- ・初めてのことでばかりで勉強になりました。
- ・次があれば開催する側の手順を学びたいです。
- ・Zoom とても簡単でした。
- ・機会があったら使い、慣れていきたい。
- ・席をまわって教えて頂きたすかりました。タブレットだと出来ないこともありPCで再度トライします。
- ・Zoomの使い方を改めて確認することができました。また市民の方とコミュニケーションを取ることができて楽しかったです。

【第2回】回収6（参加6）

①年 代

20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	0名	0名	0名	3名	2名	1名

②お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
6名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

③講座を何で知ったか（複数回答可）

スタッフより	チラシポスター	HPブログ	広報多賀城	新聞	ラジオ	知人・友人	tag	その他
0名	1名	0名	5名	0名	0名	0名	0名	0名

④5段階評価

5	4	3	2	1	平均
3名	3名	0名	0名	0名	4.5

○④の理由

- ・時間 30分+30分 余裕があると良かったです。
- ・1回参加したが、何をやっているのか分からなかったのですが、今日、お陰様でかなり理解が進みました。

⑤今後の活用方法・アイデア

- ・Zoom 会議をしてみたい。友達に教えたい。
- ・コロナで友達に会えないのでお茶会などしたいと思います。
- ・サークル内での打ち合わせ・確認等で利用できたら良いかなと思います。
- ・ボランティア活動にいかせるか探ります。但し、Zoom が出来るといった安心感？期待感が心強いと思います。
- ・Zoom での講習を2週間後に受講します。なんとかやれそうです。
- ・自分達のサークルの打ち合わせ。
- ・サークルから Zoom の案内がきているが、まだ参加したことがないのでぜひ入ってみたい。

⑥感想

- ・だんだん少しですが、理解できたかな？
- ・楽しみがふえました

- ・ゆったりと指導いただきました。ありがとうございます。
- ・2回受講してみた。当初から「2回コース」での告知も良かったかと。1回を終えた時点で「開催できない」との思いでしたので、2回目でやっと「出来る、使える！」そんな思いになりました
- ・三人の方々に丁寧にご指導頂き感謝です。お世話になりました。

【第3回】回答3（参加3）

①年 代

20代	30代	40代	50代	60代	70代	80代以上
0名	1名	0名	0名	1名	1名	0名

②お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
3名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

③講座を何で知ったか（複数回答可）

スタッフより	チラシ・ポスター	HP・ブログ	広報多賀城	新聞	ラジオ	知人・友人	tag	その他
1名	0名	0名	2名	0名	0名	0名	0名	0名

④5段階評価

5	4	3	2	1	無回答	平均
2名	0名	0名	0名	0名	1名	5.0

○④の理由

- ・何の知識もなしに申し込んだのがいけなかったかなと思いました。
- ・パスワードが今迄通用せず何故か分からなかったのです、が数字と打つときにシフトを押してしまいました。単純なことが分かっていなかったです。
- ・今後企画する予定があり、講座について参考になったほか、自分も分からない機能も知れました。

⑤今後の活用方法・アイデア

- ・町内会活動に使いたい。
- ・今後5つの講座を受けることになっていますが、かなり不安が解消できました。
- ・事業への活用と友人との交流に使えればと思います。

⑥感想

- ・ipadの起動が上手いかずほとんど趣旨にそわない時間をすごしてしまいました。スタッフの皆さんにご迷惑おかけしました。
- ・丁寧なご指導で、助けて頂きました。
- ・参加人数や内容をどうするかを直接参加して学ぶことができました。

2) ステップアップ Zoom 講座 回答 3 (参加 4)

①年 代

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
0 名	0 名	0 名	3 名	0 名	0 名	0 名

②お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
0 名	0 名	0 名	0 名	1 名	2 名	0 名

③講座を何で知ったか (複数回答可)

スタッフより	チラシ・ポスター	HP ブログ	広報多賀城	新聞	ラジオ	知人・友人	tag	その他
3 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名	0 名

④5 段階評価

5	4	3	2	1	平均
1 名	2 名	0 名	0 名	0 名	4.3

⑤今後の活用方法・アイデア

- ・英語のレッスンで活用
- ・これまでは会員同士のコミュニケーションツールとしての利用でしたが、講座形式の活用も検討しています。
- ・具体的には Zoom もしくは他のオンラインツールを利用した形での英会話レッスンや各種専門講座などを行えたらと考えております。

⑥感想

- ・同室での利用は音の共鳴の点で適さない、参加者が同時に発声することは不可能、使用する機器によって操作方法が若干違う、等々沢山の学びがありました。少人数での実施だったことも、良かったのかと思います。
- ・今回のお試し会に参加された皆さまに改めてお礼申し上げます。小さな最初の一歩でしたが、大切な一歩だと思います。今後どうやって活動を認知して頂くか、など課題に向きあって参りたいと思います。これからもご協力をどうぞ宜しくお願い申し上げます。

3) 出前 Zoom 講座 回答 3 (参加 4)

①年 代

20 代	30 代	40 代	50 代	60 代	70 代	80 代以上
0 名	0 名	2 名	1 名	0 名	0 名	0 名

②お住まい

多賀城市	塩竈市	七ヶ浜町	利府町	松島町	仙台市	その他
0 名	2 名	0 名	0 名	0 名	1 名	0 名

③講座を何で知ったか（複数回答可）

スタッフより	チラシポスター	HPブログ	広報多賀城	新聞	ラジオ	知人・友人	tag	その他
3名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名	0名

④5段階評価

5	4	3	2	1	平均
2名	1名	0名	0名	0名	4.7

⑤今後の活用方法・アイデア

- ・団体の活動だけでなく個人のお菓子教室などでも活用していきたい。
- ・勉強会や面談など
- ・コロナの影響でオンラインが増えてきているので、これからのZoom講座ではパワポ中心に使っていきたいです。今後はプレゼン？啓発でも使っていきたいです。パワポを使つてのチラシ作り！？

⑥感想

- ・初歩的な質問に答えていただいて、とてもわかりやすかったです
- ・パワポデザイン

* 添付資料 ☐ チラシ ☐ 当日配布資料

Ⅱ

令和 3 年度事業計画

大項目	対象	現状(○)と課題(●)	令和2年度 (2020)	令和3年度 (2021)	令和4年度 (2022)	令和4年度末に 目指す姿
地域の 担い手の 育成	市民	○市民活動やボランティアを体験する場をつくることができた ○事業参加をきっかけに、課題解決につながるアクションを起こした人が増加し、またコミュニティも生まれた ○市内外のイベントに出展し、市民活動への理解を広めることができた ●TSCの認知度が低く、また市民活動に興味関心のない人の割合が高い	・地域課題を考える場に参加する ・現在活動している方の事例から学び、活動の入り口を見つける ○市民活動や活動者の想いを知る機会を創出した ○何かやりたい人の想いを深堀した ●何かやりたい人の掘り起こしが不十分	・想いの整理から地域課題へ視野を広げていく ・市民活動に参加する入口をより多く示し、活動に関わる人を増やす		◎社会課題・地域課題や市民活動・地域活動に関心を持つ人が増えている ◎多くの市民が、何らかの形で地域での活動に関わっている
	NPO	○情報発信の支援に重点を置き、講座などの成果を活かした団体が多かった ○団体運営に関する相談が高い割合を占めるようになっている ●担い手不足、資金調達などの課題を持つ団体が多い	・自団体の強み、弱みを分析する力を高め、実際に分析を行う ○ブース利用団体などに対しインキュベート相談などと連携して継続した支援ができた ●日常的に相談対応できるような体制をさらに整え、団体の運営力がアップするタイミングにあわせた支援を行う	・力を借りたい人や団体に自団体のことを発信する ・自団体の強み弱みを知り、団体運営力のアップを図る ・団体が課題に対してのステップアップをより図れるようになる		◎団体の強み、弱みを自己分析し、発信できている ◎連携の対象として、信頼感が増している
	自治会・町内会	○課題を把握するとともに取り組み事例の収集ができた ●自治会・町内会活動の担い手が不足している	・自分の自治会、町内会の現状を知る ・地域の現状や未来について、地域の多くの人が参加できる体制を整える ※TSCとして制度改革後の地域の現状を把握している、関わり方が見えてきている ○地域で当たり前と思っているものを見つけ出し、価値づけできた ●企業・団体とのつながりを広げること ●町内会同士の横のつながりをつくること	・現在の自治会・町内会の枠を超えて、地域の課題、今後ありたい姿やそのためのアクションを考える ・地域内の情報発信を強化する中から、活動への関わり方が広がっている ・アクションのために必要なスキルや知識を学び、実践につなげる	・これまで考えたこと、学んだことを実践に移し、課題の解決につなげる ・他の主体と連携してのアクションやプロジェクトを実施する	◎多様な関わり方による事業が生まれている ◎いろいろな人の小さな力を集めて課題に向かっている ◎運営課題を解決できている
	企業	○課題を把握するとともに取り組み事例の収集ができた ○調査をベースにTSCとの接点が増えた	・新しく知る機会、連携に加わる機会をつくる			◎地域の課題解決の場面に参加している
	支える人材 ※地域包括支援センター、公民館、行政など		・自治会、町内会支援の方向性を共有する ・自治を見つめ直す ・地域の取り組みに伴走する ●地域の取り組みにTSCの視点での伴走を今後していく ●住民自治の方向性を共有する機会をつくることができなかった	・伴走を行うにあたって足りないスキルや知識に気づく ・TSCからNPOの発信だけでなく、多様性や課題の深堀の視点を発信、共有する	・伴走に必要なスキルや知識を学び、実践の場で活かす	◎自治支援の方向性が共有され、連携ができている ◎支援者が、地域や市民からの相談に応じることができている
連携による 課題解決を 進める		○さまざまな主体が設定したテーマについて一緒に考え、課題解決に向けた基盤づくりができた ○企業とNPOとのマッチング事例が生まれた ○第六次総合計画の基本的姿勢の中に、「市民協働を推進する」ための計画であると明記されている	・地域の今(特に自治会・町内会から出るテーマ)を多様な主体で共有し考える ○多様な主体が参加し、課題を共有し、考える機会となった ○多様な主体が参加し、実践する場を継続することができた ●自治会・町内会の課題や参加を軸にできなかった ●市民がより課題解決に向けたアプローチができるようにする	・地域の今(特にNPOの取り組み)を多様な主体で共有し考える ・課題に向けて効果的な関係をつくり、解決の実践の場につなげていく	・連携事例の報告および今後の取り組みを多様な主体で考え、発信する ・取り組みのまとめ冊子作成	◎多様な主体による連携が進んでいる ◎各主体が、連携のよさを感じている
情報発信		○「tag」紙面をリニューアルした ○ウェブサイト、ブログの月平均訪問者数が増えている	・各プロジェクトや連携に関する発信を行う ○市民が市民活動について知る機会が増えた ●各プロジェクトの発信を強化	・各プロジェクトや連携に関する発信を行う ・市民が市民活動に触れる機会を増やし、アクションを起こす人が増える		◎地域づくりについて知る機会が設けられている
TSC 運営主体を 広げる			・他主体との連携を進める			

2. 多賀城市市民活動サポートセンター 令和3年度事業計画

見直しを行ったロードマップに基づき、令和3年度の事業計画を立案した。

大事業	小事業	主な目的	概要(プログラム案)	主な対象	本数	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
地域の担い手育成事業	1 雑貨市等	市民活動に参加する入口をより多く示し、活動に関わる人を増やす	・市民が市民活動に触れる機会の提供 ・団体が市民向けに情報を発信する場の提供 ・市民が活動に参加する機会の提供(ボランティア等) ※開催方法は要検討	市民 (無関心層、役に立ちたい層)	2				●					●			
	2 いちから塾等	・NPOについての知識や想いの整理から、地域課題へ視野を広げていく ・市民活動に参加する入口をより多く示し、活動に関わる人を増やす	・NPO基礎・ステップアップ講座 ・体験型の市民活動に触れる講座(NPO体験会等)	市民 (役に立ちたい層、気づいた層、ボランティアしたい層、学生等)	4		基礎●			体験■		基礎●			ステップ●		
	3 NPO運営パワーアップ事業	・力を借りたい人や団体に自団体のことを発信する ・課題解決につながる団体の運営力のアップを図る ・団体が課題に対してのステップアップを図れるようになる	・インキュベート相談や窓口相談からのスキルアップ講座 ・運営力、発信力アップ講座 ・分野・団体の関わりMAPの作成 ・お役立ち情報の更新	NPO・活動者	3			相談●		イン○		●	●	イン○			イン○
	支える人材の育成	・伴走を行うにあたり、足りないスキル、視点、知識に気づく	・自治に関する共通認識をもつ勉強会や交流会 ・会議参加時にTSC視点で関わる	支える人材 (包括、社協、公民館等)													
自治会・町内会支援事業	4 自治会・町内会支援事業	・現在の自治会・町内会の枠を超えて、地域の課題、今後ありたい姿やそのためのアクションを考える ・地域内の情報発信を強化する中から、活動への関わり方が広がっている ・アクションのために必要なスキルや知識を学び、実践につながる	・各町内会がつながる場づくり ・役員以外が町内会の課題解決に参加する場づくり ・まちの資源や課題を見つけるまちあるき等(防災MAP作成など) ・町内会体験イベント	自治会・町内会 役員でない地域の人	4			●			●		●			●	
連携による課題解決を進める事業	5 連携による課題解決を進める事業	・地域の今を多様な主体で共有し考える(特に自治会・町内会から出るテーマ) ・課題解決に向けて、効果的な関係づくり、解決の実践の場につなげていく	・課題を深掘りし、アイデアを出しあう場 ・当事者視点での町内会の防災まちあるき等、課題解決のための実践的な取り組み ・連携に必要なセクターへのアプローチ ・ユニバーサル視点の発信	NPO・企業・市民等	3		●		●			●			TSR●		
情報発信事業	6 フリーペーパー「tag」発行	・市民が地域づくりについての幅広い情報を得られる環境を整える ・各プロジェクトや連携に関する発信を行う ・市民が市民活動に触れる機会を増やし、アクションを起こす人が増える	・情報紙tag発行(年4回A3) ・地域の魅力を再発見する事業 ・市民参加のtag作成 ・情報提供の場の開拓	活動者 潜在的活動者 無関心層 受益者	5			夏号●	市民■		秋号●			冬号●			春号●
	7 コロナ禍における情報発信事業	・コロナ禍、新しい生活様式の中でも市民が市民活動の情報を得ることができる環境、参画する機会を整える ・市民が市民活動に触れる機会を増やし、アクションを起こす人が増える	・動画によるTSC、他事業との連携での発信、市民活動団体の情報発信	活動者 潜在的活動者 無関心層 受益者	6	ハウツー●		団体●		TSC●		ハウツー●		団体●		TSC●	